

Panasonic

DVCPRO 50

Lap-Top Editor

AJ-LT95

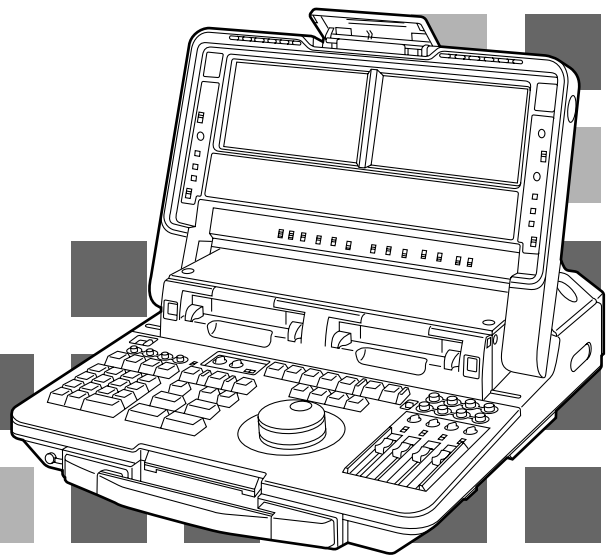
取扱説明書

保証書別添付

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、お受け取りください。
製造番号は、品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

著作権（録画テープの取り扱い）
あなたがビデオで録画したテープは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用はできません。

ACアダプターは専用のAJ-B95を使用してください。



ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保管し、わからないときは再読してください。

上手に使って、上手に節電

ご使用後は、忘れずに電源スイッチを切ってください。

目次

安全上のご注意	4	編集用テープの作成	57
特長	10	アSEMBル編集用テープの作成	57
トップパネルの開閉	11	編集タイトル(文字・記号)の記録	58
各部の名称と働き	12	インサート編集用テープの作成	59
パネル制御部	12	1ST EDITによる方法	59
カウンターディスプレイ部	14	通常記録による方法	59
パネルスイッチ部	17	カット編集の操作	60
AUDIOコントロール部	19	アSEMBル編集	60
編集操作部	22	インサート編集	60
エンコーダコントロール部	28	編集点の登録	61
コネクター部	29	プレビュー	62
セットアップメニューの操作	34	編集の実行	63
ユーザーメモリーと工場出荷設定値	35	レビュー	63
ユーザーメモリーへの登録	35	スプリット編集の操作	64
ユーザーメモリーに登録した値を呼び出す	35	編集IN点の設定を省略して編集する (パークアンドエディット)	65
工場出荷設定値を呼び出す (メニューリセット)	35	編集IN点の設定だけで編集を行う (オープンエンド編集)	65
セットアップメニュー	36	オートタグ編集を行う	65
SYSTEMメニュー	36	静止画編集/スロー編集	66
BASICメニュー	37	TC JUMP機能	66
OPERATIONメニュー	38	ヴォイスオーバー	67
INTERFACEメニュー	40	オーディオクロスチャンネル編集	70
EDITメニュー	41	編集点を確認する (IN、OUT、DUR、GO TO)	73
TAPE PROTECTメニュー	45	編集データの修正・取り消し	74
TIME CODEメニュー	46	編集データの登録・呼び出し	75
VIDEOメニュー	49	マルチイベント編集	76
AUDIOメニュー	51	LAST X/LAST ED/TOTAL	77
LCDメニュー	54		
操作方法	55		
VTR1での外部入力信号の記録	55		
VTR2での外部入力信号の記録	55		
VTR1、VTR2での再生	56		

目次

タイムコードの設定 (T SET)	78
CORCT/TRACK/DISP	81
EDLメモリーの編集データを消す	82
エンコーダー調整	83
編集データを外部機器に転送する (DUMP) / 取り込む (LOAD)	85
スーパーインポーズ画面	89
エラーメッセージ	90
ビデオヘッドクリーニング	92
結露	92
お手入れについて	92
アフターサービス	93
定格	94

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)



このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

安全上のご注意

必ずお守りください

設置について

警告

不安定な場所に置かない！



禁止

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

水場に設置しない！



水場使用禁止

火災・感電の原因となります。

電源コードに重いものを載せない！



禁止

本機の下敷きにならないよう注意してください。
コードが傷ついて、火災・感電を起こすおそれがあります。

コードに重いものを載せない！



禁止

本機の下敷きにならないよう注意してください。
コードが傷ついて、火災・感電を起こすおそれがあります。

付属品・オプションは、指定の製品を使用する！












本体に誤って指定外の製品を使用すると、火災や事故を起こすおそれがあります。

安全上のご注意

必ずお守りください

使用方法について

警告

<p>水場で使用しない！</p>  <p>火災・感電の原因となります。</p> <p>水場使用禁止</p>	<p>表示された電源電圧以外は、使用しない！</p>  <p>火災・感電のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>電源コード・電源プラグが破損するようなことはしない！ 傷つけたり、加工したり、高温部に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない！</p>  <p>傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。</p> <p>禁止</p> <ul style="list-style-type: none">●コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店に、ご相談ください。
<p>機器が濡れたり、水が入らないようにする！</p>  <p>火災・感電のおそれがあります。 雨天・降雪・海岸・水辺での使用は、特にご注意ください。</p> <p>禁止</p>	<p>機器の開口部から異物を差し込んだり、落とし込んだりしない！</p>  <p>火災・感電のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>指定のカバー以外は、外さない！</p>  <p>感電の原因となります。</p> <p>分解禁止</p> <ul style="list-style-type: none">●点検・整備・修理は、お買い上げの販売店に、ご依頼ください。
<p>本機の上に水のいった容器、小さな金属物を置かない！</p>  <p>本機内部にはいると、故障や事故を起こすおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>本機の裏ぶた・キャビネット・カバーなどを外さない！</p>  <p>感電の原因となります。</p> <p>分解禁止</p> <ul style="list-style-type: none">●点検・整備・修理は、お買い上げの販売店に、ご依頼ください。	<p>本機を改造しない！</p>  <p>火災・感電の原因となります。</p> <p>分解禁止</p>

安全上のご注意

必ずお守りください

異常時の処理
について

警告

本機を落としたり、破損した場合は、電源スイッチを切り、電源 (プラグ) を抜く！



電源プラグ
を抜く

そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

本機の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源 (プラグ) を抜く！



電源プラグ
を抜く

そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

本機の内部に異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源 (プラグ) を抜く！



電源プラグ
を抜く

そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態の場合は、電源スイッチを切り、電源 (プラグ) を抜く！



電源プラグ
を抜く

火災・感電の原因となります。

- お買い上げの販売店に、修理をご依頼ください。

電源コードが傷んだ場合は、交換を依頼する！



そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。



- お買い上げの販売店に、ご相談ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

設置について

⚠ 注意









<p>電源コードを熱器具に近づけない！</p> <p> コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となります。 禁止</p>	<p>油煙や湯気が当たる場所に置かない！</p> <p> 火災・感電の原因となることがあります。 禁止</p>	<p>本機の通風孔をふさがない！</p> <p> 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方は、しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">●本機を風通しの悪い所に押し込まない。●テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置かない。
<p>湿気やほこりの多い場所に置かない！</p> <p> 火災・感電の原因となることがあります。 禁止</p>	<p>コネクタを抜くときは、コードを引っ張らない！</p> <p> コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 禁止</p> <ul style="list-style-type: none">●必ずプラグを持って抜いてください。	<p>本機を高温になる自動車内等に放置しない！</p> <p> 故障の原因となることがあります。 禁止</p>
<p>ぬれた手でコネクタを抜き差ししない！</p> <p> 感電の原因となることがあります。 禁止</p>	<p>コードやショルダーベルトを下にたらしさない！</p> <p> ふれたり、引っかかりたりすると、落ちてけがをすることがあります。 禁止</p>	
<p>持ち上げや移動には、十分注意する！</p> <p> 落としたりすると、けがの原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none">●10kg以上の機器は、2人以上で持ち上げるなど、慎重に取り扱ってください。	<p>本機を立てて置く場合は、倒れないように注意する！</p> <p> 倒れたり、壊れたりしてけがの原因となります。</p>	

安全上のご注意

必ずお守りください



使用方法について

⚠ 注意

<p>本機の上に重い物を置かない！</p> <p> バランスがくずれて、落下し、けがの原因となります。</p> <p>禁止</p>	<p>本機に乗らない！</p> <p> 倒れたり、壊れたりし、けがの原因になります。</p> <p>禁止</p>	<p>カセットテープ挿入口に、手をはさまれないように注意する！</p> <p> けがの原因となります。</p> <p>指に注意</p>
<p>専用 AC アダプター以外は、使用しない！</p> <p> 定格外の AC アダプターを使用すると、火災の原因となることがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>移動させる場合は、電源スイッチを切り、プラグを抜き、外部の接続コードを外す！</p> <p> コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>雷が鳴り出したら、使うのをやめる！</p> <p> 落雷すると、感電死につながります。</p> <p>接触禁止</p>
<p>使用時は、安定した場所と、十分な体勢を確保する！</p> <p> けがや死亡につながります。</p>	<p>運転中、運転者は操作や鑑賞をしない！</p> <p> 操作・鑑賞をする場合、必ず車を停止させて行ってください。</p> <p>禁止</p>	

お手入れについて

⚠ 注意

<p>お手入れの際は安全のため、電源スイッチを切り、電源 (プラグ) を抜く！</p> <p> 火災・感電の原因となります。</p> <p>電源プラグを抜く</p>	<p>1年に1度ぐらいは、販売店に内部の掃除の相談を！</p> <p> 本機の内部にほこりがたまったら、使用し続けると、火災・故障の原因となることがあります。</p>	
---	--	--

特 長

小型・軽量

本機は、2台のDVCPRO 50 デジタルVTR、編集コントローラ、2台のLCDモニター、スピーカを一体化した編集パッケージです。

小型・軽量・キャリアブルで、持ち運びが容易にでき、事務機などで気軽に編集作業ができます。

カット編集

アSEMBル編集、インサート編集ができます。

インサート編集は、オーディオ4チャンネルを独立して行うことができます。

DVCPRO フォーマット (25Mbps) 時は、2チャンネル対応です。

多彩な編集機能

編集コントローラ部には10キーを装備し、より高度な編集作業を可能にします。編集データの加工も容易に行うことができます。

また、スプリット編集や静止画/スロー編集、マルチイベント編集など、多彩な機能を搭載しています。

高画質

既存のDVCPRO (25Mbps) の2倍の記録レートを持った、4:2:2 コンポーネント信号記録 (DVCPRO 50) により、高画質を実現しています。

DVCPRO 互換

既存のDVCPRO フォーマット (25Mbps) の記録/再生が可能です。

525i/625i スイッチャブル

セットアップメニュー設定により、525i (インターレース) システムと625i システムを切り替えて使用することができます。

- アナログコンポーネント、アナログコンジット入力は525i専用です。方式変換機能はありません。
- 625i システムの編集は、VTR1 VTR2 の内部接続編集のみで可能です。

L/M カセット対応、最大92分記録

Lカセットで最大92分の記録ができます (AJ-5P92LP 使用時)。

DVCPRO (25Mbps) なら最大184分の記録ができます (AJ-P184LP 使用時)。

SDI インターフェース

4:2:2 シリアルデジタルインターフェースを標準装備しています。

機能的な入出力インターフェース

● アナログ入出力:

それぞれのVTRに、ビデオ (コンジット/コンポーネント)、オーディオの入出力端子を装備。

625iモード時、アナログビデオ入力はできません。

● 9P リモート端子: (525iモードのみ)

それぞれのVTRに、9P リモート端子を装備していますので、外部コントローラからのリモートコントロールが可能です。

またVTR1側の9P リモート端子は、リモートOUTに切り替えることができ、VTR1の操作系で外部VTRをコントロールすることも可能です。

● タイムコード入出力:

1系統のタイムコード入力を装備していますので、VTR1、VTR2のタイムコードジェネレータを外部タイムコードに同期させることができます。

タイムコード出力は、VTR1/VTR2 独立で装備しています。

7インチワイド液晶モニター装備

オンスクリーン設定

きめ細かい機能設定を、オンスクリーンで行うことができます。

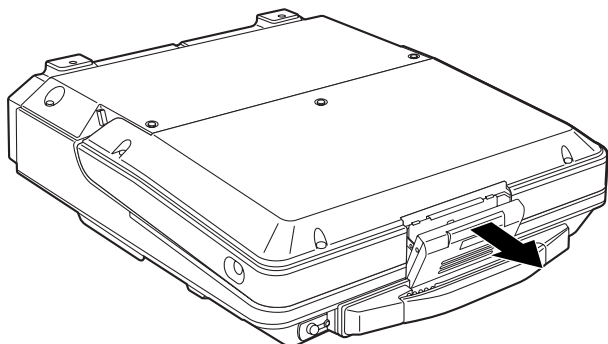
蛍光表示管による集中表示

カウンター、オーディオメータ、VTRの状態表示等、暗い場所でも見やすい蛍光表示管により、集中表示します。

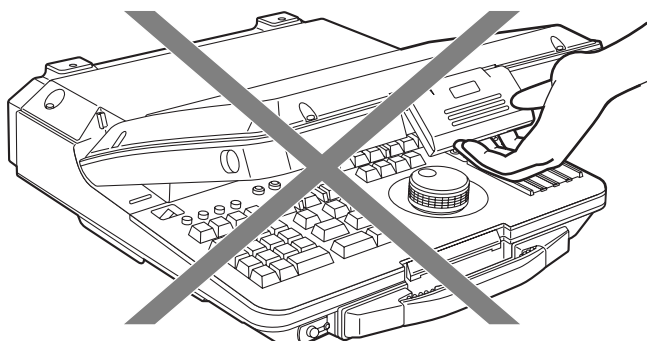
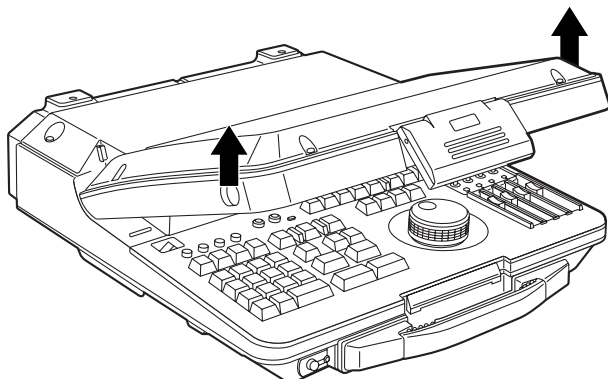
トップパネルの開閉

トップパネルの開き方

1 レバーの上部を引き、ロックを解除します。

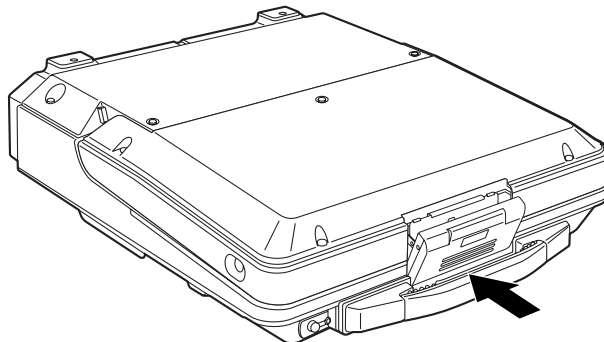


2 トップパネルの両サイドを持ち上げて開きます。
<ノート>
レバーを持ち上げないでください。

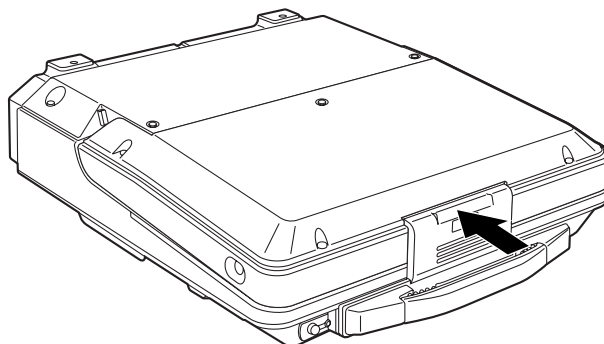


トップパネルの閉じ方

1 トップパネルを閉じ、レバーの下部を引っかけます。

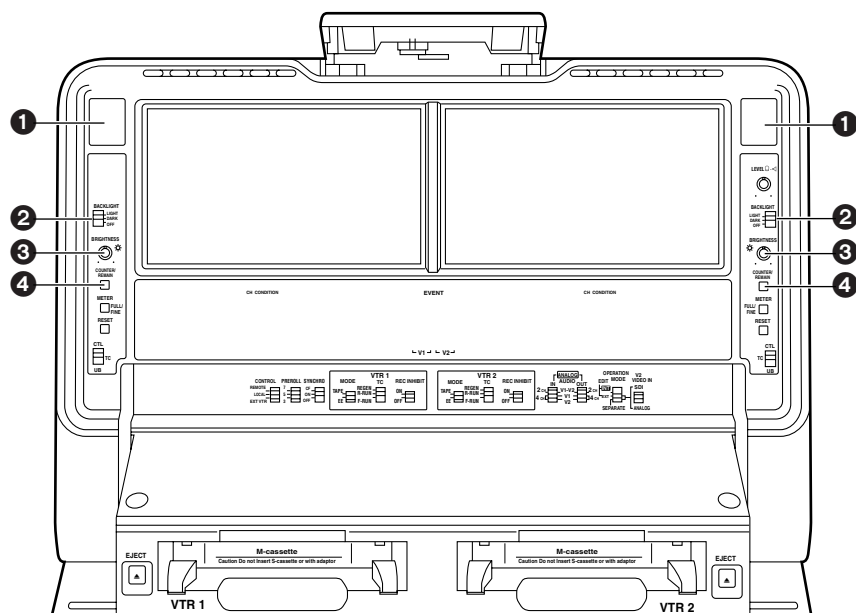


2 レバーの下部を引っかけたまま、レバーの上部を押し上げ、ロックします。



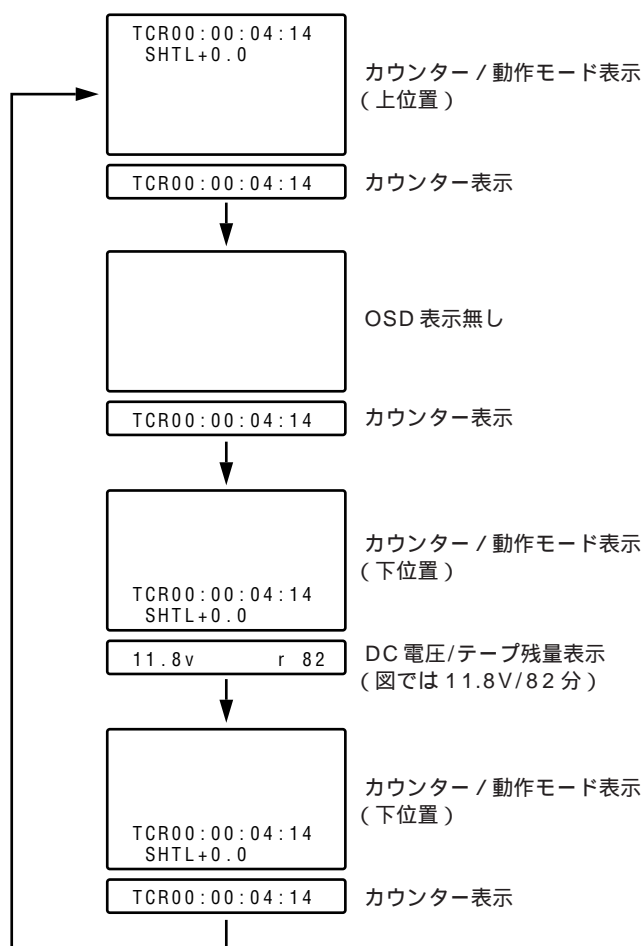
<ノート>
トップパネルの開閉時に、指を挟まないよう注意してください。

各部の名称と働き

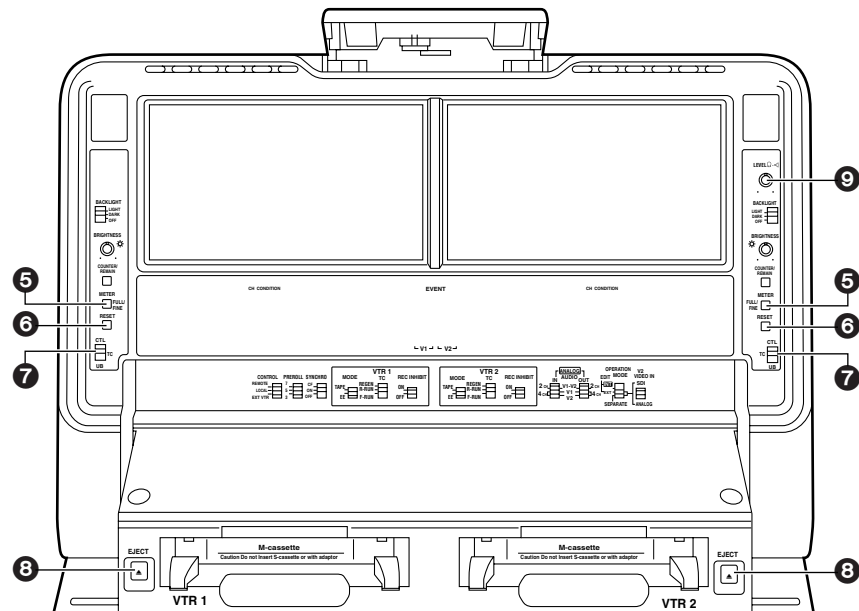


パネル制御部

- ① オーディオモニタースピーカ**
 VTR1 と VTR2 のモニター音を出力します。
 AUDIO MONITOR SELECT スイッチの選択位置によって、VTR1 または VTR2 の音声を選択され、出力します。
- ② LCD スイッチ**
 LCD の電源スイッチ機能と、バックライトの明るさを切り替えるスイッチです。
 LIGHT : 明るく
 DARK : 暗く
 OFF : LCD を消す
- ③ BRIGHTNESS ボリューム**
 LCD モニターの明るさを調整します。
- ④ COUNTER/REMAIN スイッチ**
 表示管の表示内容と、モニター画面上のスーパーインポーズの表示位置を切り替えます。
 スイッチを押す毎に、表示が下記のように切り換わります。



各部の名称と働き



パネル制御部

⑤ METER ボタン

ボタンを押している間、オーディオレベルメータがファインモードになります。(15 ページ参照)

⑥ RESET ボタン

CTL カウンターをリセットします。

⑦ COUNTER スイッチ

CTL : リセット後の CTL パルスのカウントをカウンター表示部に表示します。

RESET ボタンでリセットをします。

TC : 読み出したタイムコードを表示します。

RESET ボタンを押してもリセットされません。

UB : 読み出したタイムコードのユーザビットを表示します。

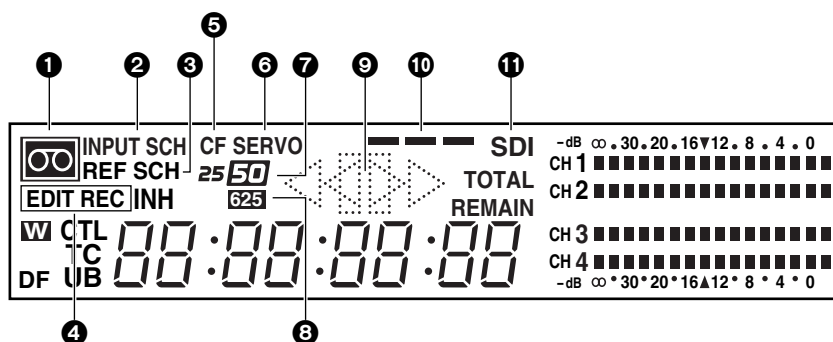
⑧ EJECT ボタン

テープを取り出すときに押します。

⑨ LEVEL ボリューム

内蔵スピーカとヘッドホンの出力レベルを調整します。

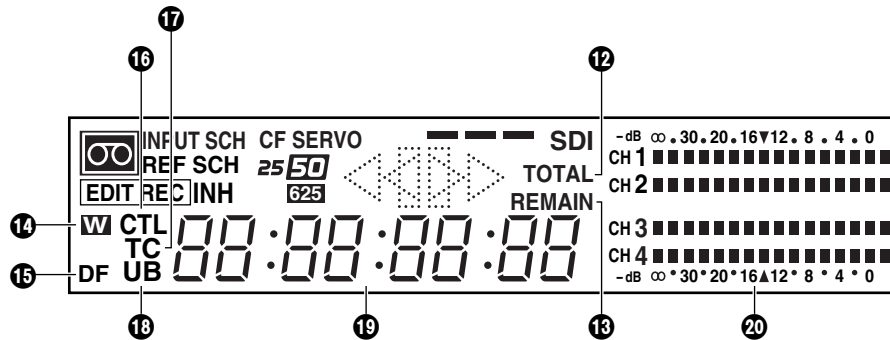
各部の名称と働き



カウンターディスプレイ部

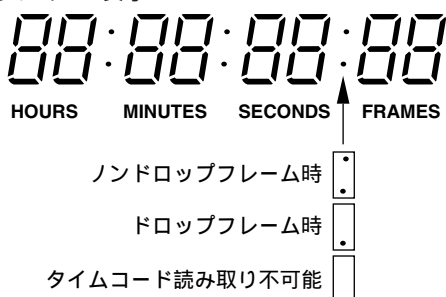
- ①** カセットイン表示
カセットが入っているときに点灯します。
STANDBY OFF モードのとき点滅します。
- ②** INPUT SCH ランプ
外部からビデオ信号が入力されているとき、「INPUT」が点灯します。
アナログコンポジット入力で、SC-H (Sub Carrier to Horizontal) 位相があっているときは、「SCH」も点灯します。
- ③** REF SCH ランプ
REF VIDEO IN 端子にリファレンス信号が入力されているとき、「REF」が点灯します。
リファレンス信号入力で、SC-H 位相があっているときは、「SCH」も点灯します。
- ④** EDIT REC/REC/REC INH ランプ
EDIT REC : 編集記録状態のときに点灯します。
REC : 記録状態のときに点灯します。
REC INH : 記録禁止状態のときに点灯します。
- ⑤** CF ランプ
カラーフレームがロックしたときに点灯します。
- ⑥** SERVO ランプ
サーボロックしたときに点灯します。
- ⑦** 25/50 ランプ
25 : DVCPR (25Mbps モード) の記録 / 再生時に点灯します。
50 : DVCPR50 (50Mbps モード) の記録 / 再生時に点灯します。
- ⑧** 625i ランプ
625i の TV システムが選択されているときに点灯します。
- ⑨** 動作モード
▶ : 通常再生・記録時
▶▶ : 1 倍速未満の再生時
▶▶▶ : 1 倍速より速い速度の再生時
▶▶▶▶ : FF 時
◀ : 1 倍速の逆方向再生時
◀◀ : 1 倍速未満の逆方向再生時
◀◀◀ : 1 倍速より速い速度の逆方向再生時
◀◀◀◀ : REW 時
◻◻ : PAUSE/STILL 時
- ⑩** チャンネルコンディションランプ (緑 ▶ 青 ▶ 赤)
緑 : ビデオ再生信号または、オーディオ再生信号のエラーレートが良好なときに点灯します。
青 : ビデオ再生信号または、オーディオ再生信号のいずれかのエラーレートが悪化したときに点灯します。
このランプが点灯しても、再生画や再生音は正常です。
赤 : ビデオ / オーディオ再生信号のいずれかに、修整や補間がかかったとき点灯します。
- ⑪** SDI ランプ
点灯している VTR の信号が、SDI OUT 端子から出力されます。
セットアップメニュー No. 174 (SDI OUT) で VTR1 か VTR2 かを選択します。

各部の名称と働き

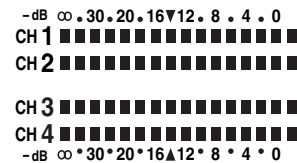


カウンターディスプレイ部

- ⑫ TOTAL ランプ
編集のトータル時間を表示しているときに点灯します。
- ⑬ REMAIN ランプ
テープ残量を表示しているときに点灯します。
- ⑭ W ランプ
ワイドモード時に点灯します。
- ⑮ DF ランプ
ドロップフレーム時に点灯します。
- ⑯ CTL ランプ
タイムカウンターが、CTL カウンター表示のときに点灯します。
- ⑰ TC ランプ
タイムカウンターが、タイムコード表示のときに点灯します。
- ⑱ UB ランプ
タイムカウンターが、ユーザーズビット表示のときに点灯します。
- ⑲ タイムカウンター表示



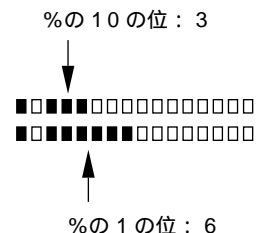
⑳ オーディオレベルメータ



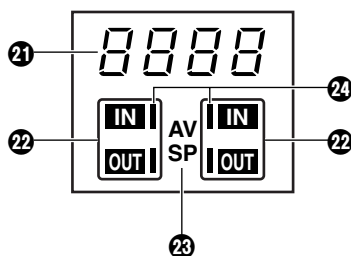
METER ボタンを押すと、オーディオレベルメータがファインモードになります。

▼ マークを基準レベル (525i モード: -20dB、625i モード: -18dB、) として、1 目盛を 1dB 間隔に設定されています。外部から基準レベルの音声信号を入力して、記録レベルを調整できます。また、無記録テープやテープの無記録部分の再生、FF、REW 等をするとき、オーディオレベルメータがテープ位置の表示モードになり、現在のテープ走行位置を % で表示します。

表示例: テープ始端から 36% の位置を走行中



各部の名称と働き



カウンターディスプレイ部

① イベント番号表示ランプ

本機は、200個(001～200)までの編集データを、3桁のイベント番号で管理します。

編集の状態により下記の表示になります。

n### : ###番のイベントが、EDL(編集リスト)に登録されていない、新しいイベントであることを示します。(ニューイベント)

d### : ###番のイベントが、EDLから削除されたイベントであることを示します。

: ###番のイベントが、EDLに登録されていることを示します。

FULL : 200個のイベント全てに登録された状態を示します。

---- : リモートスイッチまたは、OPERATION MODEスイッチが、「SEPARATE」になっているときに表示されます。

r S t : 電源が立ち上がったときに、リセット処理を行ったとき表示されます。

r### : 編集実行済みのイベントを示します。

② スプリット編集点設定表示ランプ

スプリット編集点を設定したVTRの、INランプの横に点灯します。

③ 編集点設定表示ランプ (IN/OUTランプ)

設定された編集点のランプが点灯します。

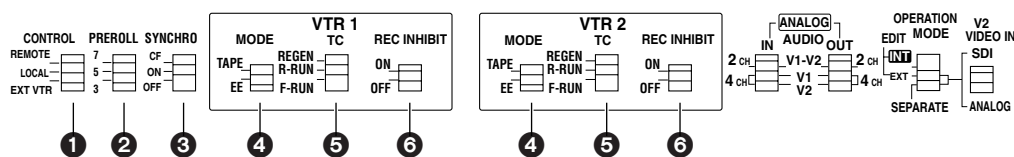
④ スプリット編集表示ランプ (A SP、V SPランプ)

スプリット編集設定時に点灯します。

セットアップメニュー No. 375 (SPLIT EDIT) を「AUDIO」に設定し、スプリット編集点を登録すると「A SP」が点灯して、オーディオスプリット編集モードであることを示します。

また、「VIDEO」に設定し、スプリット編集点を登録すると「V SP」が点灯して、ビデオスプリット編集モードであることを示します。

各部の名称と働き



パネルスイッチ部

① CONTROL スイッチ

REMOTE : REMOTE 端子 (9P) から本機をコントロールするとき。

LOCAL : 本機のフロントパネルから、本機をコントロールするとき。

EXT VTR : 本機のフロントパネルから、外部 VTR をコントロールするとき。
VTR1 側の 9P 端子に接続した VTR を、VTR1 側の操作系によりコントロールできます。

< ノート >

625i モード時は、強制的に「LOCAL」になります。

② PREROLL スイッチ

プリロール時間を 3 秒、5 秒、7 秒に設定します。
調相が間に合わない等、編集に失敗したときは、プリロール時間が自動的に 1 ランク長くなります。
(7 秒設定時は、7 秒のままになります。)

③ SYNCHRO スイッチ

調相やカラーフレーミングを設定します。
CF : 調相して、カラーフレーミングを行います。
ON : 調相しますが、カラーフレーミングは行いません。
OFF : 調相しません。

④ TAPE/EE スイッチ

STOP、FF、REW 時に出力される信号を選択します。
TAPE : テープから再生される信号を出力します。
EE : 入力切り替えされた入力信号を出力します。

⑤ TC ジェネレータスイッチ

REGEN : セットアップメニュー No. 570 (REGEN SEL) で選択したタイムコードに、内蔵タイムコードジェネレータが同期します。

R-RUN : 記録中のみ、タイムコードが歩進します。(プリセット可能)

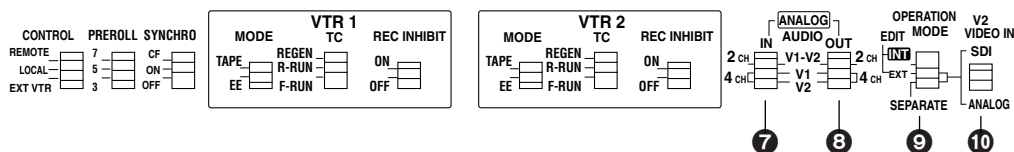
F-RUN : 電源が投入されている間、動作モードに関係なくタイムコードが歩進します。(プリセット可能)

⑥ REC INHIBIT スイッチ

カセットテープへの記録を選択します。
ON : カセットテープへの記録を禁止します。
このとき表示管内の REC INH ランプが点灯します。

OFF : カセットテープの誤消去防止機構が記録可能のときに、テープへの記録が可能です。

各部の名称と働き



パネルスイッチ部

⑦ ANALOG AUDIO IN スイッチ

4 個のアナログオーディオ入力端子（後面パネル）への割り当てを設定します。

V1-V2（2ch）：

4 個の入力のうち VTR1 側の 2 個を VTR1 に入力し、VTR2 側の 2 個を VTR2 に入力します。

V1（4ch）：

4 個の入力を VTR1 の 4 チャンネルに割り当てます。

V2（4ch）：

4 個の入力を VTR2 の 4 チャンネルに割り当てます。

⑧ ANALOG AUDIO OUT スイッチ

4 個のアナログオーディオ出力端子（後面パネル）への割り当てを設定します。

V1-V2（2ch）：

4 個の出力のうち VTR1 側の 2 個は、VTR1 から出力し、VTR2 側の 2 個は、VTR2 から出力します。

V1（4ch）：

4 個の出力を VTR1 の 4 チャンネルに割り当てます。

V2（4ch）：

4 個の出力を VTR2 の 4 チャンネルに割り当てます。

⑨ OPERATION MODE スイッチ

INT：

VTR1 から VTR2 へ、内部接続で編集を行うモードです。VTR1 の記録は禁止されます。

EXT：

VTR1 から VTR2 へ、外部アナログ接続で編集を行うモードです。VTR1 の記録は禁止されます。

SEPARATE：

VTR1 と VTR2 を独立で動作させるモードです。

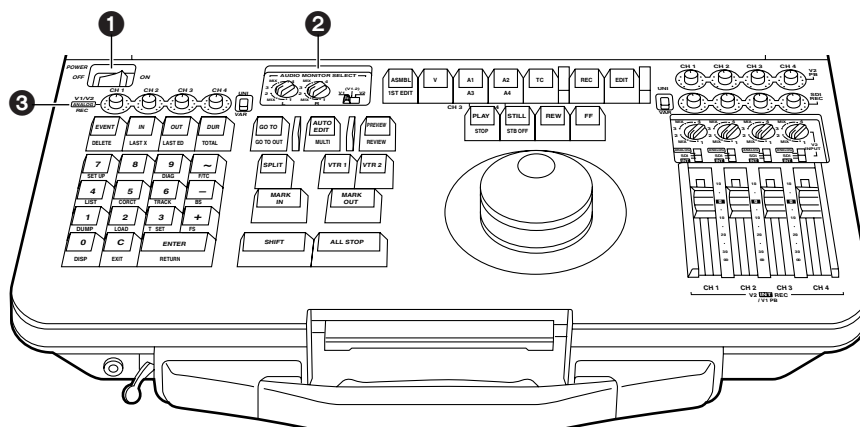
⑩ V2 VIDEO 入力切り替えスイッチ

OPERATION MODE スイッチが、「EXT」または「SEPARATE」の位置のときに、VTR2 側のビデオ入力を選択します。

SDI：シリアルデジタルビデオ信号を入力します。

ANALOG：アナログビデオ信号を入力します。

各部の名称と働き



AUDIO コントロール部

① POWER スイッチ

本機の電源を制御します。

② AUDIO MONITOR SELECT スイッチ

オーディオモニター出力および、スピーカ出力を選択します。

● V1/V1.2/V2 スイッチ

V1 : VTR1 の音声を L 側と R 側に出力します。

V1.2 : VTR1 の音声を L 側に出力し、VTR2 の音声を R 側に出力します。

V2 : VTR2 の音声を L 側と R 側に出力します。

● L (V1) スイッチ、R (V2) スイッチ

選択した音声チャンネルを L (R) に出力します。

1 と 2 の間の MIX は、1ch と 2ch の MIX 信号を出力し、3 と 4 の間の MIX は、3ch と 4ch の MIX 信号を出力します。

③ アナログオーディオ記録レベル調整ボリュームと UNI/VAR スイッチ

後面パネルのアナログオーディオ入力端子 (XLR) 1 個に、調整ボリューム 1 個がそれぞれ対応します。

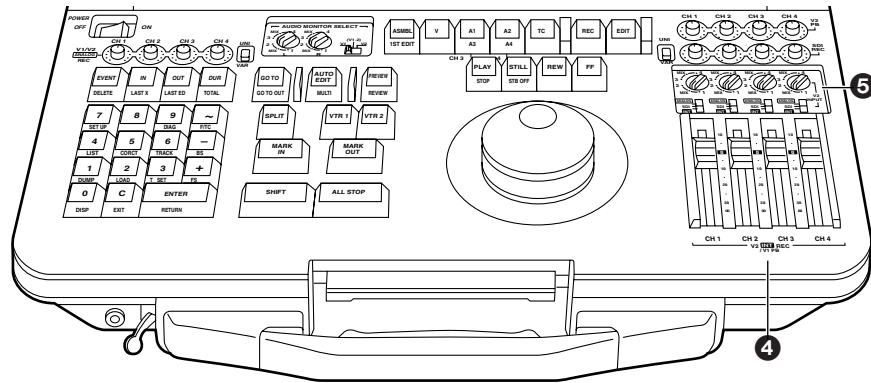
UNI/VAR スイッチが「VAR」のときは、音声の記録レベルを入力チャンネル毎に調整できます。

UNI/VAR スイッチが「UNI」のときは、調整ボリュームの位置に関係なく、初期値に固定されます。

< ノート >

セットアップメニュー No. 172 (VTR1 IN SEL) を「V2 IN」に設定し、VTR1/2 に同じ音声を記録する場合、本調整ボリュームで VTR1/2 共にレベル調整されます。(VTR1 と VTR2 のそれぞれを独立させて、レベル調整することはできません。)

各部の名称と働き

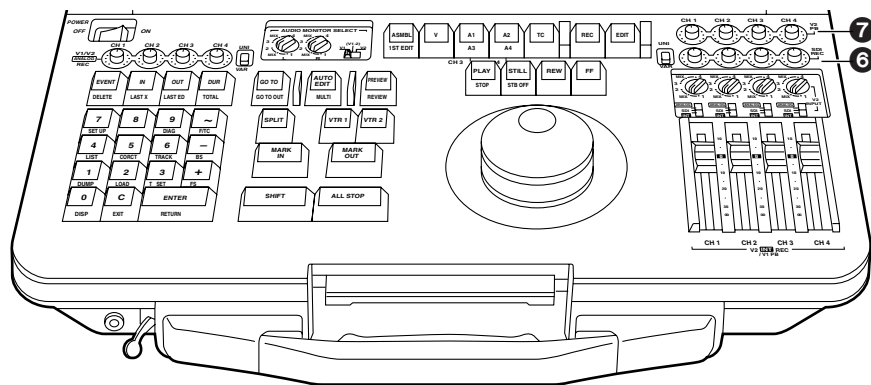


AUDIO コントロール部

- ④ V1 オーディオ再生レベル調整ボリューム / V2 INT オーディオ記録レベル調整ボリューム
VTR1 側の再生音声レベルをチャンネル毎に調整できます。
同時に、VTR1 から VTR2 への編集時の音量調整に使用します。
細かく滑らかな調整ができるように、スライド式の調整ボリュームを採用しています。
「0」表示の位置が基準レベルになります。
(525iモード： - 20dB、625iモード： - 18dB)

- ⑤ V2 AUDIO 入力切り替えスイッチ
VTR2 の各オーディオチャンネルに入力される音声を選択します。
- INT/SDI/ANALOG スイッチ
INT :
VTR1 の音声信号を、内部デジタル接続で VTR2 に入力します。レベル調整ボリューム ④ にてレベル調整できます。
SDI :
SDI 端子に入力された SDI エンベデッド音声信号を VTR2 に入力します。
レベル調整ボリューム ⑥ にてレベル調整できます。
ANALOG :
アナログ入力された音声を VTR2 に入力します。
レベル調整ボリューム ③ にてレベル調整できます。
 - ch 選択スイッチ
INT/SDI/ANALOG スイッチで選択した音声信号を、本スイッチで選択した VTR2 のチャンネルに入力します。
1 と 2 の間の MIX は、1ch と 2ch の MIX 信号を入力し、3 と 4 の間の MIX は、3ch と 4ch の MIX 信号を入力します。

各部の名称と働き



AUDIOコントロール部

⑥ SDI オーディオ記録レベル調整ボリュームとUNI/VAR スイッチ

SDI入力端子（後面パネル）より入力される重畳音声の各チャンネルに、各調整ボリュームが対応します。

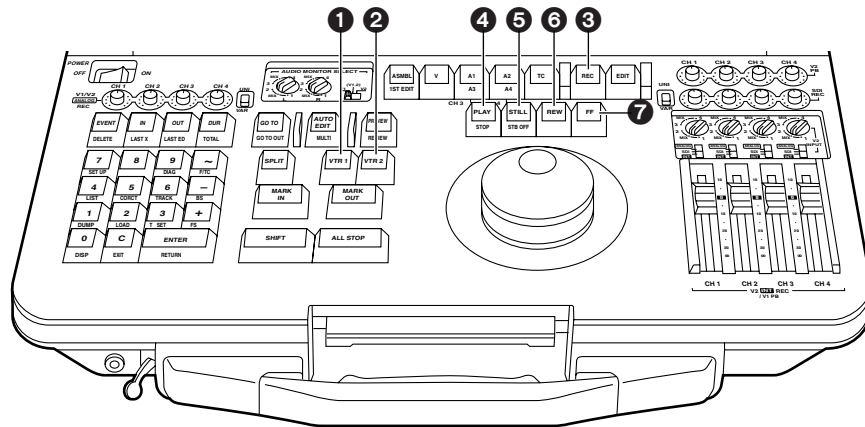
UNI/VAR スイッチが「VAR」のときは、音声の記録レベルを入力チャンネル毎に調整できます。

UNI/VAR スイッチが「UNI」のときは、調整ボリュームの位置に関係なく、初期値に固定されます。

⑦ V2 オーディオ再生レベル調整ボリューム

VTR2 側の再生音声レベルを、チャンネル毎に調整できます。

各部の名称と働き



編集操作部

① VTR1 選択ボタン

VTR1 側の編集設定や操作を行うときに、このボタンを押します。

VTR1 側の編集設定や操作を行うときは、LEDの点灯を確認してください。

② VTR2 選択ボタン

VTR2 側の編集設定や操作を行うときに、このボタンを押します。

VTR2 側の編集設定や操作を行うときは、LEDの点灯を確認してください。

< ノート >

([SHIFT] + [VTR1]) または ([SHIFT] + [VTR2]) にて、VTR1 と VTR2 の同時操作モードになり、①②のLEDが点灯します。

同時操作モードを解除するときは、VTR1 ボタンまたは、VTR2 ボタンを押します。

同時操作モードで、編集設定やメニュー設定を同時にすることはできません。

③ REC ボタン

手で記録モードにするとき、このボタンとPLAYボタンを同時に押します。

VTR1は、OPERATION MODEスイッチが「SEPARATE」のときのみ記録できます。

REC INHIBITスイッチが「OFF」のときにこのボタンを押すと、押している間VTR2のビデオ/オーディオch1～ch4信号がE-Eモードになります。

④ PLAY (STOP) ボタン

PLAY :

VTRを再生モードにするときに、このボタンを押します。

STOP ([SHIFT] + [PLAY]) :

VTRをSTOPモードにするときに、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押します。

⑤ STILL (STB OFF) ボタン

STILL :

静止画モードにするときに、このボタンを押します。

STB OFF ([SHIFT] + [STILL]) :

静止画モードや停止モードで、スタンバイモードを解除するときに、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押します。

⑥ REW ボタン

テープを巻き戻すときに、このボタンを押します。

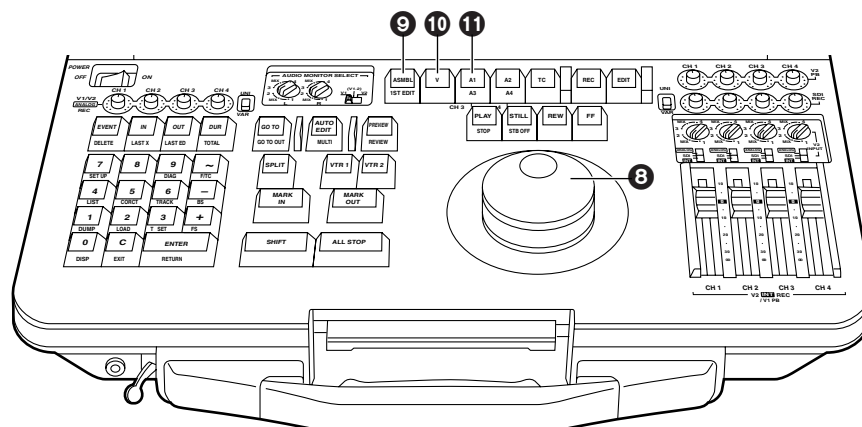
⑦ FF ボタン

テープを早送りするときに、このボタンを押します。

< ノート >

REWボタンとFFボタンを同時に押すと、テープ走行は停止します。

各部の名称と働き



編集操作部

⑧ サーチダイヤル

テープ走行をコントロールします。
編集点を探するときや、再生時に使用します。
ダイヤルが上がっている状態では、シャトルモードになり、押し込むとジョグモードになります。
ダイヤルを押す毎に、この2つのモードが切り替わります。

⑨ ASMBL (1ST EDIT) ボタン

ASMBL :
アセンブル編集を行うときに、このボタンを押します。
編集を行うときは、LEDの点灯を確認してください。

1ST EDIT ([SHIFT] + [ASMBL]) :

編集用テープには、あらかじめブラックバースト信号やタイムコード、CTL信号をテープに記録しておく必要があります。この操作を行うときに、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押します。
詳しくは57ページ「編集用テープの作成」を参照してください。

⑩ V ボタン

ビデオインサート編集を行うときに、このボタンを押します。
編集を行うときは、LEDの点灯を確認してください。

⑪ A1 (A3) ボタン

A1 :

オーディオch1のインサート編集を行うときに、このボタンを押します。
編集を行うときは、LEDの点灯を確認してください。

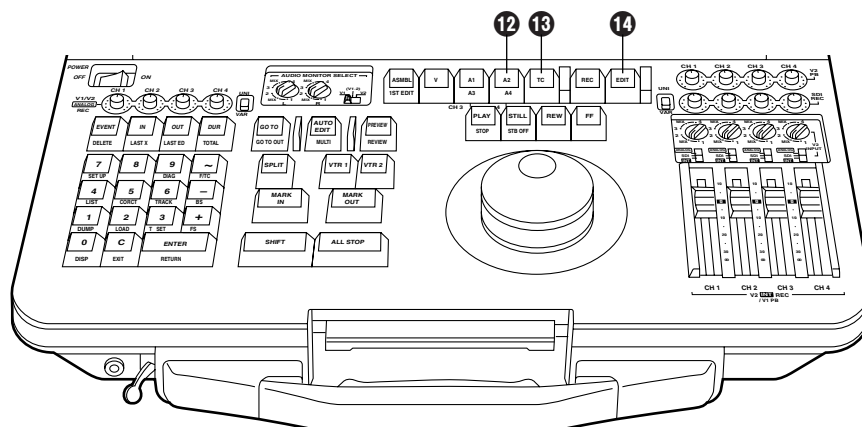
A3 ([SHIFT] + [A1]) :

オーディオch3のインサート編集をするときに、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押します。
編集を行うときは、LEDの点灯を確認してください。

< ノート >

25Mbpsモード時にもA3のLEDが点灯しますが、ch3の編集はできません。

各部の名称と働き



編集操作部

⑫ A2 (A4) ボタン

A2 :

オーディオ ch2 のインサート編集を行うときに、このボタンを押します。

編集を行うときは、LED の点灯を確認してください。

A4 ([SHIFT] + [A2]) :

オーディオ ch4 のインサート編集をするときに、SHIFT ボタンを押しながらこのボタンを押します。

編集を行うときは、LED の点灯を確認してください。

< ノート >

25Mbps モード時にも A4 の LED が点灯しますが、ch4 の編集はできません。

⑬ TC ボタン

タイムコードのインサート編集を行うときに、このボタンを押します。

編集を行うときは、LED の点灯を確認してください。

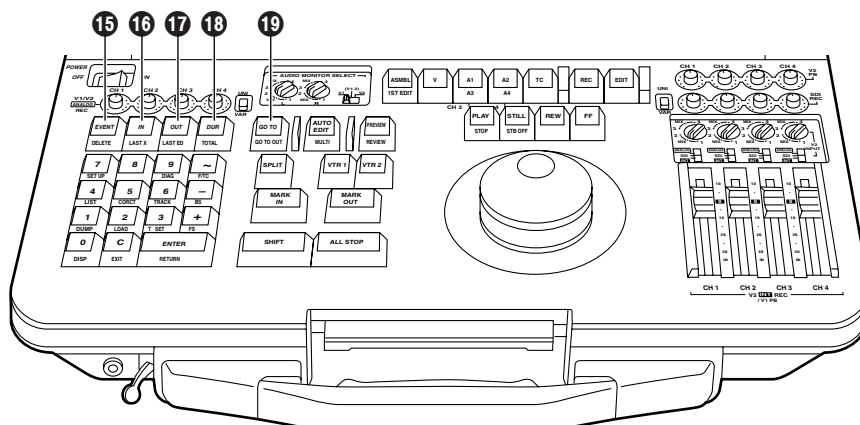
⑭ EDIT ボタン

VTR2 を再生中にこのボタンを押すと、押している間、設定された編集モード (ASMBL, A1, A2, A3, A4, TC) に従って E-E モードになります。(セレクト E-E)

VTR2 を再生中に PLAY ボタンと同時にこのボタンを押すと、設定された編集モード (ASMBL, A1, A2, A3, A4, TC) で編集に入ります。(マニュアル EDIT)

マニュアル EDIT を終了するには、ALL STOP ボタンを押します。

各部の名称と働き



編集操作部

⑮ EVENT (DELETE) ボタン

EVENT :

イベント番号を変更するとき、このボタンを押した後、数値入力ボタンでイベント番号を入力し、ENTER ボタンを押します。

DELETE ([SHIFT] + [EVENT]) :

登録されているイベントを削除します。
イベント番号表示部に「d」が表示されます。

⑯ IN (LAST X) ボタン

IN :

編集IN点の設定や表示を行うときに、このボタンを押します。

LAST X ([SHIFT] + [IN]) :

一度削除したイベントを再登録するとき、SHIFT ボタンを押しながらこのボタンを押します。
表示部の「d」が、無表示に変わります。

⑰ OUT (LAST ED) ボタン

OUT :

編集OUT点の設定や表示を行うときに、このボタンを押します。

LAST ED ([SHIFT] + [OUT]) :

以前にPREVIEWしたデータに戻すときに、SHIFT ボタンを押しながらこのボタンを押します。

⑱ DUR (TOTAL) ボタン

DUR :

デュレーションの設定や表示を行うときに、このボタンを押します。

TOTAL ([SHIFT] + [DUR]) :

編集の合計時間をVTR2側に表示するときに、SHIFT ボタンを押しながらこのボタンを押します。

⑲ GO TO (GO TO OUT) ボタン

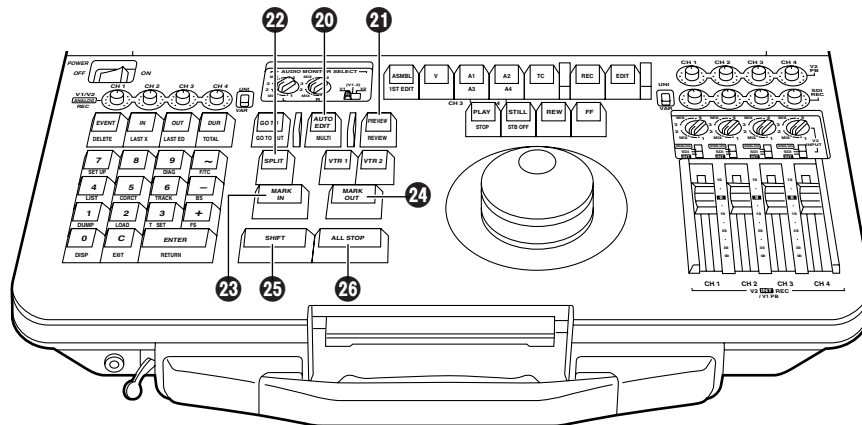
GO TO :

編集IN点が設定されている状態で、テープを編集IN点に頭出しするときに、このボタンを押します。

GO TO OUT ([SHIFT] + [GO TO]) :

編集OUT点が設定されている状態で、テープを編集OUT点に頭出しするときに、SHIFT ボタンを押しながらこのボタンを押します。

各部の名称と働き



編集操作部

20 AUTO EDIT/END (MULTI EDIT) ボタン

AUTO EDIT/END :

自動編集するときに、このボタンを押します。
OUT点を設定せず(オープンエンド)に編集を実行した場合、このボタンを押すと編集が終了して、押した点をOUT点として登録します。

MULTI EDIT ([SHIFT] + [AUTO EDIT]) :

マルチイベント編集するときに、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押します。

最後のイベントの編集が終了するまで、または、ALL STOPボタンを押して強制終了するまで、マルチイベント編集を自動的に実行します。

21 PREVIEW (REVIEW) ボタン

PREVIEW :

編集のリハーサルを行うときに、このボタンを押します。

REVIEW ([SHIFT] + [PREVIEW]) :

編集結果の確認を行うときに、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押します。

22 SPLIT ボタン

スプリット編集を行うときに、このボタンを押します。

LEDの点灯を確認して、スプリットするIN点を設定します。

23 MARK IN ボタン

VTRのタイムコードやCTLを読み取って、編集IN点を設定するときに、このボタンを押します。

SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、スプリットのIN点を設定します。

24 MARK OUT ボタン

VTRのタイムコードやCTLを読み取って、編集OUT点を設定するときに、このボタンを押します。

25 SHIFT ボタン

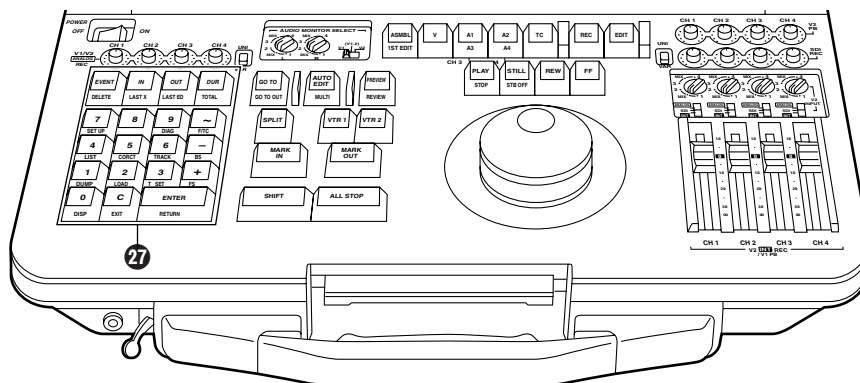
各ボタンの下に表示されている機能を使うときに、このボタンを押しながら操作します。

26 ALL STOP ボタン

全てのVTRを停止させるときに、このボタンを押します。

編集中 (PREVIEW, EDIT, REVIEW) は、その動作を中止します。

各部の名称と働き



編集操作部

②7 数値入力ボタン

0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9 :

編集データなどを、数値で入力して設定するときに使用します。

C :

入力した数値や編集データを取り消すときに使用します。

+ / - :

編集データの変更や、SET UPなどで設定内容を変更するときに使用します。

ENTER :

編集データなどを数値で入力するときに使用します。

DISP ([SHIFT] + [0]) :

LCD モニター画面へのスーパーインポーズのON/OFFを切り替えます。

DUMP ([SHIFT] + [1]) :

外部機器へ編集データ (EDL) を転送するときに押します。

LOAD ([SHIFT] + [2]) :

編集データ (EDL) を、外部機器から内部のEDLメモリーに取り込むときに押します。

T SET ([SHIFT] + [3]) :

TC ジェネレータスイッチがプリセット (R-RUN、F-RUN) のときに、タイムコードジェネレータの初期値を設定します。

LIST ([SHIFT] + [4]) :

編集データをモニター画面に表示するときに使用します。

CORCT ([SHIFT] + [5]) :

EDLメモリーに登録済みの編集データを変更するときに押します。

TRACK ([SHIFT] + [6]) :

タイムトラック処理を行うときに押します。

SET UP ([SHIFT] + [7]) :

システム全体の設定を行うときに押します。モニター画面にセットアップメニューが表示されます。

DIAG ([SHIFT] + [9]) :

DIAG MENUなどを表示します。

F/TC ([SHIFT] + [~]) :

数値を入力するとき、タイムコードで入力するかフレーム単位で入力するかを切り替えます。

FS ([SHIFT] + [+]) :

次のイベントに変更するときに押します。

BS ([SHIFT] + [-]) :

1つ前のイベントに変更するときに押します。

EXIT ([SHIFT] + [C]) :

編集点などのデータ入力を途中でやめるときに押します。

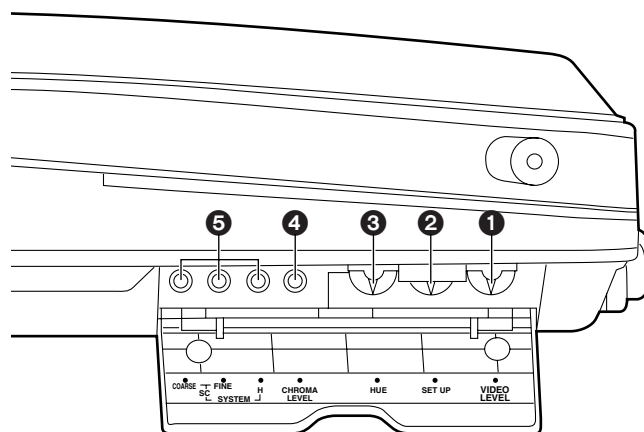
セットアップモードのときは、設定した内容を破棄してセットアップモードを終了します。

RETURN ([SHIFT] + [ENTER]) :

編集点などのデータ入力を途中でやめるときに押します。

セットアップモードのときは、設定した内容を確定します。

各部の名称と働き



VTR1 側 (側面)

エンコーダコントロール部 (VTR1 側)

外部に出力するビデオ信号について、エンコーダ調整、システム調整することができます。

< ノート >

VTR2 側は、左右逆配列になっています。

① VIDEO LEVEL つまみ

ビデオ出力信号のビデオレベルを調整します。

② SET UP つまみ

ビデオ出力信号のセットアップレベルを調整します。

③ HUE つまみ

ビデオ出力信号のヒューを調整します。

④ CHROMA LEVEL つまみ

ビデオ出力信号のクロマレベルを調整します。

⑤ SYSTEM つまみ

リファレンスビデオ信号を入力して、同期させる
ときのシステム調整を行います。

H :

システムの水平位相調整を行います。(サブキャ
リア周期単位で調整します)

SC FINE :

システムのサブキャリア位相調整を行います。
(90度 [P-P] の連続調整ボリュームです)

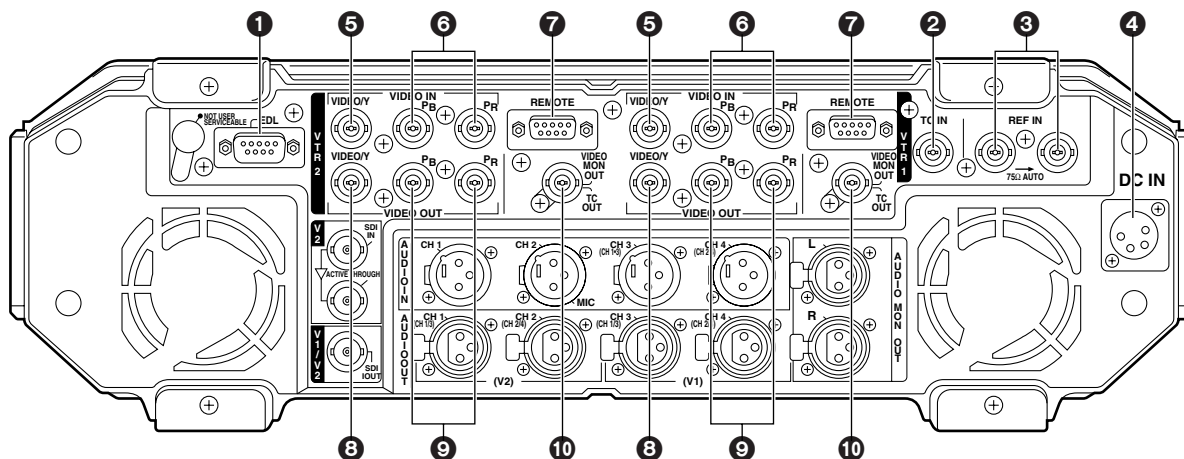
SC COARSE :

システムのサブキャリア位相調整を行います。
(90度単位の4ポジションスイッチです)

< ノート >

625iモード時、VTR1側のシステム調整を行っても、
位相が合わない場合があります。

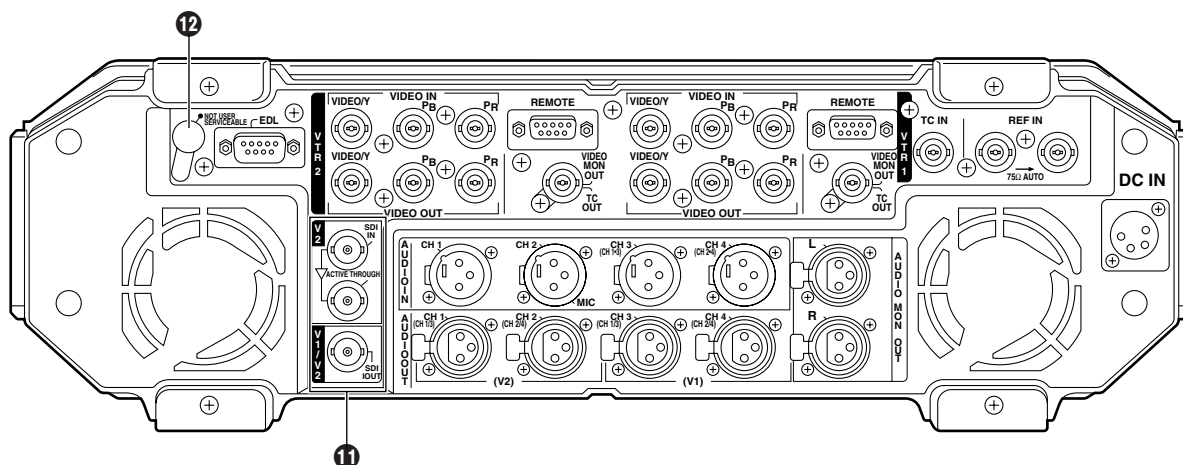
各部の名称と働き



コネクター部

- ① EDL 端子 (D-SUB 9P)**
 編集データのアップロードやダウンロードを行うときに、パソコン等の外部機器を接続します。
- ② TC IN 端子 (BNC)**
 外部 LTC を入力します。
- ③ REF VIDEO IN 端子 (BNC × 2、ループスルー)**
 75 自動終端です。
 標準アナログコンポジット信号を入力してください。本機のビデオ出力を、入力された信号に同期させます
- ④ DC IN 端子 (XLR 4P)**
 DC 電源の入力端子です。
 電源には、必ず別売品 AJ-B95 をお使いください。それ以外の電源でのご使用は、保証できません。
- ⑤ VIDEO/Y IN 端子 (BNC)**
 アナログコンポジット信号または、アナログコンポーネントの Y (輝度) 信号入力端子です。
 セットアップメニュー No. 670 (V IN SEL) で切り替えます。
- ⑥ PB、PR IN 端子 (BNC)**
 アナログコンポーネントの PB/PR 信号入力端子です。
- ⑦ REMOTE 端子 (D-SUB 9P)**
 (525i モード時のみ)
 RS-422A 準拠のリモート端子です。
 外部コントローラから本機をコントロールできます。
 また、VTR1 側のリモート端子は、CONTROL スイッチを「EXT VTR」にすることにより、REMOTE OUT 端子に切り替わります。
 本機 VTR1 操作系より外部に接続した VTR をコントロールすることができます。
- ⑧ VIDEO/Y OUT 端子 (BNC)**
 アナログコンポジット信号または、アナログコンポーネントの Y (輝度) 信号出力端子です。
 セットアップメニュー No. 671 (V OUT SEL) で切り替えます。
- ⑨ PB、PR OUT 端子 (BNC)**
 アナログコンポーネントの PB/PR 信号出力端子です。
- ⑩ VIDEO MONITOR OUT/TC OUT 端子 (BNC)**
 ビデオモニター信号を出力します。
 また、セットアップメニュー No. 572 (V-MON/TC OUT) が「TCOUT1」、「TCOUT2」のときは、タイムコード信号 (LTC) を出力します。

各部の名称と働き



コネクター部

① SDI 入出力端子 (BNC)

● SDI 入力端子：

コンポーネントシリアルデジタル信号の入力端子です。

V2 VIDEO 入力切り替えスイッチ (18 ページ参照) と、V2 AUDIO 入力切り替えスイッチ (20 ページ参照) の設定により、VTR2 側に SDI 信号を入力して、記録することができます。

< ノート >

VTR1 側には入力できません。

● SDI ACTIVE THRU 出力：

SDI 入力端子に入力した信号を、出力バッファを介して、スルー出力します。

● SDI 出力端子：

コンポーネントシリアルデジタル信号の出力端子です。

セットアップメニュー No. 174 (SDI OUT) で選択した VTR の信号を出力します。選択された VTR の蛍光表示管上に「SDI」が点灯します。(14 ページ参照)

< ノート >

SDI 入力端子と SDI 出力端子を接続しないでください。

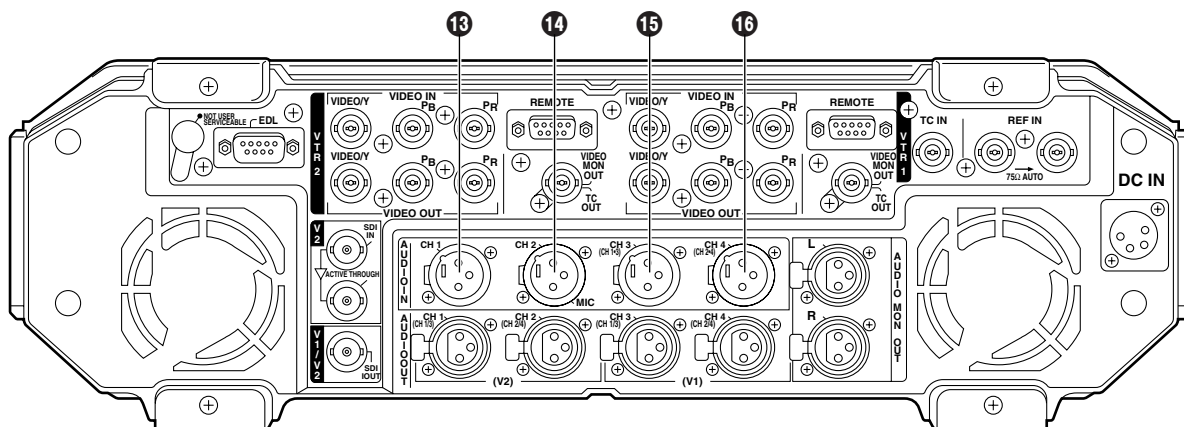
セットアップメニュー No. 174 (SDI OUT) を VTR1 に設定していても、正常に動作しません。

② サービスメンテナンス用スイッチ穴

内部にサービスメンテナンス用のスイッチがあります。

決してさわらないでください。

各部の名称と働き



コネクター部

⑬⑭⑮⑯ オーディオ入力端子 (XLR)

アナログオーディオの入力端子です。

ANALOG AUDIO IN スイッチの設定により、下記のように割り当てを変更することができます。

	テープ上の記録チャンネル							
	VTR1				VTR2			
ANALOG AUDIO IN スイッチの設定	ch1 への入力信号	ch2 への入力信号	ch3 への入力信号 (*1)	ch4 への入力信号 (*1)	ch1 への入力信号	ch2 への入力信号	ch3 への入力信号 (*1)	ch4 への入力信号 (*1)
V1. V2 (2ch)	端子⑮	端子⑯	端子⑮ (*3)	端子⑯ (*3)	•端子⑬、 •端子⑭、 •端子⑬⑭のMIX から選択 (*2)	•端子⑬、 •端子⑭、 •端子⑬⑭のMIX から選択 (*2)	•端子⑬、 •端子⑭、 •端子⑬⑭のMIX から選択 (*2)	•端子⑬、 •端子⑭、 •端子⑬⑭のMIX から選択 (*2)
V1 (4ch)	端子⑮	端子⑭	端子⑮	端子⑯	無音	無音	無音	無音
V2 (4ch)	無音	無音	無音	無音	V2 AUDIO 入力切り替えスイッチ (ch 切り替えスイッチ) の設定により自在に切り替えることができます。(20 ページ参照)			

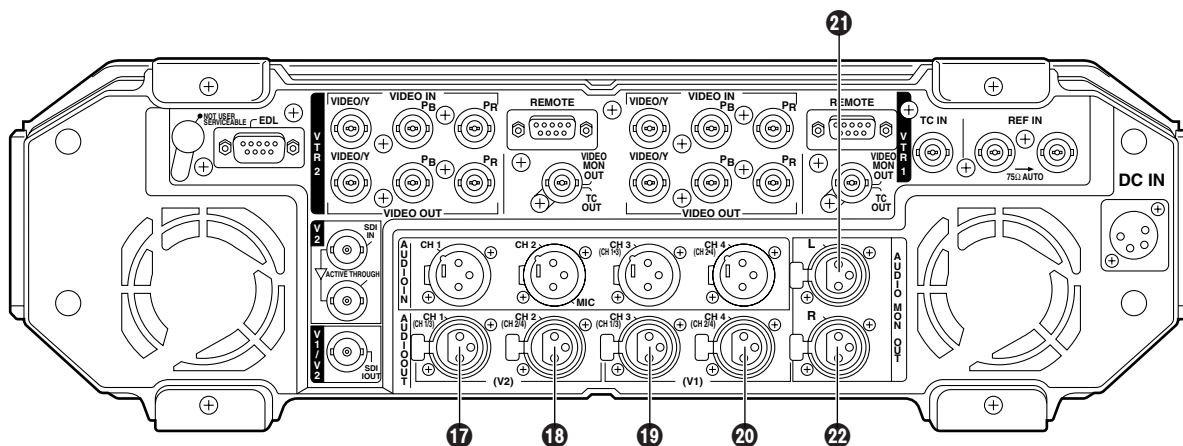
< ノート >

*1 : 25Mbps モードのとき、ch3 と ch4 には記録できません

*2 : ch1/ch2 用 (左から 1/2 番目) の入力は、V2 AUDIO 入力切り替えスイッチ (ch 切り替えスイッチ) の設定により「端子⑬の入力」「端子⑭の入力」「⑬と⑭のMIX」から選択することができます。(20 ページ参照)

*3 : 2チャンネルモードのとき VTR1 側は、ch1 と ch3、ch2 と ch4 はそれぞれ同じ信号が記録されます。

各部の名称と働き



コネクター部

17 18 19 20 オーディオ出力端子 (XLR)
 アナログオーディオの出力端子です。
 ANALOG AUDIO OUT スイッチの設定により、
 下記のように割り当てを変更することができます。

ANALOG AUDIO OUT スイッチの設定	端子 17 の 出力信号	端子 18 の 出力信号	端子 19 の 出力信号	端子 20 の 出力信号
V1, V2 (2ch)	VTR2 の ch1 または VTR2 の ch3 (*1)	VTR2 の ch2 または VTR2 の ch4 (*1)	VTR1 の ch1 または VTR1 の ch3 (*1)	VTR1 の ch2 または VTR1 の ch4 (*1)
V1 (4ch)	VTR1 の ch1	VTR1 の ch2	VTR1 の ch3 (*2)	VTR1 の ch4 (*2)
V2 (4ch)	VTR2 の ch1	VTR2 の ch2	VTR2 の ch3 (*2)	VTR2 の ch4 (*2)

< ノート >

*1 : セットアップメニュー No. 773 (PB AUDIO SEL) で出力チャンネルを選択します。

*2 : 25Mbps モードのとき、ch3 信号と ch4 信号は出力されせん。

各部の名称と働き

コネクター部

④② AUDIO MONITOR OUT 端子 (XLR)

オーディオモニター出力端子です。AUDIO MONITOR SELECT スイッチの設定により出力信号を変更することができます。

■ オーディオモニター端子 / 内蔵スピーカ / ヘッドホン端子 (前面) の出力選択について

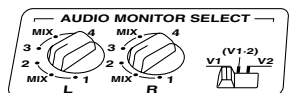
オーディオモニター端子、内蔵スピーカ、ヘッドホン端子に出力されるオーディオ信号は、キーボード上の AUDIO MONITOR SELECT スイッチ群の設定によって、「どちらの VTR の」「どのチャンネルを」出力するか変更することができます。さまざまなモニタリングに対応できます。

< ノート >

- オーディオモニター端子の L、内蔵スピーカの左側、ヘッドホンの L に出力される VTR とチャンネルは同一の信号です。
また、オーディオモニター端子の R、内蔵スピーカの右側、ヘッドホンの R に出力される VTR とチャンネルは同一の信号です。
別々に設定することはできません。
- 前面のヘッドホン端子にプラグを差し込むと、内蔵スピーカの音声は自動的に OFF になります。
- 前面のレベル調整ボリューム (LCD モニターの横) は内蔵スピーカとヘッドホン用です。
この調整ボリュームで、オーディオモニター端子に出力されるオーディオの、レベル調整はできません。

設定方法

(セットアップメニュー No. 772 AUTO MONI が V1+V2 に設定されているときに可能です。)



1. L 側に VTR1 の音声、R 側に VTR2 の音声を出力する場合

- V1/V1・2/V2 スイッチを「V1・2」に設定します。
- L 側に出力される VTR1 の音声チャンネルを、L (V1) スイッチで選択します。
- R 側に出力される VTR2 の音声チャンネルを、R (V2) スイッチで選択します。

< ノート >

音声 MIX は、ch1 と ch2 の MIX、ch3 と ch4 の MIX のみ対応しています。それ以外の MIX はできません。

2. L 側、R 側とも VTR1 の音声を出力する場合

- V1/V1・2/V2 スイッチを「V1」に設定します。
- L 側に出力される VTR1 の音声チャンネルを、L (V1) スイッチで選択します。
- R 側に出力される VTR1 の音声チャンネルを、R (V2) スイッチで選択します。

< ノート >

例えば、このモードのとき L (V1) スイッチで「1」、R (V2) スイッチで「2」を選択すると、VTR1 の ch1/ch2 のステレオ出力になります。

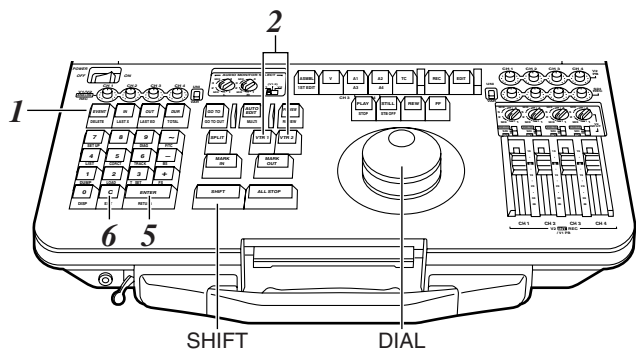
3. L 側、R 側とも VTR2 の音声を出力する場合

- V1/V1・2/V2 スイッチを「V2」に設定します。
- L 側に出力される VTR2 の音声チャンネルを、L (V1) スイッチで選択します。
- R 側に出力される VTR2 の音声チャンネルを、R (V2) スイッチで選択します。

< ノート >

例えば、このモードのとき L (V1) スイッチで「1」、R (V2) スイッチで「2」を選択すると、VTR2 の ch1/ch2 のステレオ出力になります。

セットアップメニューの操作



切り替えスイッチで設定する項目以外のセットアップは、オンスクリーンメニューで設定します。

1 SET UP ([SHIFT] + [7]) ボタンを押してセットアップメニューモードに移ります。

LCD モニターやビデオモニター出力に、メニュー画面が表示されます。

< ノート >

セットアップメニュー No. 30 (MENU LOCK) が ON のときも、メニュー画面が表示されて、設定内容の確認ができますが、変更はできません。

2 VTR1 側に表示されているメニューを設定するときは、VTR1 ボタンを押して、VTR1 ボタンの LED が点灯して、VTR2 ボタンの LED が消灯している状態にしてください。

VTR2 側に表示されているメニューを設定するときは VTR2 ボタンを押して、VTR2 ボタンの LED が点灯して、VTR1 ボタンの LED が消灯している状態にしてください。

3 サーチダイヤルを押し込み、ジョグモードにします。

ダイヤルを回して、設定する項目を選択します。(カーソル*が移動します。)

< ノート >

ページ単位でメニュー項目を送ったり戻したりするときは、FF/REW ボタンを押します。

4 SHIFT ボタンを押しながら、ダイヤルを回して値を変更します。値の変更は、SHIFT ボタンを押しながら - ボタン押す (値が減少) 操作と、SHIFT ボタンを押しながら + ボタン押す (値が増加) 操作でも変更できます。

< ノート >

セットアップメニュー No. 377 (1ST EDIT TC)、No.378 (1ST EDIT UB)、No. 573 (TC PRESET)、No. 574 (UB PRESET) の設定値を変更するときは、T SET ([SHIFT] + [3]) ボタンを押して、数値入力ボタンで数値を入力します。

TC PRESET と UB PRESET は、TC ジェネレータスイッチが「F-RUN」「R-RUN」のときに設定できます。

セットアップメニュー No. 379 (1ST-E TITLE) で文字を入力するときは、次の操作を行います。

① STILL ボタンを押して、文字入力画面にします。

② SHIFT ボタンを押します。

文字入力ができる位置のカーソルが点滅します。

③ SHIFT ボタンを押したまま、+ ボタンまたは - ボタンを押して文字を選択します。

④ SHIFT ボタンを押したまま、FF ボタンまたは REW ボタンを押して、文字入力の位置を移動させます。

⑤ 操作 ③④ を繰り返して文字を入力していきます。

⑥ 文字入力終了すると、SHIFT ボタンを離し、STILL ボタンを押して文字入力画面から抜け出します。

5 RETURN ([SHIFT] + [ENTER]) ボタンを押すと、設定した値が確定して、通常モードに戻ります。

6 EXIT ([SHIFT] + [C]) ボタンを押すと、設定値が無効になり、通常モードに戻ります。

セットアップメニューの操作

ユーザーメモリーと工場出荷設定値

本機には、ユーザーが登録可能なユーザーメモリー機能があります。

任意の設定値を登録しておけば、登録された設定値を一括して呼び出すことができます。

また、工場出荷設定値を一括して呼び出すこともできます。

(TC PRESET 値と UB PRESET 値は、登録も呼び出しもできません)

ユーザーメモリーへの登録

1 SET UP ([SHIFT] + [7]) ボタンを押し、セットアップモードに入ります。

2 希望の設定値に変更します。

3 VTR2 の RESET ボタンを押し、初期設定画面を表示します。

```
SETUP-MENU INIT SET  
  
VTR1&2 OK?  
ALL<PLAY>/  
NOT SYSTEM<STILL>/  
NO<REW>/  
USER LOAD <LOAD>/  
USER SAVE <DUMP>
```

4 DUMP ([SHIFT] + [1]) を押し、変更した値をユーザーメモリーに登録します。

ユーザーメモリーに登録した値を呼び出す

1 SET UP ([SHIFT] + [7]) ボタンを押し、セットアップモードに入ります。

2 VTR2 の RESET ボタンを押し、初期設定画面を表示します。

3 LOAD ([SHIFT] + [2]) を押し、ユーザーメモリーを呼び出します。

工場出荷設定値を呼び出す (メニューリセット)

1 SET UP ([SHIFT] + [7]) ボタンを押し、セットアップモードに入ります。

2 VTR2 の RESET ボタンを押し、初期設定画面を表示します。

3

- PLAY ボタンを押すと、全ての項目を工場出荷設定値に戻します。
- STILL ボタンを押すと、システム項目以外の項目を工場出荷設定値に戻します。
- REW ボタンを押すと、工場出荷設定値の呼び出しをキャンセルします。

セットアップメニュー

SYSTEM メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
11	SYS SC	0000 : 0127 : 0255	- 127 : 0 : 128	システムの位相を調整します。トータル可変範囲は±180°以上です。 - : 位相が進みます。 + : 位相が遅れます。	○	○
13	VIDEO PHASE	0000 : 0032 : 0064	- 32 : 0 : 32	映像信号の位相を調整します。(148ns ステップ) - : 位相が進みます。 + : 位相が遅れます。	○	○
16	AV PHASE	0000 : 0090 : 0180	- 90 : 0 : 90	映像出力信号に対する音声出力の位相調整を行います。 (20.8 μ sec ステップ) - : 映像出力に対して、音声出力の位相が進みます。 + : 映像出力に対して、音声出力の位相が遅れます。	○	○
17	SYS H RANGE	0000 0001	FULL FINE	SYSTEM H の可変範囲を設定します。 0 : ± 8 μ sec 1 : - 2.0 μ sec ~ + 2.7 μ sec	○	○
18	SYS H OFFSET	0000 0001 0002 0003 0004 0005 0006	- 3 - 2 - 1 0 1 2 3	SYSTEM H のセンター位置を設定します。 0 : - 13.4 μ sec 1 : - 8.96 μ sec 2 : - 4.52 μ sec 3 : 0 μ sec 4 : + 4.52 μ sec 5 : + 8.96 μ sec 6 : + 13.4 μ sec	○	○
30	MENU LOCK	0000 0001	OFF ON	セットアップメニューのロックモードを設定します。 0 : ロックを解除します。(変更を可能にします) 1 : ロックします。(変更を禁止します)		○
70	P.ON LOAD	0000 0001	OFF ON	電源を入れたときに、セットアップメニューの設定内容を、ユーザーの初期設定値に変更する設定を行います。 0 : 変更しません。 1 : 変更します。		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

BASIC メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
001	LOCAL ENA	0000 0001	DIS ST&EJ	CONTROLスイッチがREMOTEの位置のときに、コントロールパネルで操作可能なスイッチを設定します。 0：全てのスイッチや、ボタンの操作ができません。 1：STOP(ALL STOP)とEJECTボタンのみの操作が可能です。	○	○
002	TAPE TIMER	0000 0001	± 12h 24h	CTLカウンタ表示の時間表示を設定します。 0：12時間表示にします。 1：24時間表示にします。	○	○
003	REMAIN SEL	0000 0001	OFF ON	MONITOR OUT端子やLCDモニターのスーパ表示への、REMAIN(テープ残量時間)表示を設定します。 0：表示しません。 1：表示します。 <ノート> ・テープをイジェクトしたときや、テープ挿入後でテープ残量計算を行っている間は表示しません。 ・セットアップメニューNo. 008(DISPLAY SEL)が、TIMEに設定されている場合は表示しません。 ・テープの始端および終端を検知し、BOTおよびEOTが表示されている場合は表示されません。	○	○
008	DISPLAY SEL	0000 0001 0002	TIME T&STA T&S&M	MONITOR OUT端子やLCDモニター画面にスーパ表示される表示内容を設定します。 0：カウンター値を表示します。 1：カウンター値と動作モードを表示します。 2：カウンター値と動作モードの他に、テープ残量やテープフォーマット、エラーメッセージを表示します。	○	○
011	CHARA TYPE	0000 0001	WHITE W/OUT	VIDEO MONI OUT端子のスーパやセットアップメニュー等の表示文字のタイプを設定します。 0：白文字で、背景は黒のベタ塗り。 1：白文字で、黒の縁取り。	○	○
012	SYS FORMAT	0000 0001	50M 25M	記録フォーマットと再生フォーマットを設定します。 0：DVCPRO50(50Mbps)を選択します。 1：DVCPRO25(25Mbps)を選択します。	○	○
013	PB FORMAT	0000 0001	MANUAL AUTO	テープ再生時のフォーマットを設定します。 0：セットアップメニューNo. 012(SYS FORMAT)の設定に従います。 1：テープに記録されているフォーマットに従います。 <ノート> ・VTR2側は、編集モード選択時、内部動作が強制的に「MANUAL」になります。 ・525i/625iの自動設定は行えません。	○	○
070	TV SYSTEM	0000 0001	525 625	テレビジョンシステムを設定します。 0：525インターレース/59.94Hzの方式を選択します。 1：625インターレース/50Hzの方式を選択します。 <ノート> 設定を変更した場合、メモリーに登録後、再度電源を投入したときに有効になります。		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

OPERATION メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
100	SEARCH ENA	0000 0001	DIAL KEY	ダイレクトサーチ動作の設定を行います。 0 : ダイレクトサーチモード 1 : ノンダイレクトサーチモード (STILL 時のみにサーチダイヤルを受け付けます)		○
101	SHTL MAX	0000 0001 0002	x8.4 x16 x32	SHTL モードの最高速度を設定します。 0 : 8.4 倍速 1 : 16 倍速 2 : 32 倍速	○	○
102	FF. REW MAX	0000 0001 0002	x16 x32 x50	FF と REW の最高速度を設定します。 0 : 16 倍速 1 : 32 倍速 2 : 50 倍速	○	○
103	AUDIO MUTE	0000 0001	OFF ON	STOP モードやサーチモードから PLAY モードに移行したときに、音声信号が出力されるまでの状態を設定します。 0 : 音声が出力されるまでの時間が短くなります。 1 : 完全な状態になってから音声を出力します。	○	○
106	EE MODE SEL	0000 0001	NORMAL THRU	E-E モード時の出力信号を設定します。 0 : 内部で信号処理した時間分、遅延した信号を出力します。 1 : 内部で信号処理を加えず、遅延しないでそのまま信号を出力します。 < ノート > ● 内部接続 (INT モード) 時や EXT / SEPARATE モード時でも、ASMBL や INS が選択されているときは、強制的に「 0 : NORMAL 」になります。 ● VTR1 側は、常に「 THRU 」モードです。		○
107	PLAY DELAY	0000 : 0005 : 0015	0 (VTR1) : 5 (VTR2) : 15	PLAY モードの立ち上がり時間をフレーム単位で設定します。 < ノート > : VTR1 と VTR2 を外部機器に接続して外部からコントロールするときは、PLAY DELAY の値はシステム全体を合わせて設定してください。	○	○
108	CAP. LOCK	0000 0001	4F 8F	SYNCHRO スイッチが CF に設定されているときの CAPSTAN LOCK モードを設定します。 0 : 4F モード 1 : 8F モード < ノート > 525i モード時は、このセットアップメニューは表示されません。		○
109	AUTO REW	0000 0001	OFF ON	テープ終端を検出した場合の処理を設定します。 0 : テープ終端で停止します。 1 : テープ始端まで巻き戻します。	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

OPERATION メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
110	MEMORY STOP	0000 0001	OFF ON	CTLモードのFFやREW動作におけるカウンター値が0位置での処理を設定します。 0：VTRは停止しません。 1：VTRは自動的に停止します。 <ノート> ・停止モードは、セットアップメニュー No. 315 (AFTER CUE-UP) の設定により停止または静止画 (SHTL + 0.0、JOG STILL) モードになります。 ・AUTO REW 機能とMEMORY機能が同時に選択されている場合は、AUTO REW機能が優先されます。	○	○
170	HUMID OPE	0000 0001	OFF ON	結露時の動作を設定します。 0：動作しません。 1：結露時でも動作しますが、その動作についての保証はいたしません。 <ノート> 「1：ON」を選択した場合、テープダメージなどが発生する可能性がありますので、通常は「0：OFF」を選択してください。		○
171	ALL STOP SEL	0000 0001	STOP STILL	ALL STOP ボタンを押したときの、本機のモードを設定します。 0：STOPモードにします。 1：静止画 (SHTL + 0.0、JOG STILL) モードにします。		○
172	VTR1 IN SEL	0000 0001	V1 IN V2 IN	アナログ信号入力選択時に、VTR1側のVIDEO/AUDIO入力を設定します。 0：VTR1 INをVTR1の入力とします。 1：VTR2のVIDEO INとAUDIO INを、VTR1の入力とします。 <ノート> ●SDI信号入力選択時には、動作しません。 ●625iモード時には、動作しません。	○	
173	BATTERY SEL	0000 0001 0002 0003 0004 0005 0006 0007 0008	10.8V 11.0V 11.2V 11.4V 11.6V 11.8V 12.0V 12.5V 13.0V	DC電源電圧が低下したときに、警告を開始する電圧を設定します (10.6Vまで低下すると、自動的に電源がOFFになります。) 0：10.8Vに低下したとき 1：11.0Vに低下したとき 2：11.2Vに低下したとき 3：11.4Vに低下したとき 4：11.6Vに低下したとき 5：11.8Vに低下したとき 6：12.0Vに低下したとき 7：12.5Vに低下したとき 8：13.0Vに低下したとき		○
174	SDI OUT	0000 0001	VTR1 VTR2	SDI出力の設定を行います。 0：VTR1側を出力します。 1：VTR2側を出力します。		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

INTERFACE メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
202	ID SEL	<u>0000</u> 0001	<u>OTHER</u> DVCPRO	コントローラに返すID情報を設定します。 0 : 20 25H (525iモード)を返します。 1 : DVCPRO独自のIDとF0 33H (525iモード)を返します。 <ノート> 625iモード時には、動作しません。	○	○
205	BAUD RATE	0000 0001 0002 <u>0003</u> 0004	1200 2400 4800 <u>9600</u> 19200	RS-232C (EDL)の通信速度(ボーレート)を設定します。		○
206	DATA LENGTH	0000 <u>0001</u>	7 <u>8</u>	RS-232C (EDL)のデータ長の設定を行います。 0 : 7BIT 1 : 8BIT		○
207	STOP BIT	<u>0000</u> 0001	<u>1</u> 2	RS-232C (EDL)のストップビットの設定を行います。 0 : 1BIT 1 : 2BIT		○
208	PARITY	0000 <u>0001</u> 0002	NON <u>ODD</u> EVEN	RS-232C (EDL)のパリティを設定します。 0 : パリティビットを使用しない。 1 : パリティビットを奇数パリティで使用する。 0 : パリティビットを偶数パリティで使用する。		○
270	FLOW CONTROL	<u>0000</u> 0001	<u>NONE</u> RTSCTS	RS-232C (EDL)通信のフロー制御を設定します。 0 : RTS/CTSによるフロー制御を行いません。 1 : RTS/CTSによるフロー制御を行います。		○
271	EDL FORMAT	<u>0000</u> 0001	<u>AGA850</u> CMX340	EDLをダンプするときのフォーマットを設定します。 0 : 松下 AG-A850 と共通のフォーマット 1 : CMX340 の編集システムと共通のフォーマット		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

EDIT メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR 1	VTR 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
303	STD/NON-STD			コンポジット入力信号に合わせて STD や NON-STD を設定します。	○	○
		0000	AUTO	0 : スタンダード / ノンスタンダード信号を自動検出して処理します。		
		0001	STD	1 : スタンダード信号処理を行います。(強制 STD)		
		0002	N-STD	2 : ノンスタンダード信号処理を行います。(強制 NON-STD) < ノート > 625i モード時には、動作しません。		
304	SERVO REF	0000	AUTO	サーボの同期する信号を設定します。 0 : 記録時や編集時は入力信号に同期し、再生時は REF 信号に同期します。	○	○
		0001	EXT	1 : 常に、REF 信号に同期します。		
305	EDIT RPLCE1			デジタルオーディオを編集する機能がないコントローラを使って、VTR のデジタルオーディオを編集するときに、コントローラのアナログオーディオ編集コマンドを使って、各チャンネルの割り当てを設定します。VTR の CH1 の編集コマンドをコントローラで指定したアナログオーディオに従って ON/OFF 設定します。	○	
		0000	N-DEF	0 : 設定しません。		
		0001	CH1	1 : アナログ CH1 の編集コマンドに従います。		
		0002	CH2	2 : アナログ CH2 の編集コマンドに従います。		
0003	CH1 + 2	3 : アナログ CH1、または CH2 の編集コマンドに従います。 < ノート > 625i モード時には、動作しません。				
306	EDIT RPLCE2			セットアップメニュー No. 305 と同様に、本機の CH2 の編集コマンドをコントローラで指定したアナログオーディオに従って ON/OFF 設定します。	○	
		0000	N-DEF	0 : 設定しません。		
		0001	CH1	1 : アナログ CH1 の編集コマンドに従います。		
		0002	CH2	2 : アナログ CH2 の編集コマンドに従います。		
0003	CH1 + 2	3 : アナログ CH1、または CH2 の編集コマンドに従います。 < ノート > 625i モード時には、動作しません。				
307	EDIT RPLCE3			セットアップメニュー No. 305 と同様に、本機の CH3 の編集コマンドをコントローラで指定したアナログオーディオに従って ON/OFF 設定します。	○	
		0000	N-DEF	0 : 設定しません。		
		0001	CH1	1 : アナログ CH1 の編集コマンドに従います。		
		0002	CH2	2 : アナログ CH2 の編集コマンドに従います。		
0003	CH1 + 2	3 : アナログ CH1、または CH2 の編集コマンドに従います。 < ノート > 625i モード時には、動作しません。				

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

EDIT メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
308	EDIT RPLCE4	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>N-DEF</u> CH1 CH2 CH1 + 2	セットアップメニュー No. 305 と同様に、本機の CH4 の編集コマンドをコントローラで指定したアナログオーディオに従って ON/OFF 設定します。 0 : 設定しません。 1 : アナログ CH1 の編集コマンドに従います。 2 : アナログ CH2 の編集コマンドに従います。 3 : アナログ CH1、または CH2 の編集コマンドに従います。 < ノート > 625i モード時には、動作しません。		○
311	AUD EDIT IN	0000 <u>0001</u>	<u>CUT</u> <u>FADE</u>	オーディオ編集 IN 点のつなぎ方を設定します。 0 : カット編集します。 1 : フェード編集します。		○
312	AUD EDIT OUT	0000 <u>0001</u>	<u>CUT</u> <u>FADE</u>	オーディオ編集 OUT 点のつなぎ方を設定します。 0 : カット編集します。 1 : フェード編集します。		○
313	AUTO ENTRY	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>OFF</u> REC1 REC2 ALL	自動編集後、前の編集の OUT 点の値を自動的に次の編集 IN 点として登録する設定を行います。 0 : 自動設定しません。 1 : VTR2 側のみ自動設定します。 2 : VTR2 側のみ自動設定します。(- 12 フレーム補正) 3 : VTR1、VTR2 とともに自動設定します。		○
315	AFTER CUE-UP	<u>0000</u> 0001	<u>STOP</u> STILL	キューアップ動作終了後の本機のモードを設定します。 0 : STOP モードにします。 1 : 静止画 (SHTL + 0.0、JOG STILL) モードにします。		○
317	AUD MEM MODE	<u>0000</u> 0001 0002	<u>OFF</u> INT_X INT_VO	内蔵オーディオメモリーを用いて、ヴォイスオーバー編集や、オーディオクロスチャンネル編集を行う設定をします。 0 : ヴォイスオーバー編集や、オーディオクロスチャンネル編集を行いません。 1 : オーディオクロスチャンネル編集を行います。 2 : ヴォイスオーバー編集を行います。		○
318	AUD MEM CH	0000 <u>0001</u> 0002 0003	CH1 CH2 CH3 CH4	ヴォイスオーバー編集や、オーディオクロスチャンネル編集を行うチャンネル設定をします。 0 : CH1 に編集します。 1 : CH2 に編集します。 2 : CH3 に編集します。 3 : CH4 に編集します。		○
325	POSTROLL TM	0000 <u>0001</u> 0002 0003	0.5s <u>1s</u> 2s 3s	ポストロール時間を設定します。(単位 : 秒)		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

EDIT メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
370	BEEP	0000	OFF	確認音の設定を行います。 0 : 確認音を出しません。		○
		0001	ENTRY	1 : 登録時、ERROR 発生時、WARNING 発生時、確認音を出します。		
		0002	ALL1	2 : 登録時、EDIT IN/OUT 通過時、ERROR 発生時、WARNING 発生時、確認音を出します。		
		0003	ALL2	3 : 登録時、EDIT OUT 通過時、ERROR 発生時、WARNING 発生時、確認音を出します。EDIT IN 通過時は、確認音を出しません。		
371	SV-UNLK EDIT	0000	EDIT	サーボロックがかからないときの編集モードを設定します。 0 : 編集を中止せず、実行します。		○
		0001	ABORT1	1 : 編集の助走区間でサーボがかからなかったときに、編集を中止します。		
		0002	ABORT2	2 : 助走区間や編集記録突入後、サーボがかからなかったときに編集を中止します。		
372	SYNCHRO EDIT	0000	OFF	SYNCHRO 設定が ON に設定されているとき、±0 フレームの精度で、調相できないとき編集を中止するかどうかを設定します。 0 : 編集を中止しません。		○
		0001	ON	1 : 編集を中止します。		
373	SYNCHRO	0000	VTR1	調相する VTR を設定します。 0 : VTR1 を調相します。		○
		0001	VTR2	1 : VTR2 を調相します。		
374	EDL AUTO CLR	0000	OFF	登録されたイベントが一杯になったとき、最初のイベントをクリアして、順次上書きする設定を行います。 0 : 上書きできません。		○
		0001	ON	1 : 上書きできます。		
375	SPLIT EDIT	0000	AUDIO	SPLIT 編集の基準を設定します。 0 : ビデオの編集点を基準に、オーディオスプリット編集を行います。		○
		0001	VIDEO	1 : オーディオの編集点を基準に、ビデオスプリット編集を行います。		
376	1ST EDIT DUR	0000	26s	1ST EDIT 時に、ブラックバースト信号を記録する時間を設定します。 0 : 26 秒間記録し、3 秒戻って停止します。 停止した点が 1ST EDIT PRESET で設定した点になります。		○
		0001	T-END	1 : テープ終端または、ALL STOP で停止させた位置まで記録します。テープ終端まで記録した場合は、1ST EDIT PRESET した位置まで自動的に戻ります。		
377	1ST EDIT TC			1ST EDIT 時のタイムコードプリセット値を設定します。 00:00:00:00 ~ 23:59:59:29 (525i モード) 00:00:00:00 ~ 23:59:59:24 (625i モード)		○
378	1ST EDIT UB			1ST EDIT 時のユーザズビットプリセット値を設定します。 00:00:00:00 ~ FF:FF:FF:FF		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

EDIT メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
379	1ST-E TITLE			1ST EDIT 時に、ブラックバースト信号に重畳するタイトル画面のキャラクター（3行×20文字）を設定します。 キャラクター ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 0123456789.,: ;?!/~'()+-±*= <ノート> ● NO.380 1ST-E DISP が ON のときに有効です。 ● 625i モード時には、動作しません。		○
380	1ST-E DISP	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	1ST EDIT 時に、ブラックバースト信号にタイトル画面を重畳して記録する設定を行います。 0 : 重畳しません。 1 : 重畳します。 <ノート> 625i モード時には、重畳できません。		○
381	ENTRY CORR	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	オープンエンド編集のプレビュー時に、OUT 点登録の補正をする設定を行います。 0 : 補正を行いません。 1 : 補正を行います。（- 12 フレーム補正）		○
382	SKIP (r) MARK	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	マルチイベント編集を行うときに、編集済みのイベントの処理を設定します。 0 : 編集済みのイベントも、再度編集します。 1 : 編集済みのイベントをスキップして編集します。		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

TAPE PROTECT メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
400	STILL TIMER	0000 0001 0002 0003 0004 0005 0006 0007 0008	0.5s 5s 10s 20s 30s 40s 50s 1min 2min	STOP または、サーチ STILL (JOG/VAR/SHTL) の状態で放置されたときに、テープ保護モードになるまでの時間を設定します。(単位 s : 秒 min : 分)	○	○
401	SRC PROTECT	0000 0001	STEP HALF	STILL 状態で放置されたときの、テープ保護モードの動作を設定します。 0 : STEP (STILL 時は STEP FWD) 1 : HALF LOADING <ノート> STEP FWD が設定されているときに、STILL 状態で放置された合計時間が 30 分になると、自動的に HALF LOADING モードへ移行します。	○	○
402	DRUM STDBY	0000 0001	OFF ON	スタンバイ OFF 時の DRUM 動作を設定します。 0 : DRUM を停止させます。 1 : DRUM を回転させます。	○	○
403	STOP PROTECT	0000 0001	STEP HALF	STOP の状態で放置されたときの、テープ保護モードの動作を設定します。 0 : STEP FWD 1 : HALF LOADING <ノート> STEP FWD が設定されているときに、STOP 状態で放置された合計時間が 30 分になると、自動的に HALF LOADING モードへ移行します。	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

TIME CODE メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
500	VITC BLANK	0000 0001	BLANK THRU	セットアップメニュー No. 501 (VITC POS-1) と No. 502 (VITC POS-2) で設定された位置に、VITC 信号を出力する設定を行います。 0 : 出力しません。 1 : 出力します。	○	○
501	VITC POS-1 (525iモード)	0000 : 0006 : 0010	10L : 16L : 20L	VITC 位置の挿入位置を設定します。 <ノート> セットアップメニュー No. 502 (VITC POS-2) と同じラインは設定できません。	○	○
	(625iモード)	0000 : 0004 : 0015	7L : 11L : 22L			
502	VITC POS-2 (525iモード)	0000 : 0008 : 0010	10L : 18L : 20L	VITC 位置の挿入位置を設定します。 <ノート> セットアップメニュー No. 501 (VITC POS-1) と同じラインは設定できません。	○	○
	(625iモード)	0000 : 0006 : 0015	7L : 13L : 22L			
503	TCG REGEN	0000 0001 0002	TC&UB TC UB	TCG (タイムコードジェネレータ) がリジエネモードのときに、リジエネする信号を設定します。 0 : タイムコード、ユーザービット共にリジエネします。 1 : タイムコードのみをリジエネします。 2 : ユーザービットのみをリジエネします。	○	○
504	REGEN MODE	0000 0001 0002 0003	AS&IN ASSEM INSRT SW	自動編集 (アセンブル編集、インサート編集) で、タイムコードをリジエネする設定を行います。 0 : アセンブル編集やインサート編集でリジエネします。 1 : アセンブル編集でリジエネします。 2 : インサート編集でリジエネします。 3 : REGEN/PRESET スイッチに従います。		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

TIME CODE メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
506	BINARY GP			TCGで発生するタイムコードのユーザーズビットの使用状況を設定します。		
		0000	000	0 : NOT SPECIFIED (キャラクタセットを指定しない)		
		0001	001	1 : ISO CHARACTER (ISO646、ISO2022 に準拠した 8 ビットキャラクタセット)		
		0002	010	2 : UNASSIGNED1 (未定義)	○	○
		0003	011	3 : UNASSIGNED2 (未定義)		
		0004	100	4 : UNASSIGNED3 (未定義)		
		0005	101	5 : PAGE/LINE		
		0006 0007	110 111	6 : UNASSIGNED4 (未定義) 7 : UNASSIGNED5 (未定義)		
507	PHASE CORR	0000	OFF	TCGで発生するLTCの位相補正コントロールを設定します。	○	○
		0001	ON	0 : 位相補正コントロールを行いません。 1 : 位相補正コントロールを行います。		
508	TCG CF FLAG	0000	OFF	TCGへのカラーフレーミングフラグを設定します。	○	○
		0001	ON	0 : カラーフレーミングフラグをOFFします。 1 : カラーフレーミングフラグをONします。		
509	DF MODE	0000	DF	CTLおよびTCGのドロップフレームモードを設定します。		
		0001	NDF	0 : ドロップフレームモードで使用します。 1 : ノンドロップフレームモードで使用します。 <ノート> 625iモード時は、このセットアップメニューが表示されません。	○	○
511	VITC OUT	0000	SBC	出力ビデオ信号に重畳するVITCの出力方法を設定します。		
		0001	VAUX	0 : 記録時 セットアップメニュー No. 570 (REGEN SEL) の設定やTCジェネレータスイッチで設定された入力タイムコードを、VITCとして出力します。 再生時 SBC領域に記録されているタイムコードを、VITCとして出力します。 1 : 記録時 入力ビデオ信号より検出されたタイムコードをVITCとして出力します。 再生時 VAUX領域に記録されているタイムコードをVITCとして出力します。 <ノート> 入力ビデオ信号より検出されたタイムコードは、映像が記録される際、自動的にVAUXとして出力されます。	○	○
570	REGEN SEL	0000	I-REG	REGEN/PRESETスイッチがREGENのとき、内部TCGを使用するか、外部タイムコードを使用するかを設定します。		
		0001	E-VITC	0 : 内部TCをリジェネモードで使用します。 1 : 入力映像信号のVITCをリジェネモードで使用します。	○	○
		0002	E-LTC	2 : TC入力のLTCをリジェネモードで使用します。		
		0003	VTR1TC	3 : OPERATION MODEスイッチがINTのとき、サブコードのTCをリジェネモードで使用します。 <ノート> VTR1 TCの設定は、VTR2側のみで設定可能です。		

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

TIME CODE メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
571	TC JUMP	0000 0001 0002 0003	OFF VTR1 VTR2 ALL	TC JUMP の設定を行います。 0 : TC JUMP しません。 1 : VTR1 側のみで TC JUMP します。 2 : VTR2 側のみで TC JUMP します。 3 : VTR1、VTR2 共に TC JUMP します。 <ノート> TC JUMP 時、一旦 IN 点へ CUE UP 動作をし、その IN 点の CTL 値を基準に PREROLL や助走をします。 IN 点を通過し編集記録に入った時点で、TC 基準に切り替わります。		○
572	V-MON/TC OUT	0000 0001 0002	V-MON TCOUT1 TCOUT2	ビデオモニター出力端子を TC 出力端子として使用する設定を行います。 TC 出力端子として使用する場合は、E-E モード時に出力する TC 信号の位相を映像出力に合わせるか、入力 TC に合わせるかも設定します。 0 : ビデオモニター出力端子として使用します。 1 : TC 出力端子として使用し、E-E モード時は、出力 TC 信号の位相を入力 TC 信号に合わせます。 2 : TC 出力端子として使用し、E-E モード時は、出力 TC 信号の位相を出力映像信号に合わせます。 <ノート> TCOUT2 の設定は、VTR2 側のみで設定可能です。	○	○
573	TC PRESET			内部 TCG のタイムコード値を設定します。 00:00:00:00 ~ 23:59:59:29 (525i モード) 00:00:00:00 ~ 23:59:59:24 (625i モード)	○	○
574	UB PRESET			内部 TCG のユーザズビット値を設定します。 00:00:00:00 ~ FF:FF:FF:FF	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

VIDEO メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
601	OUT VSYNC	0000 0001	N-VF VF	E-E モードや記録時、また、編集時に映像信号の位相を入力に合わせるため、映像信号のVシンク位置にフロートさせる設定を行います。 0：フロートさせません。 1：フロートさせます。	○	○
602	V-MUTE SEL	0000 0001	N-MUTE LOW_RF	再生中にテープのブランク(空白)部分が検出された場合、ビデオ出力信号をミュートする設定を行います。 0：ミュートしません。(フリーズします) 1：ミュートします。(黒色にします)	○	○
603	CC (F1) BLANK	0000 0001	BLANK THRU	第1フィールドのクローズドキャプション信号のON/OFFを設定します。 0：強制ブランキングします。 1：ブランキングしません。 <ノート> 625iモード時は、このセットアップメニューが表示されません。	○	○
604	CC (F2) BLANK	0000 0001	BLANK THRU	第2フィールドのクローズドキャプション信号のON/OFFを設定します。 0：強制的にブランキングします。 1：ブランキングしません。 <ノート> 625iモード時は、このセットアップメニューが表示されません。	○	○
605	FREEZE SEL	0000 0001	FIELD FRAME	静止画面のフリーズ状態を設定します。 0：フィールドフリーズ 1：フレームフリーズ <ノート> フレームフリーズに設定した場合は、スロー時もフレーム単位のスローになります。	○	○
609	EDH	0000 0001	OFF ON	シリアル出力にエラー情報を入れる設定を行います。 0：エラー情報を入れません。 1：エラー情報を入れます。		○
610	Pb/Pr IN LV	0000 0001	MII B-CAM	アナログコンポーネント入力レベルを設定します。 0：MIIレベル 1：-CAMレベル <ノート> 625iモード時は、このセットアップメニューが表示されません。	○	○
611	INPUT C KILL	0000 0001	B/W AUTO	ビデオ入力信号のカラーキラー処理を設定します。 0：強制的にB/W処理を行います。 1：自動処理を行います。	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

VIDEO メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
614	Pb/Pr OUT LV	0000 0001	MII B-CAM	アナログコンポーネント出力レベルを設定します。 0 : MII レベル 1 : -CAM レベル <ノート> 625i モード時は、このセットアップメニューが表示されません。	○	○
618	INTERPOLATE	0000 0001	OFF AUTO	スロー再生時には、自動的に垂直信号の補間機能を動作させ、再生画像の上下動を軽減しますが、本設定により補間機能を強制的に OFF することができます。 0 : 強制的に OFF します。 1 : スロー再生時は、自動的に ON します。	○	
641	WIDE IN SEL	0000 0001 0002	AUTO WIDE NORMAL	記録時、テープ上に書き込むワイド情報を設定します。 0 : VTR2 側は、セットアップメニュー No. 643 (INT WIDE I) が ON に設定されているときは、内部接続 (INT モード) 時の VTR1 側のワイド情報に従います。セットアップメニュー No. 643 が OFF の場合は、強制的にノーマルモードとしてテープ上に記録します。また、OPERATION MODE スイッチが EXT や SEPARATE に設定されているときも、強制的にノーマルモードとしてテープ上に記録します。 VTR1 側は、強制的にノーマルモードとしてテープ上に記録します。 1 : 強制的にワイドモードとしてテープ上に記録します。 2 : 強制的にノーマルモードとしてテープ上に記録します。 <ノート> ● SDI 信号上のワイド情報は検出できません。 ● ワイドモードのときは、表示管の「W」が点灯します。	○	○
643	INT WIDE I	0000 0001	OFF ON	内部接続 (INT モード) 時に、セットアップメニュー No. 641 が AUTO に設定されているとき、VTR1 側のワイド情報を VTR2 のワイド情報検出用として使用する設定を行います。 0 : ワイド情報として扱いません。 1 : ワイド情報として扱います。		○
670	V IN SEL	0000 0001	CMPST CMPNT	ビデオ入力を設定します。 0 : アナログコンポジット入力 1 : アナログコンポーネント入力 <ノート> 625i モード時には、アナログビデオ入力できません。	○	○
671	V OUT SEL	0000 0001	CMPST CMPNT	ビデオ出力を設定します。 0 : アナログコンポジット出力 1 : アナログコンポーネント出力	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

AUDIO メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
701	CH1 IN LV	0000 0001 0002 0003	4dB 0dB - 3dB - 20dB	オーディオ入力 (CH1) の基準レベルを設定します。		○
702	CH2 IN LV	0000 0001 0002 0003 0004	4dB 0dB - 3dB - 20dB - 60dB	オーディオ入力 (CH2) の基準レベルを設定します。		○
703	CH3 IN LV	0000 0001 0002 0003	4dB 0dB - 3dB - 20dB	オーディオ入力 (CH3) の基準レベルを設定します。		○
704	CH4 IN LV	0000 0001 0002 0003	4dB 0dB - 3dB - 20dB	オーディオ入力 (CH4) の基準レベルを設定します。		○
706	CH1 OUT LV	0000 0001 0002 0003	4dB 0dB - 3dB - 20dB	オーディオ出力 (CH1) の基準レベルを設定します。		○
707	CH2 OUT LV	0000 0001 0002 0003	4dB 0dB - 3dB - 20dB	オーディオ出力 (CH2) の基準レベルを設定します。		○
708	CH3 OUT LV	0000 0001 0002 0003	4dB 0dB - 3dB - 20dB	オーディオ出力 (CH3) の基準レベルを設定します。		○
709	CH4 OUT LV	0000 0001 0002 0003	4dB 0dB - 3dB - 20dB	オーディオ出力 (CH4) の基準レベルを設定します。		○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

AUDIO メニュー

項目		設定値		設定内容	V T R 1	V T R 2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
714	EMPHASIS	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	オーディオ信号へのエンファシスを設定します。	○	○
726	REC CUE	0000 0001 <u>0002</u> 0003 0004 0005	CH1 CH2 <u>CH1 + 2</u> CH3 CH4 CH3 + 4	CUEトラックに記録する入力信号を設定します。 0 : オーディオCH1 入力 1 : オーディオCH2 入力 2 : オーディオCH1 とCH2 のミックス信号 3 : オーディオCH3 入力 4 : オーディオCH4 入力 5 : オーディオCH3 とCH4 のミックス信号	○	○
727	PB FADE	<u>0000</u> 0001 0002	<u>AUTO</u> CUT FADE	再生時における、音声編集点 (IN 点、OUT 点) の処理を設定します。 0 : 記録時の状態に従います。 1 : 強制的にカット処理します。 2 : 強制的にフェード処理します。	○	○
728	EMBEDDED AUD	0000 <u>0001</u>	<u>OFF</u> ON	シリアル出力にオーディオデータを埋め込む設定を行います。 0 : 埋め込みません。 1 : 埋め込みます。		○
731	CUE OUT SEL	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	サーチモード時、本線系出力に CUE AUDIO を出力する設定を行います。 0 : CUE AUDIO を出力しません。 1 : CUE AUDIO を出力します。	○	○
732	CUE SLOW	<u>0000</u> 0001	<u>STEP</u> LINEAR	SLOW 再生時のテープ走行状態 (CUEトラック再生状態) を設定します。 0 : 出力画を優先し、STEP 送りを行います。 1 : CUEトラック再生を優先し、LINEAR に走行します。 < ノート > 「1 : LINEAR」に設定した場合、 ・ TC/CTL スイッチは、TC にしてください。CTL カウンタは正常に動作しない場合があります。 ・ STEP モードのように、きれいな画像にならない場合があります。	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

AUDIO メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
770	CUE INSERT	<u>0000</u> 0001	OFF ON	AUDIO INSERT 時、CUE トラックへの記録を設定します。 0 : 記録せずに、すでに記録されている信号を残します。 1 : 記録します。		○
771	AUDIO SLOW	<u>0000</u> 0001 0002	PCM CUE A-CUE	SLOW 再生時のオーディオ出力モードを設定します。 0 : PCM モード - 0.43 ~ + 1 まで PCM 音声を出力し、それ以外は CUE 音声を出力します。 1 : CUE モード FWD1 倍速のときは PCM 音声を出力し、その他の速度では CUE 音声を出力します。 2 : ALL CUE モード FWD1 倍速を含め、すべての速度で CUE 音声を出力します。	○	○
772	AUTO MONI	<u>0000</u> 0001	<u>V1 + V2</u> AUTO	スピーカやヘッドホンに出力される信号を設定します。 0 : AUDIO MONITOR SELECT スイッチに従います。 1 : VTR1/VTR2 ボタンで選択した VTR の信号を出力します。 VTR1/VTR2 の同時操作モード時は、L に VTR1、R に VTR2 の信号を出力します。 < ノート > ・ OPERATION MODE スイッチが「SEPARATE」のときは、「V1 + V2」固定になります。 ・ CONTROL スイッチが「REMOTE」や「EXT VTR」のときは、「V1 + V2」固定になります。		○
773	PB AUDIO SEL	<u>0000</u> 0001	<u>TR1/2</u> TR3/4	ANALOG AUDIO OUT スイッチが「V1・V2」のときに、再生するトラックを設定します。 (50Mbps モードのときに機能します) 0 : トラック 1 と 2 に記録されている音声を再生します。 1 : トラック 3 と 4 に記録されている音声を再生します。	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

セットアップメニュー

LCD メニュー

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	スーパー表示	No.	スーパー表示			
B00	LCD MODE	0000 0001 0002	AUTO WIDE NORMAL	LCD モニターの画面表示を設定します。 0 : 再生時は、記録されているテープの情報に従います。 E-E 時 (記録等) は、セットアップメニュー No. 641 や No. 643 で設定されたモードに従います。 1 : 強制的にワイドモード (16 対 9) で表示します 2 : 強制的にノーマル (4 対 3) モードで表示します	○	○
B01	LCD HUE	0000 : 0030 : 0060	- 30 : 0 : 30	LCD モニターの HUE を調整します。 < ノート > 625i モード時はこのセットアップメニューが表示されません。	○	○
B02	LCD COLOR	0000 : 0030 : 0060	- 30 : 0 : 30	LCD モニターのカラーを調整します。	○	○

_____ は、工場出荷モードです。

操作方法

VTR1 での外部入力信号の記録

VTR1 は、アナログコンポーネント信号やアナログコンポジット信号を入力し記録することができます。625i システムでの記録はできません。

1 OPERATION MODE スイッチ (18 ページ) を「SEPARATE」に設定します。

2 セットアップメニュー No. 012 (SYS FORMAT) で、50Mbps モードで記録するか、25Mbps モードで記録するかを選択します。

3 セットアップメニュー No. 070 (TV SYSTEM) の設定が、「525」になっていることを確認します。

<ノート>

「525」「625」の設定を変更したときは、いったん電源を切り、再度電源を投入し直してください。

4 入力ビデオ信号の選択

セットアップメニュー No. 670 (V IN SEL) でアナログコンポーネント信号を入力するか、アナログコンポジット信号を入力するかを設定します。

5 入力オーディオ信号の選択

ANALOG AUDIO IN スイッチの設定と、後面の端子の信号接続を、31 ページのようにします。

6 VTR1 ボタンで VTR1 を選択し、REC ボタンを押しながら PLAY ボタンを押します。

7 記録を終了するときは、VTR1 が選択されている状態で、STOP ([SHIFT] + [PLAY]) ボタンを押します。

FF ボタンと REW ボタンを同時に押した場合も、同様に記録を終了します。

VTR2 での外部入力信号の記録

VTR2 は、アナログコンポーネント信号やアナログコンポジット信号、シリアルコンポーネントデジタル信号を入力し、記録することができます。

625i システムでは、シリアルコンポーネントデジタル信号のみの記録ができます。

1 OPERATION MODE スイッチ (18 ページ) を「SEPARATE」に設定します。

2 セットアップメニュー No. 012 (SYS FORMAT) で、50Mbps モードで記録するか、25Mbps モードで記録するかを選択します。

3 セットアップメニュー No. 070 (TV SYSTEM) の設定がアナログ信号入力の場合、「525」になっていることを確認します。

SDI 入力の場合、入力信号に合わせて「525」または「625」を選択します。

<ノート>

• 「525」「625」を変更したときは、いったん電源を切り、再度電源を投入し直してください。

• VTR1 と VTR2 を、異なる TV システムに設定することはできません。

4 入力ビデオ信号の選択

セットアップメニュー No. 670 (V IN SEL) でアナログコンポーネント信号を入力するか、アナログコンポジット信号を入力するかを設定します。

5 入力オーディオ信号の選択

ANALOG AUDIO IN スイッチの設定と、後面の端子の信号接続を、31 ページのようにします。

6 VTR2 ボタンで VTR2 を選択し、REC ボタンを押しながら PLAY ボタンを押します。

7 記録を終了するときは、ALL STOP ボタンを押します。

VTR2 が選択されている状態で STOP ([SHIFT] + [PLAY]) ボタンを押した場合や、FF ボタンと REW ボタンを同時に押した場合も、同様に記録を終了します。

操作方法

VTR1、VTR2 での再生

VTR1・VTR2 共にアナログコンポーネント信号やアナログコンポジット信号、シリアルコンポーネントデジタル信号を再生し、出力することができます。

- 1 OPERATION MODE スイッチ (18 ページ) を「SEPARATE」に設定します。
- 2 セットアップメニュー No. 013 (PB FORMAT) を「AUTO」に設定します。また、「MANU」に設定されている場合は、セットアップメニュー No. 012 (SYS FORMAT) を、再生するテープにあわせて設定します。
- 3 セットアップメニュー No. 070 (TV SYSTEM) を、再生するテープにあわせて、「525」または「625」に設定します。
<ノート>
 - 「525」「625」を変更したときは、いったん電源を切り、再度電源を投入し直してください。
 - VTR1 と VTR2 を、異なる TV システムに設定することはできません。
- 4 アナログビデオ出力する場合、セットアップメニュー No. 671 (V OUT SEL) でアナログコンポーネントで出力するか、アナログコンポジットで出力するかを設定します。
- 5 シリアルコンポーネントデジタル出力する場合、セットアップメニュー No. 174 (SDI OUT) で、SDI 出力する VTR を選択します。(SDI 出力が 1 系統しかないため、VTR1 と VTR2 のどちらか一方の VTR を選択します)
- 6 ANALOG AUDIO OUT スイッチの設定と、後面の端子の信号接続を、32 ページのようにします。
- 7 必要に応じて、REF VIDEO IN 端子にリファレンスビデオ信号を入力し、側面のエンコーダ調整ボリュームにてエンコーダ調整やシステム調整を行います。(28 ページ参照)
- 8 VTR1 ボタンまたは、VTR2 ボタンで再生する VTR を選択し、PLAY ボタンを押します。
- 9 再生を終了するときは、終了する VTR を選択して、STOP ([SHIFT] +[PLAY]) ボタンを押します。FF ボタンと REW ボタンを同時に押した場合も、同様に再生を終了します。ALL STOP ボタンを押すと VTR2 が停止します。

編集用テープの作成

編集を開始する前に、あらかじめテープにブラックバースト信号やタイムコード、CTL 信号を記録しておく必要があります。

アセンブル編集とインサート編集によって、編集用テープの作成方法が異なります。

アセンブル編集用テープの作成

アセンブル編集の場合、最初のアセンブル IN 点の手前に「助走区間」が必要です。

簡単に「助走区間」を作成する方法に、「1ST EDIT 機能」があります。

2 回目以降は、前回編集した部分を「助走区間」として使用しますので、1ST EDIT の必要はありません。

1 セットアップメニュー No. 377 (1ST EDIT TC)、No.378 (1ST EDIT UB) で、最初のアセンブル編集の IN 点にするタイムコード値やユーザーズビット値を設定します。

<ノート>

No. 509 (DF MODE) でドロップフレーム/ノンドロップフレームを選択してから値を設定してください。

2 セットアップメニュー No. 376 (1ST EDIT DUR) で記録区間の長さを選択します。

アセンブル編集の場合は、「26s」(26 秒 = 助走区間 23 秒 + オーバーラップ 3 秒) を選択します。

3 通常モードに戻り、VTR2 ボタンを押し VTR2 を選択して MARK IN ボタンにて IN 点を登録します。

VTR2 (レコーダ) 側テープの現在位置が、**1** で設定したタイムコード値の 23 秒前に設定されず。

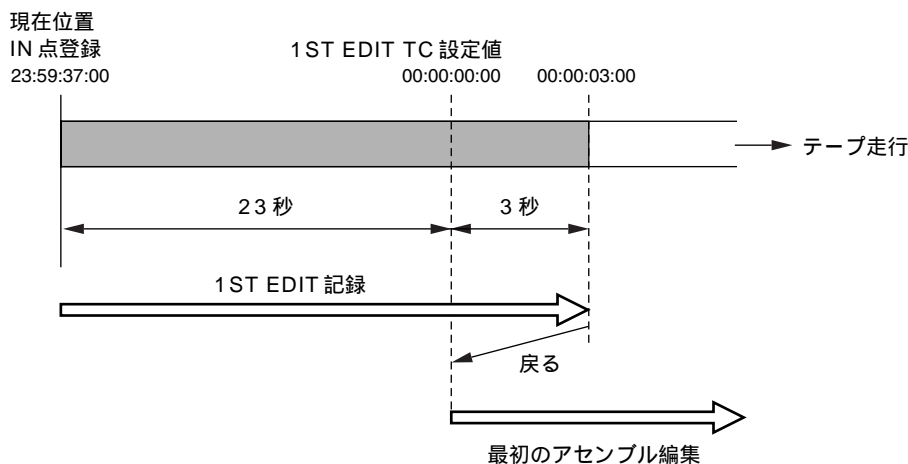
4 1ST EDIT ([SHIFT] + [ASMBL]) ボタンを押します。

ブラックバースト信号やタイムコード、CTL 信号の記録を開始します (音声は無音)。

助走区間 23 秒と、設定したタイムコード値の 3 秒後までのトータル 26 秒記録し、設定したタイムコード値の位置まで戻って停止します。

アセンブル編集の準備が完了します。

(例) 1ST EDIT TC を 00 : 00 : 00 : 00 に設定した場合



編集用テープの作成

編集タイトル（文字・記号）の記録

525iモード時のみ、1ST EDIT 開始から約7秒間、映像信号（ブラックバースト信号）に文字や記号をスーパーインポーズして記録することができます、編集タイトルや編集日時、機器の番号等を記録しておくことにより、後の作業や検索に便利です。

1 セットアップメニュー No. 379（1ST-E TITLE）にカーソルを合わせ、STILL ボタンを押して文字入力画面にします。

2 SHIFT ボタンを押します。
文字入力ができる位置のカーソルが点滅します。

3 SHIFT ボタンを押したまま、+ ボタンまたは - ボタンを押して文字を選択します。

キャラクター： ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ YZ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9, . : ; ? ! / ~ ' () + - ± * =

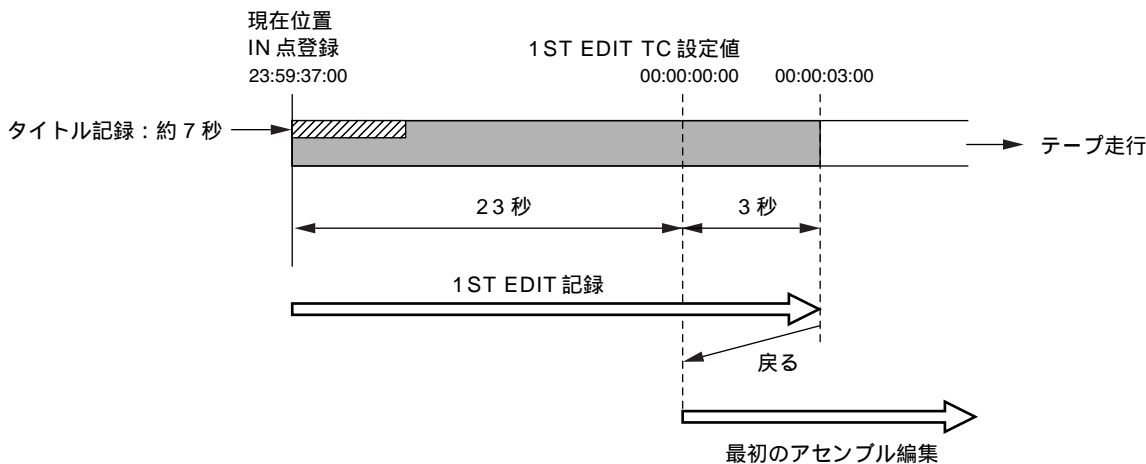
4 SHIFT ボタンを押したまま、FF ボタンまたは REW ボタンを押して、文字入力の位置を移動させます。

5 操作**3・4**を繰り返して文字を入力していきます。

6 文字入力終了すると、SHIFT ボタンを離し、STILL ボタンを押して文字入力画面から抜け出します。

7 セットアップメニュー No. 380（1ST-E DISP）を ON に設定します。

8 1ST EDIT を行います。



編集用テープの作成

インサート編集用テープの作成

インサート編集の場合、アSEMBル編集用テープの助走区間に加え、編集の全区間にわたってブラックバースト信号やタイムコード、CTL 信号が記録されている必要があります。

1ST EDIT による方法

アSEMBル編集用テープの作成の項目 **2** で「T-END」(テープ終端)を選択すると、テープ終端まで1ST EDIT 記録をつづけますので、全区間にわたってブラックバースト信号、タイムコード、CTL 信号を記録することができます。

通常記録による方法

1 VTR2 ボタンを押して VTR2 を選択し、REC ボタンを押しながら PLAY ボタンを押します。
VTR2 側の記録が始まります。

2 TC プリセットモード (R-RUN) でプリセット値を設定すれば、設定した値から記録します。(78 ~ 80 ページ参照)
<ノート>
インサート編集用テープにカラーバーやテストトーンが必要な場合、それぞれの信号を入力して、入力切り替えを該当する位置にしてください。
(55 ページ参照)

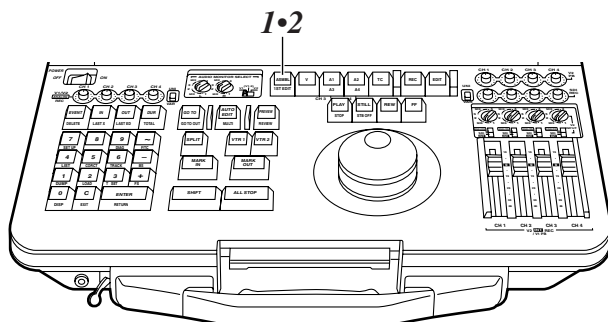
カット編集の操作

編集モードの選択

アSEMBル編集：

1 ASMBL ボタンを押します。
映像、音声（全チャンネル）、タイムコードを同時に記録するモードです。

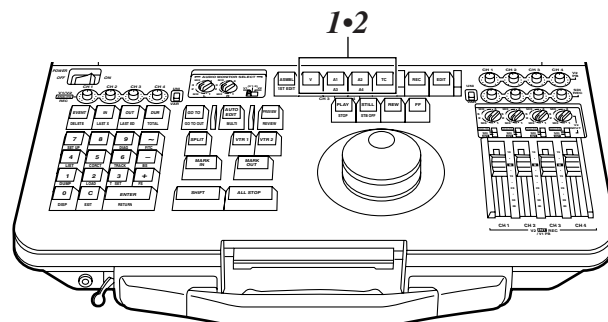
2 ASMBL ボタンのLED が、点灯していることを確認してください。



インサート編集：

1 V、A1、A2、A3、A4、TCのうち、編集したい信号を全て押します。

2 該当ボタンのLED が、点灯していることを確認してください。



< ノート >

- 選択した各モードを取り消す場合は、もう一度同じボタンを押してLEDを消灯させてください。
- 25Mbpsモード時にもA3、A4の設定ができますが、編集はできません。

カット編集の操作

編集点の登録

編集点の登録には、主に3通りの方法があります。

1. サーチダイヤルで編集画面を探し、MARK IN、MARK OUT ボタンで設定する。

1 設定するVTRを、VTR1 ボタンとVTR2 ボタンで選択します。

2 サーチダイヤルを使い、シャトルモードまたは、ジョグモードで編集点を捜します。

3 編集点で一時停止させ、MARK IN ボタンまたは、MARK OUT ボタンを押すと編集IN点、OUT点 が設定されます。

2. 数値入力ボタンで、編集点のタイムコードを直接入力する。

1 設定するVTRを、VTR1 ボタンとVTR2 ボタンで選択します。

2 IN ボタンまたは、OUT ボタンを押します。

3 希望のタイムコード値を数値入力します。
(8分32秒09フレームなら「83209」と押します。)

4 ENTER ボタンを押すと、入力した値が設定されます。

3. 編集区間の長さ(デュレーション)を指定して設定する。

1 設定するVTRを、VTR1 ボタンとVTR2 ボタンで選択します。

2 編集IN点を設定後、DUR ボタンを押します。

3 希望の編集区間長さ(デュレーション)を数値入力します。
(26秒07フレームなら「2607」と押します。)

4 ENTER ボタンを押すと、入力した値が設定されます。

<ノート>

- 設定された編集点は、編集点設定表示ランプ(INランプ、OUTランプ)で表示します。
- VTR1のIN点とOUT点、VTR2のIN点とOUT点の4点のうち、3点を設定すれば、編集点の設定は完了です。
残りの1点は、編集を実行したときに自動計算されます。

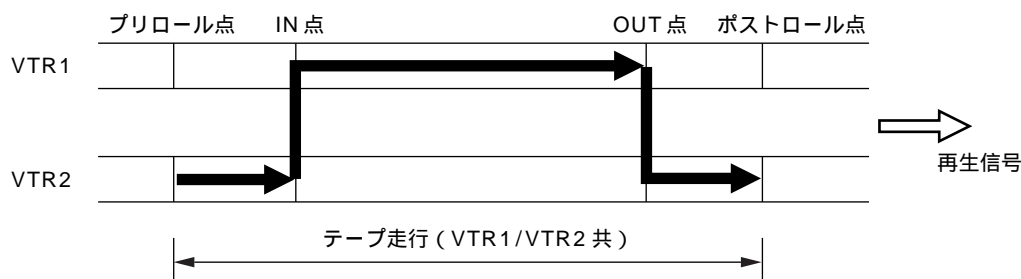
カット編集の操作

プレビュー

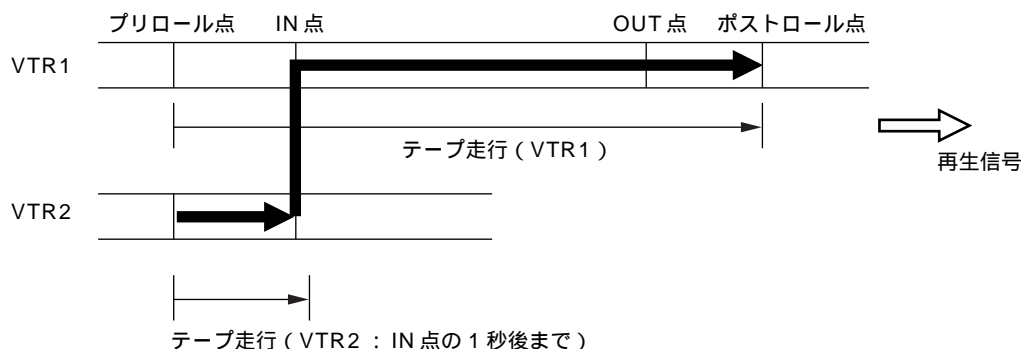
編集を実行する前のリハーサルです。
PREVIEW ボタンを押すと、イベント番号表示ランプ
に表示されているイベントの、プレビューを行います。
実際に編集して出来上がる画像や音声、VTR2 側

のモニターでシミュレーションとして再生されますので、事前に確認ができます。
再生されるのは、プリロール点からポストロール点
までです。

インサート編集のプレビュー



アセンブル編集のプレビュー



プレビューの途中で、プレビューを最初からやり直す
には？

- 再度 PREVIEW ボタンを押します。

プレビューの途中で、OUT 点を手前に設定し直すに
は？

- OUT 点を再設定したい場面で、MARK OUT ボタ
ンを押します。

プレビューを中断して、自動編集を実行するには？

- AUTO EDIT ボタンを押します。

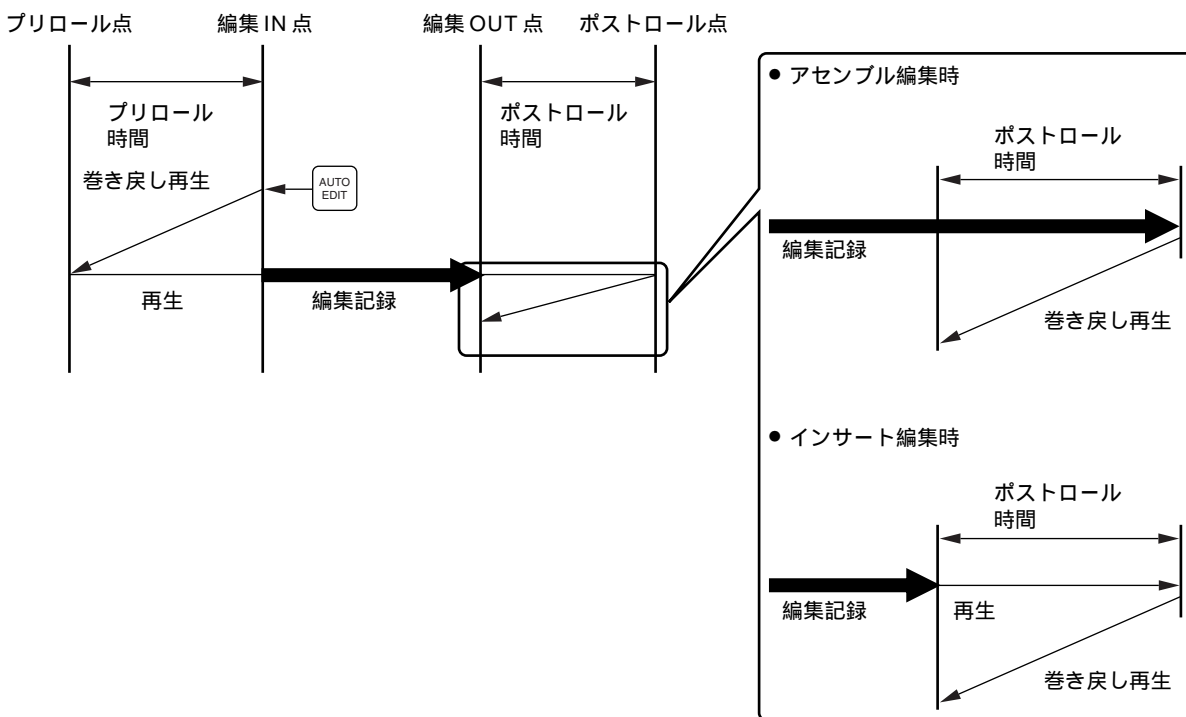
前回のプレビューの内容を呼び出すには？

- LAST ED ボタンを押します。
押す毎に、前回のプレビューと今回のプレビュー
の内容が、交互に呼び出されます。

カット編集の操作

編集の実行

AUTO EDIT ボタンを押します。

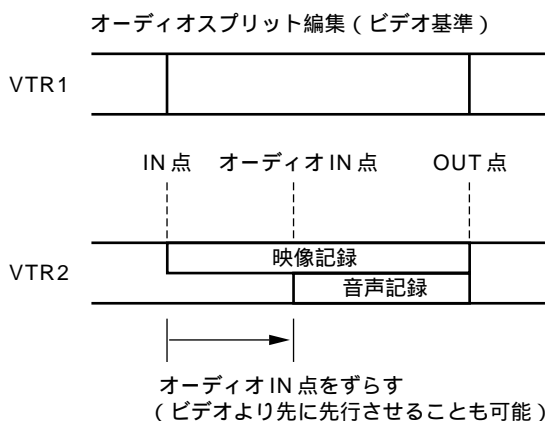


レビュー

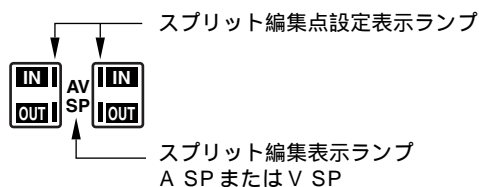
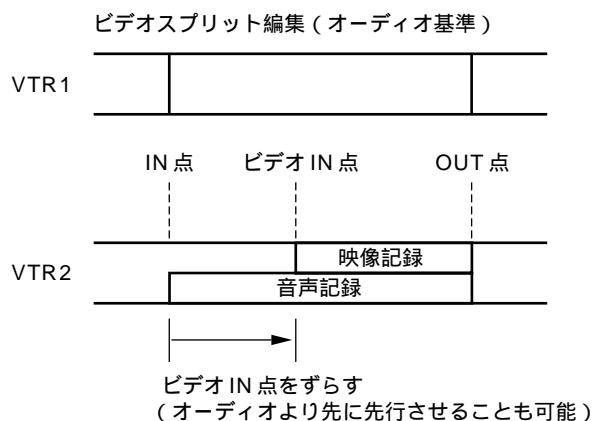
編集実行直後に REVIEW ([SHIFT] + [PREVIEW]) ボタンを押します。
実行された編集を、プリロール点からポストロール点まで再生します。

スプリット編集の操作

インサート編集のとき、ビデオのIN点に対して、オーディオのIN点をずらすことができます。(オーディオスプリット編集)



また、同様にオーディオのIN点に対し、ビデオのIN点をずらすこともできます。(ビデオスプリット編集)



1 セットアップメニュー No. 375 (SPLIT EDIT) の設定を、オーディオスプリット編集 (ビデオ基準) の場合は「AUDIO」に設定し、ビデオスプリット編集 (オーディオ基準) の場合は「VIDEO」に設定します。

2 ビデオインサート (V ボタン) を点灯させます。

3 A1 ボタン、A2 ボタン、A3 ([SHIFT] + [A1]) ボタン、A4 ([SHIFT] + [A2]) ボタンで、オーディオインサートするチャンネルを選択します。

4 VTR1 と VTR2 の IN 点を設定します。オーディオスプリット編集の場合は、ビデオの IN 点を設定したことになり、ビデオスプリットの場合は、オーディオの IN 点を設定したことになります。編集点設定表示ランプの IN ランプが点灯します。

<ノート>

4 の操作後、[SHIFT] + [MARK IN] ボタンを押すことで、5 ~ 7 の操作を省略することもできます。

5 SPLIT ボタンを押し、ボタン上の LED を点灯させます。

6 VTR1 または、VTR2 でスプリット IN 点 (オーディオスプリット編集の場合オーディオ IN 点、ビデオスプリット編集の場合ビデオ IN 点) を探し、MARK IN ボタンを押して設定します。設定された VTR 側のスプリット編集点設定表示ランプが点灯し、「A SP」または「V SP」ランプが点灯します。

7 再度 SPLIT ボタンを押します。SPLIT ボタン上の LED が点滅に変わり、スプリット点が設定されたことを示します。

8 VTR1 または、VTR2 の OUT 点を設定します。(オープンエンド編集も可能です。)

9 AUTO EDIT ボタンを押し、編集を実行します。(プレビューも可能です。)

<ノート>

SPLIT ボタン上の LED 点灯中に DUR ボタンを押すと、カウンターにスプリット量を表示します。

編集 IN 点の設定を省略して編集する (パークアンドエディット)

VTR1 と VTR2 の IN 点を設定せずに、編集が実行できます。

1 VTR1 および VTR2 を操作して、IN 点にしたい場所を頭出しします。

2 PREVIEW ボタンを押します。
PREVIEW ボタンを押した位置を編集 IN 点として自動設定し、プレビューを実行します。
OUT 点も設定されていない場合は、プレビュー中に、OUT 点にしたい場所で MARK OUT ボタンを押します。
MARK OUT ボタンを押した位置を、OUT 点として設定します。

3 AUTO EDIT ボタンを押して、編集を実行します。

<ノート>
プレビューを省略して編集を実行するときは、**2**で PREVIEW ボタンを押す代わりに AUTO EDIT ボタンを押して、編集を実行します。
AUTO EDIT ボタンを押した位置を編集 IN 点として自動設定し、編集を実行します。

編集 IN 点の設定だけで編集を行う (オープンエンド編集)

1 VTR1 と VTR2 の IN 点を設定します。

2 PREVIEW ボタンを押し、プレビューを実行します。

3 プレビュー実行中に、OUT 点にしたい場所で MARK OUT ボタンを押します。

<ノート>
プレビューを省略し編集を実行するときは、**2**で PREVIEW ボタンを押す代わりに AUTO EDIT ボタンを押して、編集を実行します。
編集を終了する位置で AUTO EDIT ボタンまたは、MARK OUT ボタンを押します。
押した位置が OUT 点として登録されます。

オートタグ編集を行う

登録された編集 OUT 点が、次の編集 (次のイベント) の編集 IN 点に自動的に設定されます。
IN 点を設定することなく、次々に続けて編集できます。
同ポジ編集を行うときに便利です。

1 セットアップメニュー No. 313 (AUTO ENTRY) を「REC1」、「REC2」または「ALL」に設定します。
(IN 点を自動設定したい VTR を選択します。)

2 自動編集を行います。

3 編集が終了して次のイベントに繰り上がったとき、**1**で選択した VTR の IN 点がすでに設定済みになっていますので、残りの編集点を設定し、次の編集を実行します。

静止画編集 / スロー編集

- 1 VTR1 (プレーヤ) のIN点とOUT点を同じ位置に設定します。
VTR1 ボタンでVTR1 を選択した後、MARK IN ボタンと MARK OUT ボタンの同時に押して、IN点とOUT点を同じ位置に設定します。
- 2 VTR2 ボタンでVTR2 を選択し、VTR2 (レコーダ) のIN点とOUT点をそれぞれ設定します。
IN点のみを設定しても、オープンエンドで実行できます。
- 3 VTR1 (プレーヤ) を選択し、サーチダイヤルを回して、実際に好みの速度でテープを走行させます。
静止画編集の場合は、速度0 (SHTL 0、STILL) にします。
選択できるスロー速度は、0、0.03、0.1、0.2、0.3、0.43 (正方向) です。
- 4 AUTO EDIT ボタンを押して、編集を実行します。
AUTO EDIT ボタンを押したときのVTR1 (プレーヤ) の速度を取り込み、スロー編集します。

< ノート >

- 静止画編集 / スロー編集は、OPERATION MODE スイッチが「INT」のときに可能です。
- スロー編集の場合、編集精度の保証はできません。

TC JUMP 機能

通常、プリロール区間にタイムコードの不連続点があると、正常に編集できません。
しかし、TC JUMP 機能を使うと、プリロール区間はCTLを基準に編集を実行することができ、IN点後の編集記録区間は、タイムコードを基準に編集を実行することができます。

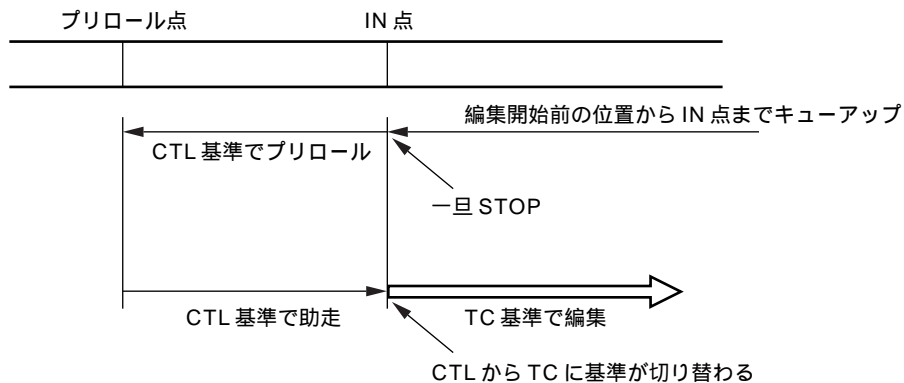
- 1 セットアップメニュー No. 571 (TC JUMP) を「VTR1」、「VTR2」または「ALL」に設定します。
(TC JUMP 機能を使うVTRを選択します。)

- 2 通常の編集を行います。

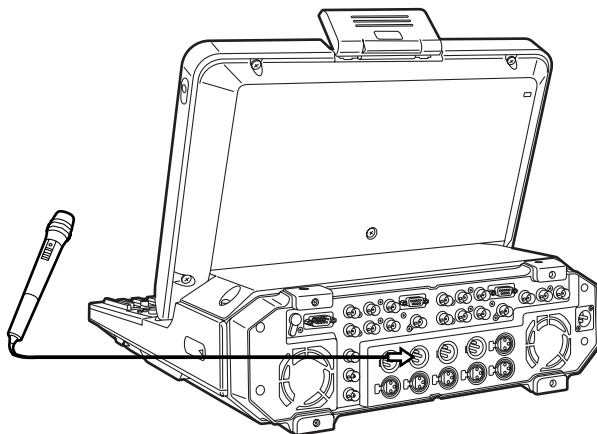
カウンター表示は、常にタイムコードを表示しており、プリロール区間にタイムコードの不連続部分があっても、あたかも連続しているように編集を実行できます。

< ノート >

TC JUMP 機能を使うと、プレビューや自動編集、レビュー実行時にいったんIN点までキューアップして、その後プリロールを開始します。これは、キューアップしたIN点のCTLを基準にプリロールと助走を行うためです。
助走後、再びIN点から編集記録に入った時点で、編集の基準がCTLからTCに切り替わります。



ヴォイスオーバー（操作1）



再生された映像を見ながら音声をインサート（アフレコ、ヴォイスオーバー）するときには、下記の方法で行います。

記録する音声をいったんメモリーに書き込んでから、次のステップでテープに記録しますので、音声をイン

サートしたい場所に、正確なタイミングで記録することができます。

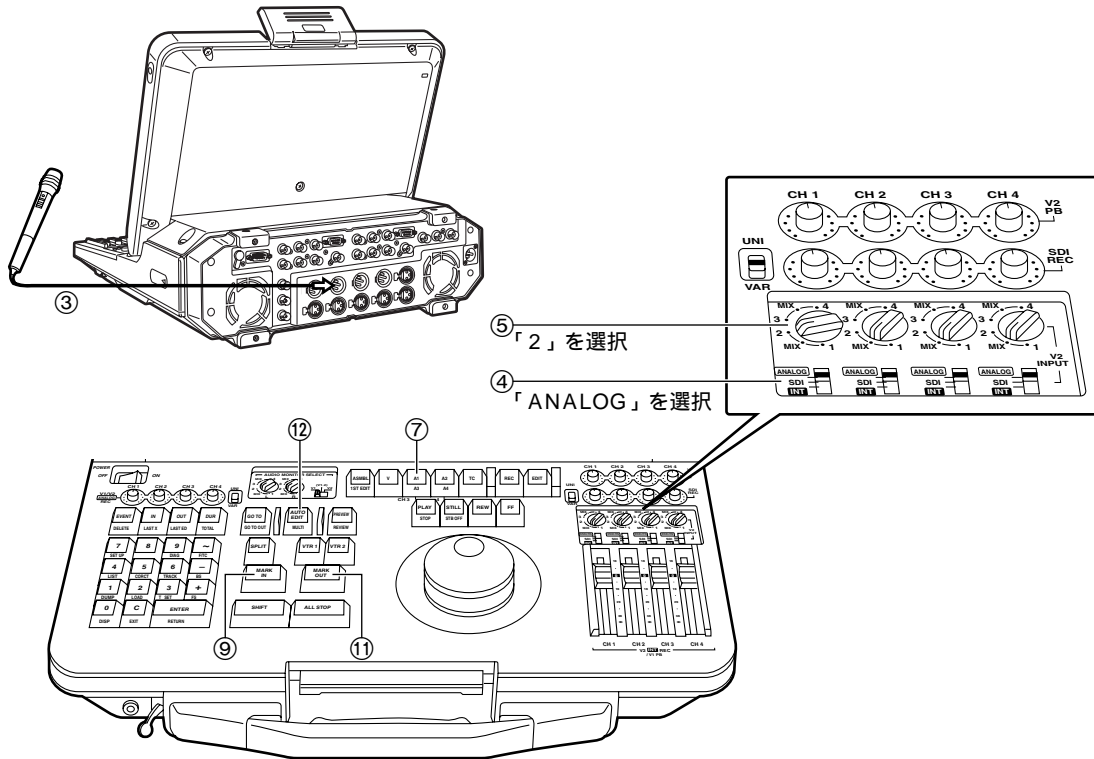
（約20秒分のメモリーを搭載しています）

<ノート>

記録できるチャンネルは、CH1とCH2のみです。

- 1 セットアップメニュー No. 317（AUD MEM MODE）を「INT_VO」に設定します。
このとき、VTR2側のスーパー表示に「m」が表示されます。（89ページ参照）
- 2 セットアップメニュー No. 318（AUD MEM CH）で、音声を記録するチャンネル（CH1、CH2）を選択します。
- 3 記録する音声信号を接続します。
マイクを接続する場合は、VTR2側のCH2（後面から見て左から2番目のAUDIO IN端子）に接続します。
- 4 記録するチャンネルのVTR2 AUDIO INPUT 切り替えスイッチ（ANALOG-SDI-INT）を「ANALOG」にします。
- 5 記録するチャンネルのVTR2 AUDIO INPUT 切り替えスイッチ（チャンネル切り替え）を、音声信号を入力したチャンネルに合わせます。
- 6 ヴォイスオーバーを行うカセットテープを、VTR2側に挿入します。
- 7 音声を記録するチャンネルのインサートボタン（A1、A2）を押し、ランプを点灯させます。
- 8 PLAYボタンを押し、VTR2に入れたテープを再生させます。
- 9 VTR2側のモニター画面を見ながら映像を確認し、ヴォイスオーバーを希望する位置（IN点）になったとき、MARK INボタンを押します。
- 10 引き続きPLAY状態で、記録する音声を入力します（マイク音声を入力等）。
- 11 OUT点でMARK OUTボタンを押します。
IN点からOUT点までの間に入力した音声、内部メモリーに書き込まれます。
内部メモリーに書き込みを開始してから20秒経過すると、スーパー表示に「o」が表示され、メモリーがいっぱいになったことを示します。（89ページ参照）
- 12 AUTO EDITボタンを押し、編集を実行します。
メモリーに書き込まれた音声、テープに記録されます。

ヴォイスオーバー（操作1）



■ 操作例

マイクの音声を、CH1 にアフレコ（ヴォイスオーバー）する場合

- ① セットアップメニュー No. 317 (AUD MEM MODE) を「INT_VO」に設定します。
このとき、VTR2 側のスーパー表示に「m」が表示されます。(89 ページ参照)
- ② セットアップメニュー No. 318 (AUD MEM CH) で、音声を記録するチャンネル (CH1) を選択します。
- ③ VTR2 側の CH2 にマイクを接続します。
セットアップメニュー No. 702 (CH2 IN LV) を「-60dB」に設定します。
- ④ CH1 (音声記録するチャンネル) の VTR2 AUDIO INPUT 切り替えスイッチ (ANALOG-SDI-INT、一番左) を「ANALOG」にします。
- ⑤ CH1 (音声記録するチャンネル) の VTR2 AUDIO INPUT 切り替えスイッチ (CH 切り替え、一番左) を、「2」(マイクを接続したチャンネル) に合わせます。
- ⑥ カセットテープを VTR2 側に挿入します。
- ⑦ A1 ボタン (音声を記録するチャンネルのインサートボタン) を押し、ランプを点灯させます。
- ⑧ PLAY ボタンを押し、VTR2 に入れたテープを再生させます。
- ⑨ VTR2 側のモニター画面を見ながら映像を確認し、ヴォイスオーバーを希望する位置 (IN 点) になったときに、MARK IN ボタンを押します。
- ⑩ 引き続き PLAY 状態で、マイクを使い音声を入力します。
- ⑪ OUT 点で MARK OUT ボタンを押します。
IN 点から OUT 点までの間に入力した音声は、内部メモリーに書き込まれます。
内部メモリーに書き込みを開始してから 20 秒経過すると、スーパー表示に「o」が表示され、メモリーがいっぱいになったことを示します。
(89 ページ参照)
- ⑫ AUTO EDIT ボタンを押して、編集を実行します。
メモリーに書き込まれた音声は、テープに記録されます。

ヴォイスオーバー（操作2）

次の方法でもヴォイスオーバーを行うことができます。

1～7までは「ヴォイスオーバー（操作1）」と同じです。

- 1** セットアップメニュー No. 317 (AUD MEM MODE) を「INT_VO」に設定します。
このとき、VTR2 側のスーパー表示に「m」が表示されます。(89 ページ参照)
- 2** セットアップメニュー No. 318 (AUD MEM CH) で、音声を記録するチャンネル (CH1、CH2) を選択します。
- 3** 記録する音声信号を接続します。
マイクを接続する場合は、VTR2 側の CH2 (後面から見て左から 2 番目の AUDIO IN 端子) に接続します。
- 4** 記録するチャンネルの VTR2 AUDIO INPUT 切り替えスイッチ (ANALOG-SDI-INT) を「ANALOG」にします。
- 5** 記録するチャンネルの VTR2 AUDIO INPUT 切り替えスイッチ (CH 切り替え) を、音声信号を入力したチャンネルに合わせます。
- 6** ヴォイスオーバーを行うカセットテープを、VTR2 側に挿入します。
- 7** 音声を記録するチャンネルのインサートボタン (A1、A2) を押して、ランプを点灯させます。
- 8** ヴォイスオーバーを希望する位置の、IN 点と OUT 点を設定します。
- 9** PREVIEW ボタンを押して、プレビューを実行します。
- 10** プレビュー実行中に、IN 点と OUT 点の間で、記録する音声を入力します (マイク音声を入力等)。
入力した音声は、内部メモリーに書き込まれます。
内部メモリーに書き込みを開始してから 20 秒経過すると、スーパー表示に「o」が表示され、メモリーがいっぱいになったことを示します。
(89 ページ参照)
- 11** AUTO EDIT ボタンを押して、編集を実行します。
メモリーに書き込まれた音声は、テープに記録されます。

オーディオクロスチャンネル編集

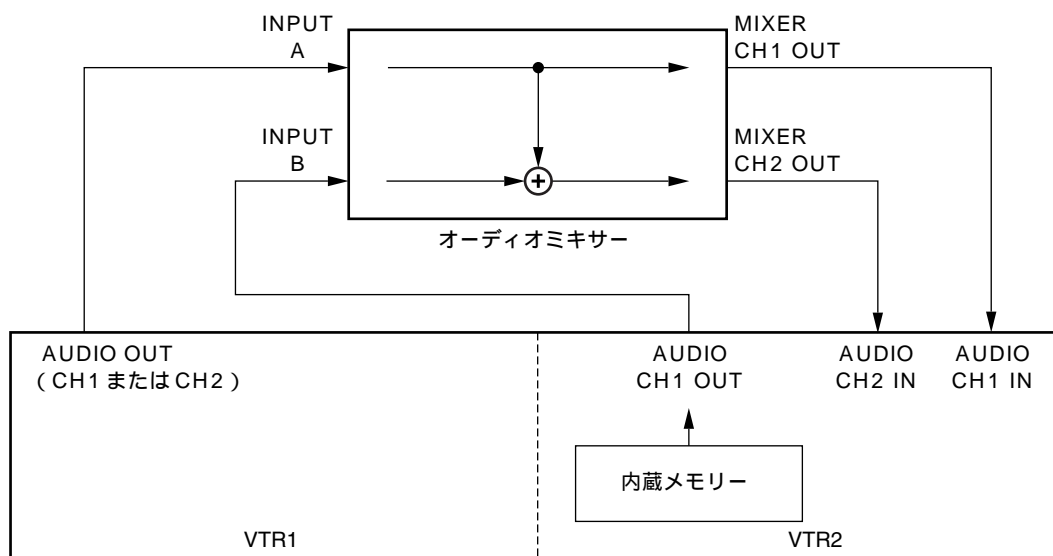
外部にオーディオミキサーを接続することにより、内蔵の音声メモリーを利用した、オーディオクロスチャンネル編集を行うことができます。

<ノート>

記録できるチャンネルは、CH1 と CH2 のみです。

■ 操作例

クロスフェードした音声信号を CH2 に記録する場合



AJ-LT95

第1ステップ

1 セットアップメニュー No. 317 (AUD MEM MODE) で「INT_X」を選択します。このとき、VTR2 側のスーパー表示に「m」が表示されます。(89 ページ参照)

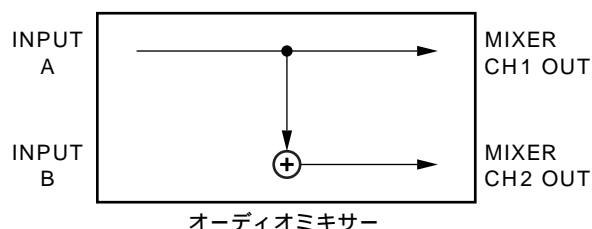
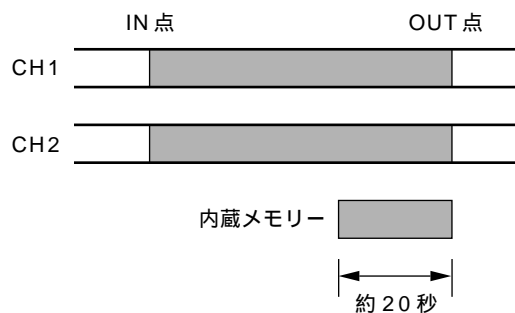
2 セットアップメニュー No. 318 (AUD MEM CH) で「CH2」を選択します。

3 A1 ボタンと A2 ボタンを押して、LED を点灯させます。(CH1 と CH2 のオーディオインサート)

4 VTR1 と VTR2 の編集点を設定します。

5 オーディオミキサーを操作して、VTR1 の出力信号 (オーディオミキサーの INPUT A 入力) を、MIXER CH1 OUT と MIXER CH2 OUT から出力されるようにします。(オーディオミキサーの INPUT B 入力は絞る。)

6 AUTO EDIT ボタンを押して、編集を実行します。VTR2 の CH1 と CH2 に、同じ音声 (VTR1 の出力) がインサート記録されます。このとき内蔵メモリーにも、OUT 点の前約 20 秒分の同じ音声を書き込まれます。



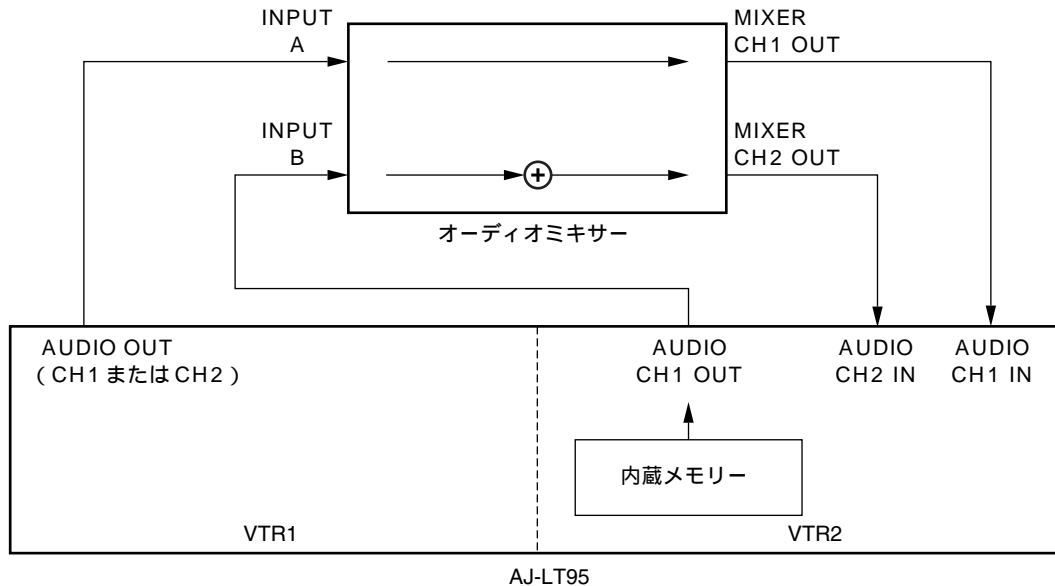
オーディオクロスチャンネル編集

第2ステップ

1 A1 ボタンを押し、LED を消灯させます。
A2 ボタンの LED は、点灯したままです。
(CH1 のオーディオインサートを解除し、CH2 のオーディオインサートのみにします。)

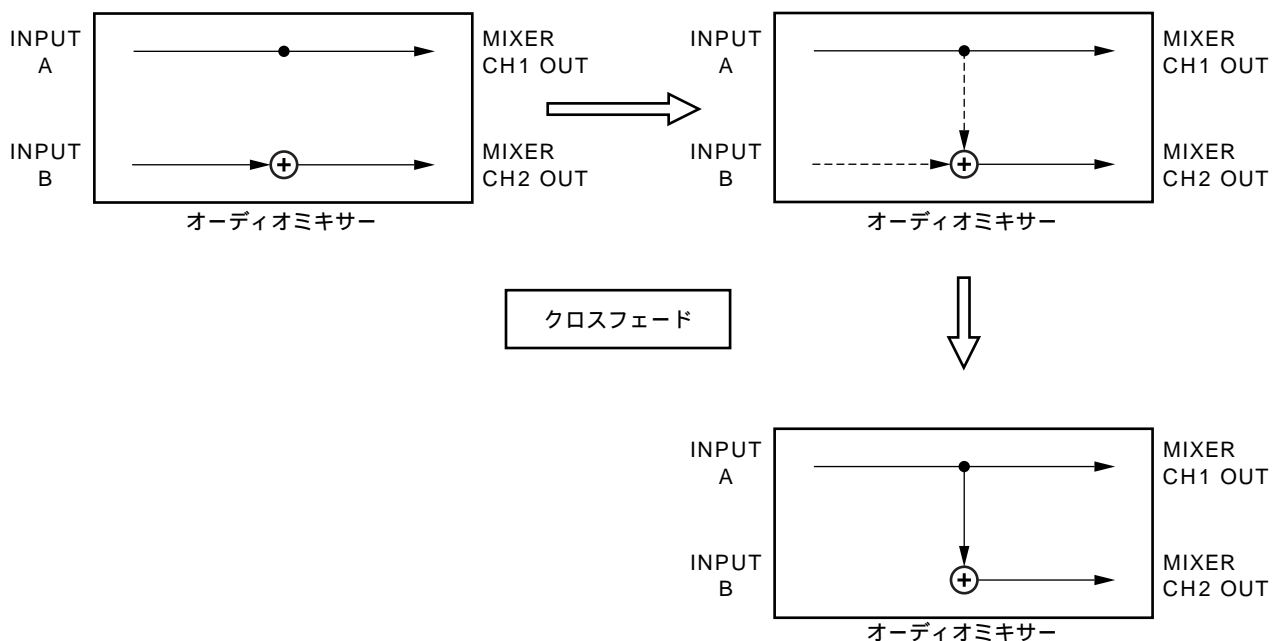
2 VTR1 と VTR2 の編集点を設定します。

3 オーディオミキサーを操作して、VTR1 の出力信号 (ミキサーの INPUT A 入力) を MIXER CH1 OUT から出力されるようにし、VTR2 の CH1 の出力信号 (オーディオミキサーの INPUT B 入力) を MIXER CH2 OUT から出力されるようにします。



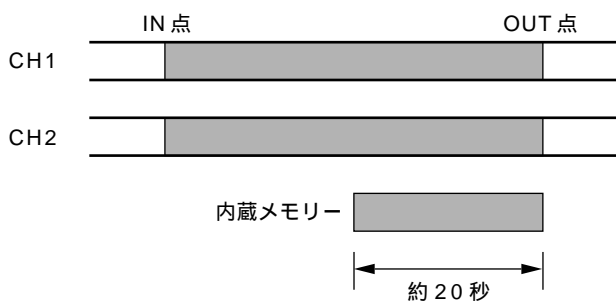
4 AUTO EDIT ボタンを押し、編集を実行します。

IN 点で編集記録に入るとオーディオミキサーを操作して、MIXER CH2 OUT の出力を、VTR2 の CH1 出力信号 (内蔵メモリー出力、オーディオミキサーの INPUT B 入力) から VTR1 の出力信号 (オーディオミキサーの INPUT B 入力) へ徐々に変化させます。(クロスフェード操作)

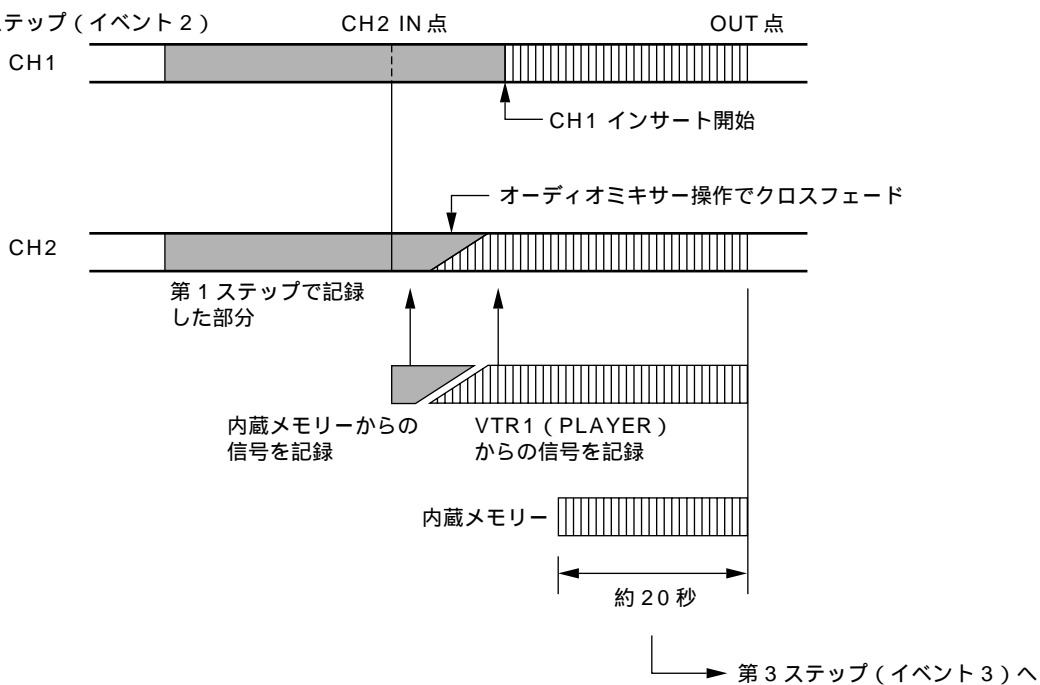


オーディオクロスチャンネル編集

第1ステップ(イベント1)



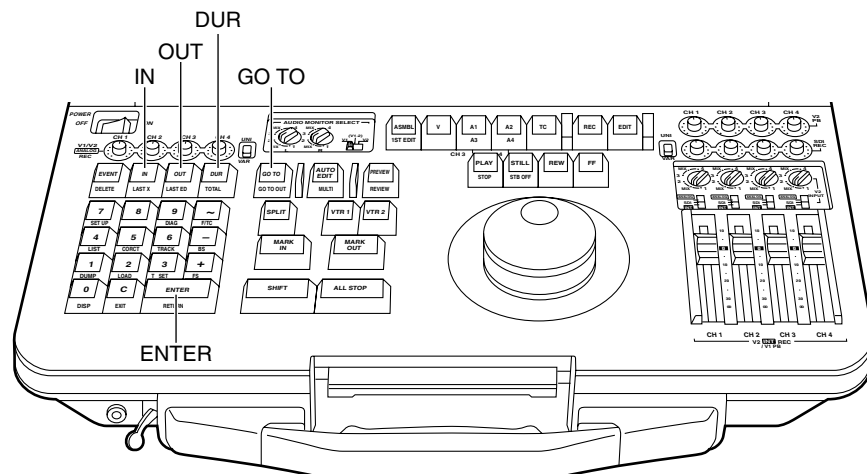
第2ステップ(イベント2)



5 次のオーディオクロスチャンネル編集(次のイベント)のために、オーディオミキサーのクロスフェード操作が完了した後、A1 ボタンを押して、CH1 のインサート編集を開始します。OUT 点で編集を終了しますが、このとき内蔵メモリーにも、OUT 点の前約 20 秒分の同じ音声を書き込まれます。

6 編集を続ける場合は、第 2 ステップ 1 からの操作を繰り返します。

編集点を確認する (IN、OUT、DUR、GO TO)



■ 編集 IN 点の設定値を確認する (IN)

IN ボタンを押します。

押している間、VTR1 のカウンターに VTR1 の IN 点データを表示し、VTR2 のカウンターに VTR2 の IN 点データを表示します。

■ 編集 OUT 点の設定値を確認する (OUT)

OUT ボタンを押します。

押している間、VTR1 のカウンターに VTR1 の OUT 点データを表示し、VTR2 のカウンターに VTR2 の OUT 点データを表示します。

■ 編集デュレーションを確認する (DUR)

DUR ボタンを押します。

押している間、表示しているイベントの編集デュレーションを、VTR1 と VTR2 のカウンターに表示します。

■ 編集点キューアップする (GO TO、GO TO OUT)

VTR1 ボタンと VTR2 ボタンで VTR を選択した後、GO TO ボタンを押します。

GO TO ボタン上のランプが点灯し、選択された VTR が自動的に編集 IN 点をサーチして停止します。

GO TO OUT ([SHIFT] + [GO TO]) ボタンを押すと、選択された VTR が、自動的に編集 OUT 点をサーチして停止します。

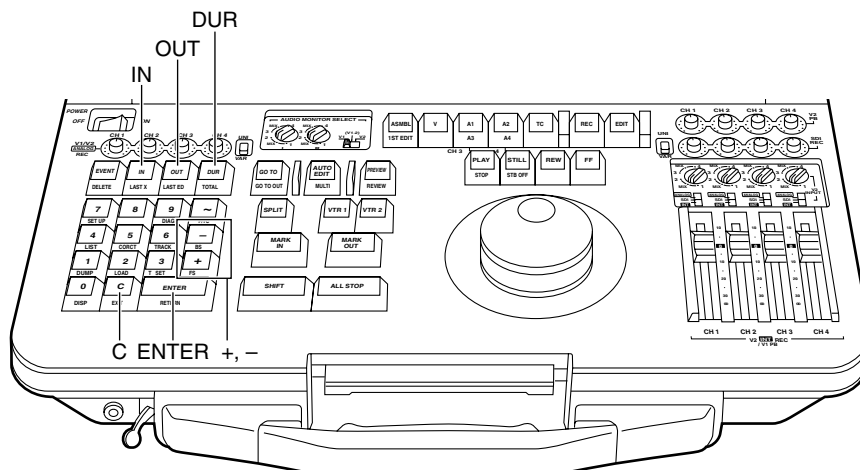
■ 希望するタイムコードへキューアップする (GO TO)

VTR1 ボタンと VTR2 ボタンで VTR を選択します。

数値入力ボタンで、希望するタイムコード値または CTL 値を入力した後、GO TO ボタンを押すと、GO TO ボタン上のランプが点灯し、選択された VTR が自動的に、入力されたタイムコードをサーチして停止します。

編集データの修正・取り消し

編集点の設定などを間違えたとき、次の方法で修正や取り消しを行うことができます。



■ 編集点（IN点、OUT点、デュレーション）を1フレームずつ修正する。（トリミング）

- 編集IN点を1フレーム増やすときは、INボタンを押しながら+ボタンを押します。
- 編集IN点を1フレーム減らすときは、INボタンを押しながら-ボタンを押します。
- 編集OUT点を1フレーム増やすときは、OUTボタンを押しながら+ボタンを押します。
- 編集OUT点を1フレーム減らすときは、OUTボタンを押しながら-ボタンを押します。
- デュレーションを1フレーム増やすときは、DURボタンを押しながら+ボタンを押します。
- デュレーションを1フレーム減らすときは、DURボタンを押しながら-ボタンを押します。

■ 編集点（IN点、OUT点、デュレーション）を修正する。

編集IN点を修正するときは、

- ① INボタンを押します。
- ② 編集点を後ろにずらすときは+ボタンを押し、前にずらすときは-ボタンを押します。
- ③ 数値入力ボタンで、増減する値を入力します。
- ④ ENTERボタンを押します。

編集OUT点を修正するときは、①でINボタンの代わりにOUTボタンを押します。

デュレーションを修正するときは、①でINボタンの代わりにDURボタンを押します。

■ 編集点（IN点、OUT点、デュレーション）を取り消す。

編集IN点を取り消すときは、

- ① INボタンを押します。
- ② Cボタンを押します。
- ③ ENTERボタンを押します。

編集OUT点を取り消すときは、①でINボタンの代わりにOUTボタンを押します。

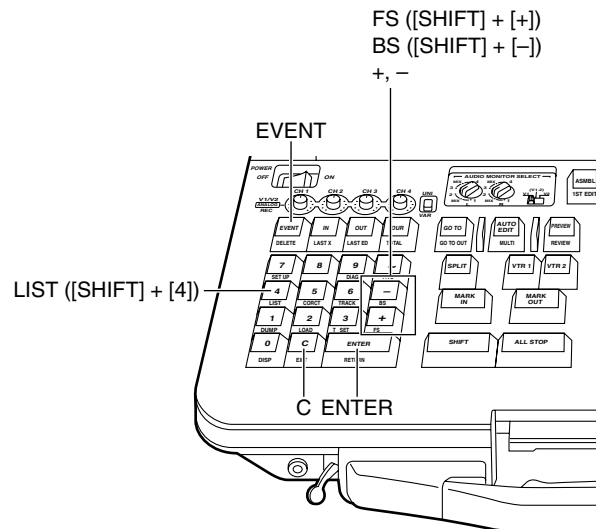
デュレーションを取り消すときは、①でINボタンの代わりにDURボタンを押します。

編集データの登録・呼び出し

本機は、200 イベント分の EDL (EDIT DECISION LIST) メモリーを内蔵しています。

EDL メモリーに編集データを登録して、必要なときに登録したイベントのデータを呼び出すことができます。

呼び出したデータを修正したり、1 イベントずつの編集や、複数イベントの編集を行うことができます。



■ 編集を実行して、編集データを EDL メモリーに登録する。

ニューイベント (イベント番号表示ランプの 3 桁の数字の前に「n」が表示されているイベント) で編集データを作成して編集を実行すると、編集終了時に自動的に EDL メモリーに登録します。また、同時にイベント番号を 1 つ繰り上げ、編集データを更新します。

■ 編集を実行せずに、編集データを EDL メモリーに登録する。

ニューイベントで編集データを作成し、FS ([SHIFT] + [+]) ボタンを押すと、編集データを EDL メモリーに登録します。また、同時にイベント番号を 1 つ繰り上げ、編集データを更新します。ニューイベント以外で編集データを変更した後に FS ボタンを押したときは、変更したデータの登録を確認する画面が表示されます。

(CORRECT OK?)

登録する場合は、ENTER ボタンを押し、登録しない場合は C ボタンを押します。

VTR2 (レコーダ) 側の編集 OUT 点が変更された場合は、リップル処理も確認します。

詳しくは、「コレクト機能」(81 ページ) をご覧ください。

<ノート>

セットアップメニュー No. 374 (EDL AUTO CLR) が「OFF」に設定されているときに、イベント 000 ~ 200 を登録すると、イベント番号表示ランプに「FULL」が表示されて、それ以上の登録ができなくなります。(上書き禁止)

「ON」に設定されているときは、イベント 200 の次に編集データを登録すると、イベント 001 に戻って上書き登録されます。

■ 表示しているイベントの前後の編集データを呼び出す。

次のイベントの編集データを呼び出す場合は、FS ([SHIFT] + [+]) を押します。

1 つ前のイベントの編集データを呼び出す場合、BS ([SHIFT] + [-]) を押します。

■ イベント番号を指定して、編集データを呼び出す。

イベントボタンを押した後、数値入力ボタンを使って希望するイベント番号を入力して、ENTER ボタンを押します。

■ 画面上で編集データを探してから呼び出す。

① LIST ([SHIFT] + [4]) ボタンを押します。モニター画面上に表示しているイベントと、その前後のデータが表示されます。

詳しい表示内容は、「編集データを加工する (LIST)」をご覧ください。

② FS ボタンや BS ボタンを使って、モニター画面上の編集データを前後させ、希望の編集データを探します。

③ ENTER ボタンを押します。

マルチイベント編集

複数のイベントが登録されているときに、複数のイベントをまとめて編集することができます。

1 最初に編集するイベントを呼び出します。(「編集データの登録・呼び出し」参照)

2 MULTI ([SHIFT] + [AUTO EDIT]) ボタンを押します。

呼び出したイベントから最後のイベントまで、自動的に編集します。

削除されたイベント(イベント番号の前に「d」が表示されたイベント)は除きます。

例：

001 ~ 050 イベントまで登録されていて、025 ~ 050 イベントだけを編集する場合は、025 イベントを呼び出してマルチイベント編集を実行します。

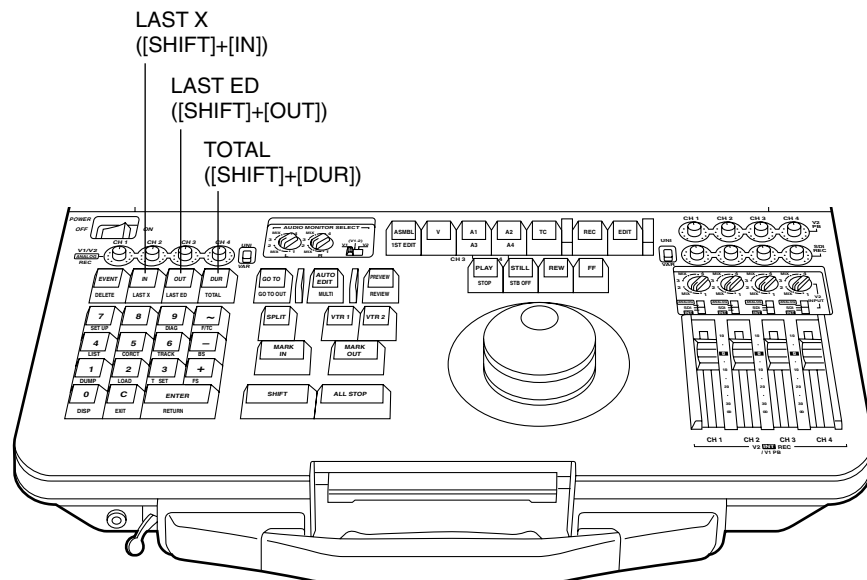
例えば、イベント 34、35、48 が削除されていて「d034」「d035」「d048」となっている場合、イベント 25 ~ 33、36 ~ 47、49、50 を続けて編集します。

< ノート >

途中でマルチイベント編集をやめるときは、ALL STOP ボタンを押します。

再度編集を始めるときは、MULTI ([SHIFT] + [AUTO EDIT]) ボタンを押します。

LAST X/LAST ED/TOTAL



LAST X ([SHIFT] + [IN])

削除したイベントを再登録する

一度削除したイベントを再登録することができます。

- 削除したイベント（イベント番号表示部に「d」表示があるイベント）を呼び出し、LAST X ([SHIFT] + [IN]) ボタンを押します。
このとき、表示部の「d」が、無表示に変わります。

LAST ED ([SHIFT] + [OUT])

プレビュー編集した元データを呼び出す

現在のデータをプレビューした後に、以前プレビュー編集した元データを、呼び戻すことができます。

- LAST ED ([SHIFT] + [OUT]) ボタンを押します。
以前プレビュー編集した元データに戻ります。
- 再度 LAST ED ボタンを押すと、現在の編集データに戻ります。
LAST ED ボタンを押す毎に、元データと現在の編集データが交互に表示されます。

LAST ED バッファ：

LAST ED バッファに自動的に登録されるデータは、EDL メモリーに登録された最新のデータや、変更する前のプレビューデータです。LAST ED ボタンを押すと、このバッファ内に登録されたデータを呼び出します。「データ変更後にプレビューを実行したけれど、変更前のほうがよかった」といった場合に便利です。

TOTAL ([SHIFT] + [DUR])

編集の合計時間を調べる

編集スタートからの編集トータル時間を表示します。長さの決まっている編集を行うとき、編集時間を確認できます。

- TOTAL ([SHIFT] + [DUR]) ボタンを押します。
ボタンを押している間、VTR2 のタイム表示部に、編集の合計時間を表示します。

スタート時間 / エンド時間：

編集点の設定の状態などにより、計算の基準となる時間が決まります。

編集の合計時間は、下記に定めたエンド時間からスタート時間を引いた時間になります。

スタート時間：

通常は、EDL メモリーの最初イベントに設定した編集データの、VTR2 (レコーダ) IN 点をスタート時間とします。

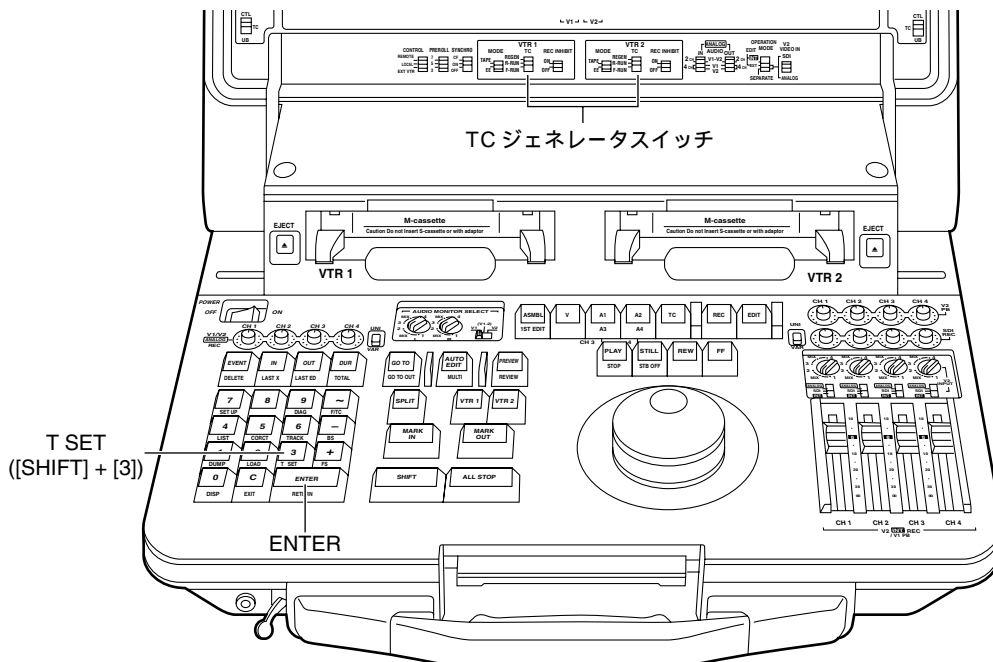
エンド時間：

表示しているイベントの VTR2 (レコーダ) OUT 点をエンド時間とします。

OUT 点が設定されていないときは、VTR2 (レコーダ) の IN 点をエンド時間とし、IN 点も設定されていないときは、前のイベントの VTR2 (レコーダ) OUT 点をエンド時間とします。

タイムコードの設定 (T SET)

手動記録時や 1ST EDIT 時の、タイムコードの初期値を設定します。



タイムコードの初期値を設定して、手動で記録する場合

- 1 記録する VTR の TC ジェネレータスイッチを「R-RUN (REC RUN)」または、「F-RUN (FREE RUN)」に設定します。
REC RUN は、記録時のみにタイムコードが歩進を行うモードです。
FREE RUN は、タイムコードの設定が完了した時点より歩進を開始する (電源 ON の間は常に歩進する) モードです。
- 2 T SET ([SHIFT] + [3]) ボタンを押します。
- 3 数値入力ボタンで、記録するタイムコードの初期値を入力します。
- 4 ENTER ボタンを押します。
- 5 ユーザーズビットもプリセットして、手動で記録する場合は、次の①～④の設定を行います。
 - ① セットアップメニュー No. 574 (UB PRESET) にカーソルを合わせます。
 - ② T SET ([SHIFT] + [3]) ボタンを押します。
 - ③ 数値入力ボタンで、希望するユーザーズビット値を入力します。(79 ページ参照)
 - ④ ENTER ボタンを押します。
- 6 記録する VTR を選択し、REC ボタンと PLAY ボタンを押して、記録を開始します。

< ノート >

手動で記録するときは、セットアップメニュー No. 504 (REGEN MODE) の設定にかかわらず、TC ジェネレータスイッチを「R-RUN」または、「F-RUN」に設定することにより、タイムコードの初期値が設定できます。

タイムコードの設定 (T SET)

タイムコードの初期値を設定して、1ST EDITを行う場合

1 セットアップメニュー No. 377 (1ST EDIT TC) にカーソルを合わせます。

2 T SET ([SHIFT] + [3]) ボタンを押します。

3 数値入力ボタンで、希望するタイムコード値を入力します。

4 ENTER ボタンを押します。

5 セットアップメニュー No. 378 (1ST EDIT UB) にカーソルを合わせます。

6 T SET ([SHIFT] + [3]) ボタンを押します。

7 数値入力ボタンで、希望するユーザーズビット値を入力します。

8 ENTER ボタンを押します。

< ノート >

アルファベットの A ~ F を入力するときは、SHIFT ボタンと数値入力ボタンを押します。

A ([SHIFT] + [1])

B ([SHIFT] + [2])

C ([SHIFT] + [3])

D ([SHIFT] + [4])

E ([SHIFT] + [5])

F ([SHIFT] + [6])

アセンブル編集やタイムコードインサート編集で、初期値を設定したタイムコードを記録する場合 (VTR2 のみ)

OUT 点を設定せずに編集を実行する、オープンエンド編集のときに可能です。

1 セットアップメニュー No. 504 (REGEN MODE) を「SW」に設定します。

2 VTR2 側の TC ジェネレータスイッチを「R-RUN」または、「F-RUN」に設定します。

3 T SET ([SHIFT] + [3]) ボタンを押します。

4 数値入力ボタンで、記録するタイムコードの初期値を入力します。

5 ENTER ボタンを押します。

6 IN 点だけを設定して、アセンブル編集または、タイムコードインサート編集を行います。

< ノート >

- OUT 点を設定すると、正常に動作しません。
- セットアップメニュー No. 504 (REGEN MODE) を「SW」以外 (「AS&IN」「ASSEM」「INSRT」) に設定すると、VTR2 側の TC ジェネレータスイッチの位置に関係なく、セットアップメニュー No. 504 で設定した編集時に、REGEN (リジェネ) モードでタイムコードを記録します。

タイムコードの設定 (T SET)

ユーザズビットをプリセットして、アセンブル編集やタイムコードインサート編集を行う場合

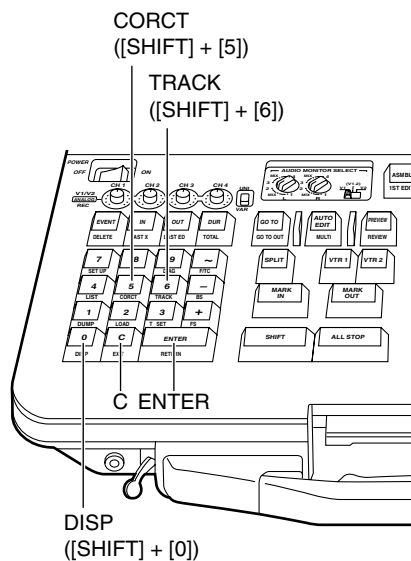
- 1** セットアップメニュー No. 574 (UB PRESET) にカーソルを合わせます。
- 2** T SET ([SHIFT] + [3]) ボタンを押します。
- 3** 数値入力ボタンで、希望するユーザズビット値を入力します。
- 4** ENTER ボタンを押します。
- 5** セットアップメニュー No. 504 (REGEN MODE) を「SW」に設定します。
- 6** VTR2 側の TC ジェネレータスイッチを「R-RUN」または、「F-RUN」に設定します。
- 7** アセンブル編集または、タイムコードインサート編集を行います。

CORCT/TRACK/DISP

コレクト機能 (CORCT)

ニューイベント以外の（編集データがすでに登録されている）イベントで、編集データの修正を行う機能です。

- 1 CORCT ([SHIFT] + [5]) ボタンを押します。
変更したデータを、EDL メモリーに登録します。
- 2 VTR2 (レコーダ) の編集 OUT 点が変わっているときは、リップル処理を確認するメッセージを表示します。(RIPPLE OK?)
リップル処理を行うときは、ENTER ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、C ボタンを押します。
- 3 リップル処理を行うときは、次に実行するイベントを入力します。
データを変更したイベント以降、全てのイベントに対してリップル処理を行うときは、そのまま ENTER ボタンを押します。
処理するイベントを指定するときは、数値入力ボタンと ~ ボタンを使ってイベントを入力します。
例：
イベント 5 から、イベント 21 を指定するときは、
[5] ▶ [~] ▶ [2] ▶ [1] ▶ [ENTER] と押します。



トラック機能 (TRACK)

VTR2 (レコーダ) の編集 IN 点の変更に従って、VTR1 (プレーヤ) の編集点を効率よく設定する機能です。

- 1 VTR2 (レコーダ) の編集 IN 点を変更します。
- 2 TRACK ([SHIFT] + [6]) ボタンを押して、トラックモードにします。
 - モニター画面のカウンター表示が、時間と分間の「: (コロン)」が「.(ドット)」になり、トラックモードになっていることを示します。
 - 表示管のタイムコード表示 (または UB 表示、CTL 表示) が点滅して、トラックモードになっていることを示します。
 - VTR1 (プレーヤ) の編集 IN 点が、1 の変更に従って自動的に変更されます。
- 3 トラックモードのときに VTR2 (レコーダ) の編集 IN 点を変更すると、VTR1 (プレーヤ) の編集 IN 点も自動的に追従して変更されます。
- 4 VTR1 (プレーヤ) の編集点を変更すると、トラックモードが解除されます。

< ノート >

セットアップメニュー No. 313 (AUTO ENTRY) を「ALL」に設定すると、自動的にトラックモードになりますので、TRACK ([SHIFT] + [6]) ボタンを押してトラックモードにする必要はありません。

モニター表示の ON/OFF 切り替え (DISP)

DISP ([SHIFT] + [0]) ボタンを押すと、ステータス表示や動作モード等のモニター上 (LCD モニター、VIDEO MONITOR 出力) への、スーパー表示の ON/OFF を切り替えることができます。

EDL メモリーの編集データを消す

全ての編集データを消す

1 EVENT ボタンを押します。

2 9 ボタンを 3 回押して、イベント番号表示ランプを「999」と表示させます。

3 SHIFT ボタンを押しながら ENTER ボタンを押します。

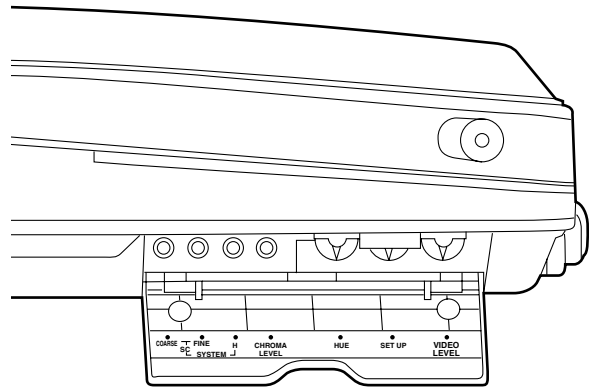
EDL メモリー内の全ての編集データが消去されます。

<ノート>

[SHIFT] + [ALL STOP] + [C] ボタンを同時に押すことでも、同様に EDL メモリー内の全ての編集データを消去することができます。

エンコーダー調整

送出などを行うとき、誤差のない正確な編集を行うためには、システム接続語にビデオ信号（ENCODER OUT）調整する必要があります。（この調整は、接続ケーブルを交換したときや接続を変えるごとに調整し直す必要があります。）

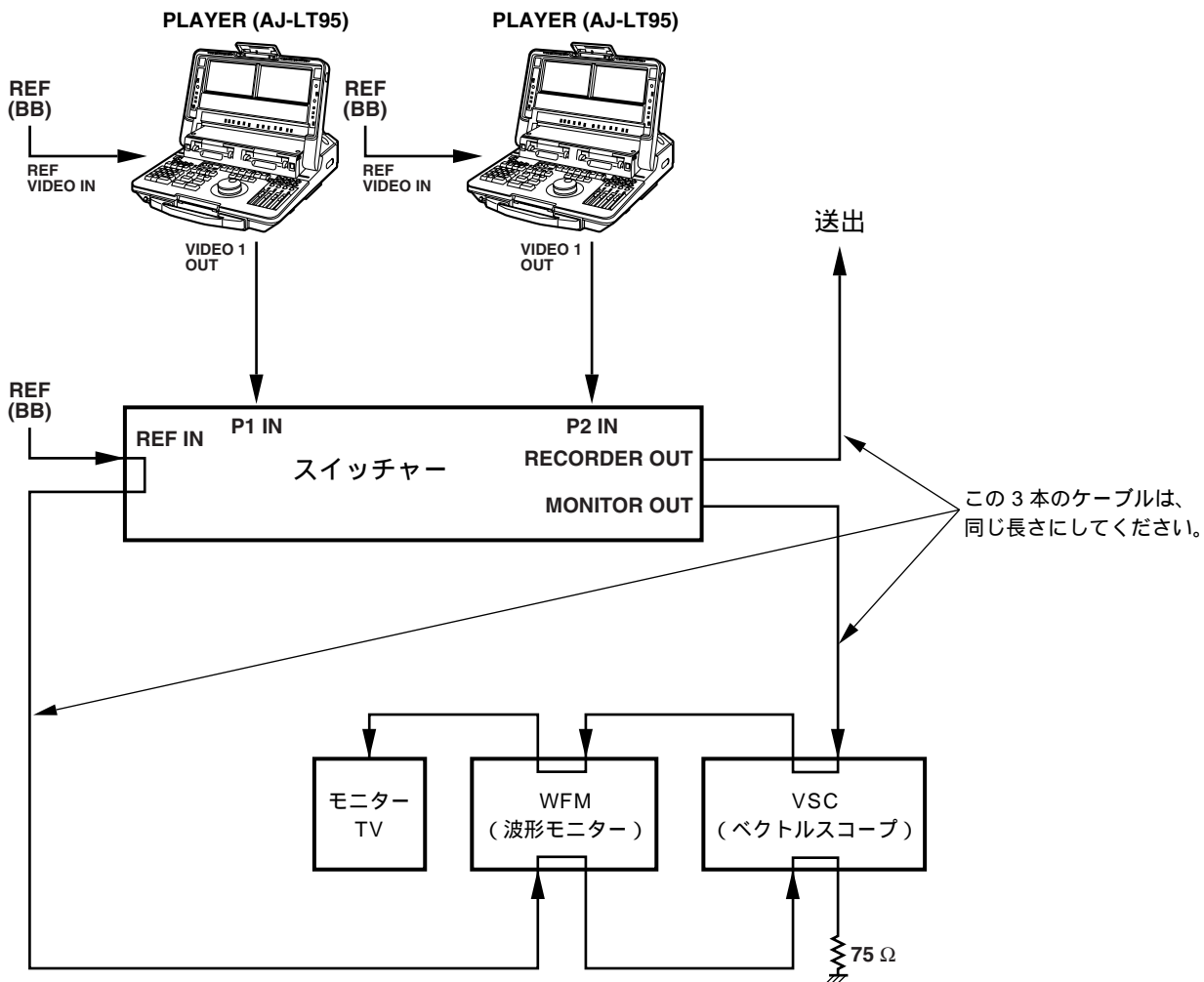


本機でエンコーダー調整を行うには

1 接続をします。

< ノート >

- 機器には、同期信号発生器から外部リファレンス信号を供給します。
- 映像信号はコンポジット接続です。



ウェーブフォームモニターやベクトルスコープがない場合は、実際にモニターを見ながら、色ズレが無くなるように調整にしてください。

エンコーダー調整


2 REMOTE/LOCAL スイッチ調整する位置 (LOCAL) にします。

3 ソース機単体で調整します。
セットアップレベル、ビデオレベル、クロマレベル、ヒューなどがずれていると、レコーダー側で色ズレが起きます。これらは再生機単体で調整します。

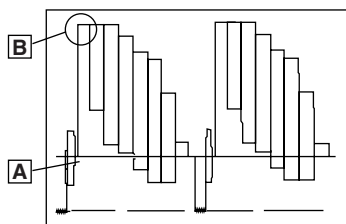
- ① 標準カラーバーの記録されているカセットテープを再生します。
- ② ウェーブフォームモニター (WFM) 、ベクトルスコープ (VSC) が以下になるように各つまみを調整します。

A セットアップレベル
ズレをなくすように調整します。

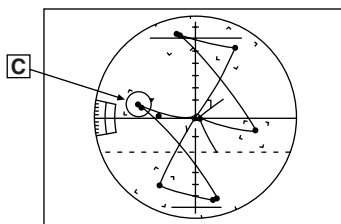
B ビデオレベル
100IRE に調整します。

C クロマレベル・ヒュー
2 つのつまみを調整して、マークに各ベクトル波形の光点を入れます。

■ WFM 上の波形



■ VSC 上の波形

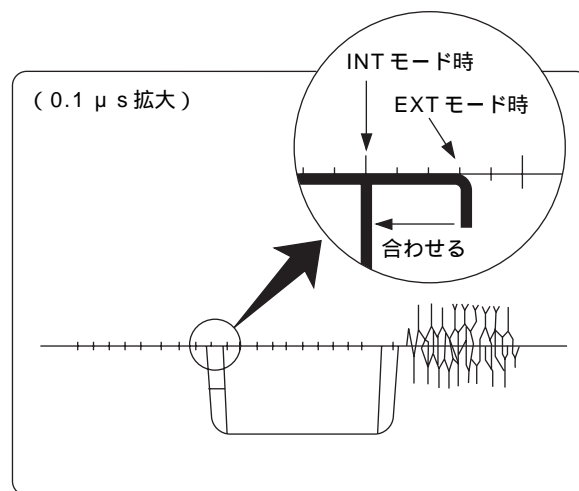


③ 接続しているソース機を同じように調整します。

4 SYSTEM PHASE を調整します。

- ① VTR1 で標準カラーバーを再生します。
- ② VTR1 の SYSTEM PHASE を調整します。
ウェーブフォームモニター (WFM) が以下になるように調整します。
 1. WFM は INT モードで、 $0.1 \mu s$ 拡大します。
 2. H SYNC の位置を確認します。
 3. そのまま WFM を EXT モードにします。
 4. EXT モードで、H SYNC を先ほどの位置に合わせるように、SYSTEM PHASE (H SC FINE/SC COARSE) つまみを調整します。

■ WFM 上の波形



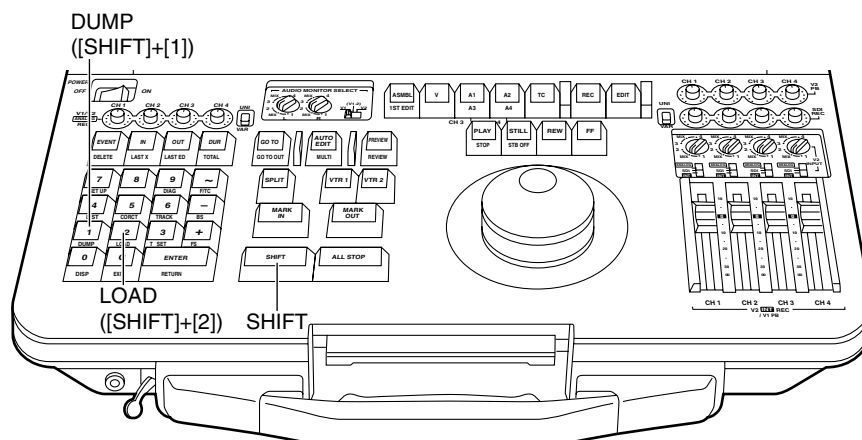
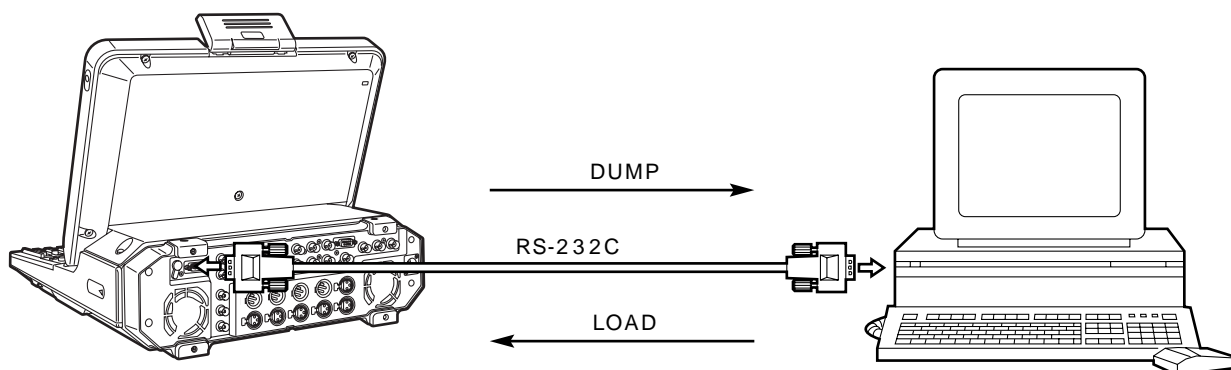
(SYNC の立ち上がりに着目する。)

編集データを外部機器に転送する (DUMP) / 取り込む (LOAD)

EDLメモリーに登録されている編集データは、後面のEDL端子を経由して、外部機器との受け渡しができます。

例えば、コンピュータにデータを出力したり、コンピュータからデータを受け取ったりすることにより、次のように幅広いシステム運用や管理を行うことができます。

- 本機でオフライン編集を行い、編集データをオンラインシステムで利用する。
- 編集データをハードディスクやフロッピーディスクに保存する。
- コンピュータのモニターやプリント出力で、編集データのチェックを行う。



編集データを外部機器に転送する (DUMP)

- 1** セットアップメニューのINTERFACEメニューで、通信条件や出力するデータのフォーマットを設定します。
- 2** コンピュータ等の外部機器を、データ受信できるようにします。
- 3** DUMP ([SHIFT] + [1]) ボタンを押します。VTR2 ボタンのLED が点滅し、イベント番号表示ランプには、送信しているイベント番号を表示します。

- 4** EDLメモリー内の編集データを全て送信すると、DUMP を終了します。途中でDUMP を中断する場合は、ALL STOP ボタンを押します。

< ノート >

- CONTROL スイッチのポジションが、「REMOTE」や「EXT VTR」のときはDUMP できません。
- DUMP を行うためには、コンピュータ等の外部機器の通信条件等も設定する必要があります。

編集データを外部機器に転送する (DUMP) / 取り込む (LOAD)

編集データを外部機器から転送する (LOAD)

1 セットアップメニューの INTERFACE メニューで、通信条件や受信するデータのフォーマットを設定します。

2 LOAD ([SHIFT] + [2]) ボタンを押します。VTR1 ボタンの LED が点滅し、データ受信モードになったことを示します。

3 コンピュータなどの外部機器から、データ送信します。イベント番号表示ランプに、受信しているイベント番号を表示します。

4 コンピュータの送信が終了すると、LOAD を終了します。また、EDL メモリーがいっぱいになった場合も、LOAD を終了します。途中で LOAD を中断する場合は、ALL STOP ボタンを押します。

< ノート >

- CONTROL スイッチのポジションが、「REMOTE」や「EXT VTR」のときは LOAD できません。
- LOAD を行うためには、コンピュータ等の外部機器の通信条件等も設定する必要があります。
- 本機が扱うことが出来ないフォーマットのデータを受信したり、修正や編集された EDL データを受信すると、正常に動作しないことがあります。

外部機器の設定や通信方法

外部機器の設定やデータの通信方法は、機器により異なります。

くわしい設定や操作については、機器や OS、通信用ソフトウェアに付属のマニュアルをご覧ください。

1 外部機器と通信プロトコルを一致させてください。本機の通信プロトコルは、セットアップメニュー No. 205 ~ 208 と No. 270 で設定できます。

(工場出荷時の設定：

ボーレート：9600bit/s、データ長：8bit、
ストップビット：1bit、パリティ：ODD、
FLOW CONTROL：無し)

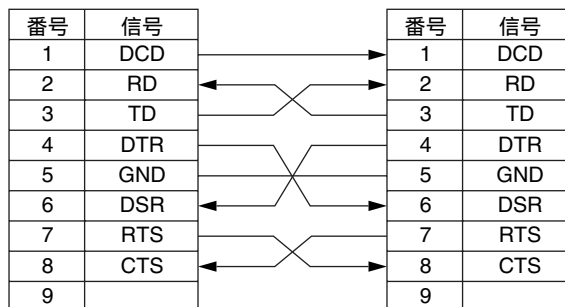
外部機器 (パソコン等) 側の設定は、スイッチや RS-232C 設定コマンド (MODE コマンドや SPEED コマンド) を使って設定します。

2 使用するケーブル：

インターリンクケーブル仕様の 9 ピンケーブル

AJ-LT95

パソコン



3 外部機器の RS-232C 端子でデータを受信する

① COPY AUX #####/A または、COPYA AUX ##### (##### にはファイル名を入力) と入力します。

② 本機の DUMP ([SHIFT] + [1]) ボタンを押します。

多くのパソコンは、この方法でデータの受信ができます。

4 外部機器の RS-232C 端子からデータを送信する

① COPY #####/B AUX または、COPYA #####AUX (##### にはファイル名を入力) と入力します。

② 本機の LOAD ([SHIFT] + [2]) ボタンを押します。

多くのパソコンはこの方法でデータの送信ができます。

編集データを外部機器に転送する (DUMP) / 取り込む (LOAD)

EDLフォーマットについて

パソコン等の外部機器に編集データを転送するときのデータフォーマットは、「AG-A850 フォーマット」と「CMX340 フォーマット」の2種類から選択できます。

セットアップメニュー No. 271 (EDL FORMAT) で設定してください。

■ AG-A850 フォーマット

EDLメモリの編集データを全て送信しますので、本機から送信したデータを再度本機にロードしたとき、編集データは完全に復元できます。ただし、セットアップメニュー No. 374 (EDL AUTO CLR) が「ON」の状態で作成したデータをロードする場合は、同じく「ON」の状態を受信する必要があります。

また、スプリット編集したデータは、EDLフォーマットの性質上、オーディオスプリットとビデオスプリットの区別ができませんので、通常は「AUDIO SPLIT」で使用してください。

[出力例]

TITLE: PANASONIC EDITING CONTROLLER AG-A850 (AJ-LT95)								
EVENT	REEL	MODE	TYPE	RANS	P-VTR IN	P-VTR OUT	R-VTR IN	R-VTR OUT
0001	0001	ASMBL	C		00:09:45:15	00:09:48:03	00:17:32.15	00:17:35.03
0002	0001	VA12	C		00:09:48:03	00:09:55:27	00:17:35.03	00:17:42.27
0003	AUDIO	SPLIT	REEL	0001		00:10:10:20		
0003	0001	VA12	C		00:09:55:27	00:10:12:10	00:17:42.27	00:17:59:10
0004	0001	VA1234	C		00:10:12:10	00:10:17:21	00:17:59:10	00:18:04.23
0005	0001	ASMBL	C		00:10:17:21	00:10:22:23	00:18:04:23	00:18:09:25
0006	0001	VA12	C		00:10:22:23	00:10:24:13	00:18:09:25	00:18:11:15
0007D	0001	VA12	C		00:10:24:13	00:10:35:15	00:18:11:15	00:18:18:18
0008	0001	VA12	C		00:10:35:15	00:10:41:22	00:18:18:18	00:18:27:21
0009	0001	ASMBL	C		00:10:41:22	00:10:41:22	00:18:27:21	00:18:27:21
0009		SPEED	REEL	0001	000	00:10:41:22		
0010	0001	VA12	C		00:10:41:23	00:10:43:00	00:18:27:21	00:18:28:28

↑ イベント番号
D : 削除されたイベント

↑ リール番号
0001 (本機では0001のみ)

↑ 編集モード
ASMBL : アセンブル編集、VA12、VA1234 : インサート編集

↑ エフェクト
C : カット (本機ではカットのみ)

↑ プレーヤIN点

↑ OUT点

↑ レコーダIN点

↑ OUT点

< ノート >

- AG-A850 で編集したデータを本機に入力した場合、下記の制限があります。
 - イベント番号 : イベント番号は無視され、先頭から順に200イベント分を受信します。
 - リールNo. : 全てのリールNo. は、0001として受信します。
 - エフェクトタイプ : カット編集のイベントだけを受信します。
 - スロー編集 : スロー編集では、スピードデータ0 (STILL) のイベントだけを受信します。
- 本機で編集したデータをAG-A850に入力した場合、下記の制限があります。
 - 編集モード : TCインサートは無視されます。

編集データを外部機器に転送する (DUMP) / 取り込む (LOAD)

■ CMX340 フォーマット

- 一部のデータが変換されますので、DUMPしたデータを再度LOADしても、完全には復元されません。
 - イベント番号 : 削除したイベントの番号は、詰めて送信されます。
受信時は、イベント番号が無視され、先頭から順に200イベント分を受信します。
 - リールNo. : 全てのリールNo. は、0001として受信します。
 - 編集モード : アセンブル編集は、インサート編集 (V, A1, A2, A3, A4) に変換して出力します。
 - エフェクトタイプ : カット編集のイベントだけを受信します。
 - スロー編集 : スロー編集では、スピードデータ0 (STILL) のイベントだけを受信します。
 - スプリット編集 : 全てオーディオスプリット (レコーダ基準) で登録したものとして受信します。

スーパーインポーズ画面

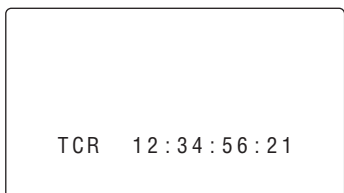
本機のLCDモニターやVIDEO MONITOR OUT端子からの出力信号に、文字や記号をスーパーインポーズすることができます。

DISP ([SHIFT] + [0]) ボタンを押すと、スーパーインポーズの「ON」「OFF」を切り替えることができます。

また、セットアップメニュー No. 002 (DISPLAY SEL) で、スーパーインポーズして表示する内容を選択できます。

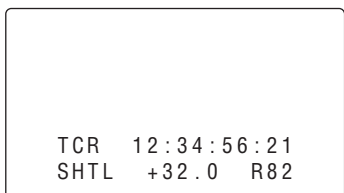
■ TIME モード

カウンター値を表示する、1行表示モードです。



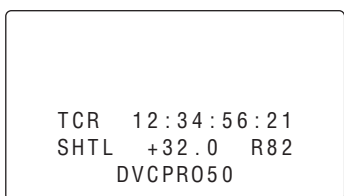
■ T&STA モード

カウンター値とVTRの動作モードを表示する、2行表示モードです。



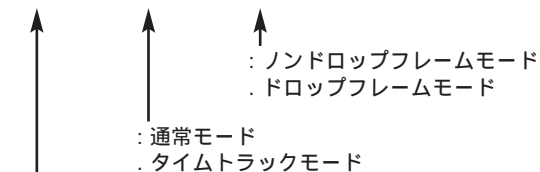
■ T&S&M モード

カウンター値とVTRの動作モード、テープ残量を表示する、3行表示モードです。



TIME 行の表示内容：

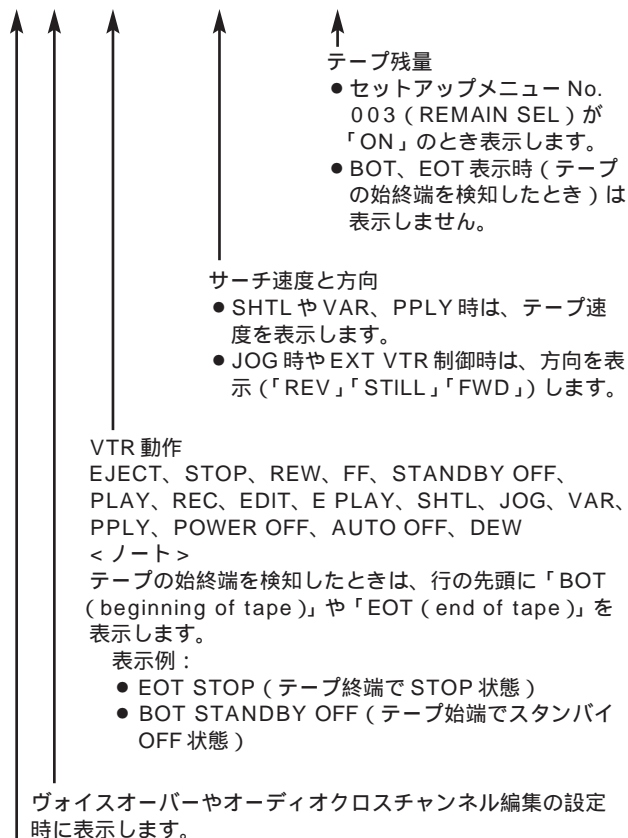
TCR 12:34:56:21



- CTL : コントロール信号
- TCR : タイムコードリーダーの値
- T*R : タイムコードリーダーの値 (読みとり NG のとき)
- UBR : ユーザーズビットの値 (ユーザーズビット表示時はカウンターにコロンなし)
- U*R : ユーザーズビットの値 (読みとり NG のとき)

STATUS (VTR 動作モード) 行の表示内容：

o m SHTL +32.0 R82



ヴォイスオーバーで、内部メモリーに入力音声の書き込みを開始してから 20 秒を経過すると表示し、メモリーがいっぱいになったことを示します

MODE 行の表示内容：

- テープフォーマット
カセットテープのフォーマットを表示します。
表示例：DVCPR050
- エラーメッセージ
エラー発生時等に、ワーニングメッセージや AUTO OFF メッセージを表示します。
詳細は、「エラーメッセージ」(90、91 ページ) を参照してください。

エラーメッセージ

本機に異常が発生した場合には、下記のエラーメッセージが表示されます。

VTRはオートオフモード（停止）または、強制的に電源を切ります。

一旦電源を切り、再度電源を入れてもエラーが表示される場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

表示管	スーパー表示	内 容	VTRの動作
d	DEW	結露が発生しています。 電源を入れた状態でエラーメッセージが消えるまでお待ちください。 セットアップメニュー No.170 HUMID OPEがOFFに設定されている場合は、表示管に「d」が点灯し、スーパー表示に「DEW」が表示されます。	EJECT ボタンのみの操作が有効になります。 カセットテープが挿入されているときは、ローディング動作を行いません。 カセットテープが挿入されていないときは、シリンドラが回転します。
「d」とカウンタ値を交互に表示	VTRのモード	HUMID OPEがONに設定されている場合は、表示管に「d」とカウンタ値が交互に表示され、スーパー表示にはVTRのモードを表示します。	動作継続
—	SERVO NOT LOCKED	再生や記録、編集時にサーボが3秒以上外れたときに表示されます。	動作継続
—	LOW RF	再生時に、エンベレベルが通常の1/3のしか出力されない状態が、1秒以上続いたときに表示されます。	動作継続
—	HIGH ERROR RATE	エラーレートが悪化し、ビデオ再生信号やオーディオ再生信号に、修正や補間がかかったときに表示されます。	動作継続
E-10 (ファンが停止してから20分後に5秒間表示)	FAN STOP	ファンモーターが停止しています。 停止した状態で約20分経過すると、強制的に電源を切ります。	動作継続/電源OFF
E-27	REEL STAND MOTOR	カセットテープが挿入された後、テープの大きさに合わせて動作するリール台が2.5秒以上ロックされたときに表示されます。	EJECT/オートオフ
E-29	FRONT LOAD MOTOR	カセットテープ挿入後、4秒経過してもカセットダウンしないときや、EJECT後、4秒経過してもカセットが出てこないときに表示されます。	DOWN/EJECT
E-31	LOADING MOTOR	ローディング動作が4秒以内に完了しないときに表示されます。	EJECT
E-32	UNLOADING MOTOR	アンローディング動作が4秒以内に完了しないときに表示されます。	オートオフ
E-35	SERVO CONTROL ERR	サーボマイコンからの応答が1秒以上ないときに表示されます。	オートオフ
E-36	SERVO ERROR	瞬時停電などにより、サーボマイコンのみがRESETされたときに表示されます。	オートオフ
E-37	SERVO COMM ERROR	サーボマイコンが10秒経過してもシステムコントロールマイコンの指示に従わないときに表示されます。	オートオフ
E-51	FRONT LOAD ERROR	ローディング途中（ハーフポジション）の終始端動作で、巻き取りリール側が一定時間空回りしたときに表示されます。	オートオフ
E-52	W-UP REEL NOT ROTA	カセットテープ挿入後、テープ総量が未検出状態で、テープ走行中に巻き取りリールがテープを巻き取っていないときに表示されます。	オートオフ
E-53	WINDUP ERROR	テープ総量を検出後、テープ走行中に巻き取りリールの巻き取り量と、供給リールの送り出し量が、異常に異なったときに表示されます。	オートオフ
E-55	UNLOAD ERROR	アンローディング時に、テープを巻き取らなかったときに表示されます。	オートオフ

エラーメッセージ

表示管	スーパー表示	内 容	VTR の動作
E-57	S-FF/REW TIMEOVER	テープの始末端処理動作が終了しないときに表示され ます。	オートオフ
E-59	DRUM ROTA TOO SLOW	シリンダーモーターの回転数が異常に低いときに表示 されます。	オートオフ
E-59	DRUM ROTA TOO FAST	シリンダーモーターの回転数が異常に高いときに表示 されます。	オートオフ
E-61	CAP ROTA TOO SLOW	キャプスタンモーターの回転数が異常に低いときに表示 されます。	オートオフ
E-64	S REEL TOO FAST	供給側リールモーターの回転数が異常に高いときに表示 されます。	オートオフ
E-67	T REEL TOO FAST	巻き取り側リールモーターの回転数が異常に高いときに 表示されます。	オートオフ
E-69	T REEL TORQUE ERR	巻き取り側リールモーターに、異常なトルクがかかって いることを検出したときに表示されます。	オートオフ
E-70	S REEL TORQUE ERR	供給側リールモーターに、異常なトルクがかかっている ことを検出したときに表示されます。	オートオフ
E-71	CAP TENSION ERROR	キャプスタンモード時、供給側のテープテンションに異 常を検出したときに表示されます。	オートオフ
E-72	REEL TENSION ERROR	リールモード時、供給側のテープテンションに異常を検 出したときに表示されます。	オートオフ
E-73	REEL DIR UNMATCH	巻き取り側リールモーターが逆回転をしたときに表示さ れます。	オートオフ
E-81	SOL NG	ソレノイド駆動回路に異常を検出したときに表示されま す。 エラーメッセージを表示した後、強制的に電源を切ります。	電源 OFF
E-82	C SOL NG	クリーニングソレノイド駆動回路に異常を検出したとき に表示されます。 エラーメッセージを表示した後、強制的に電源を切ります。	電源 OFF
E-BA	BATTERY	入力 DC 電圧が、アンダーカット電圧 (約 10.6V) 以下 になったときに表示されます。 エラーメッセージを表示した後、強制的に電源を切ります。	電源 OFF

ビデオヘッドクリーニング

本機には、自動的にヘッドの汚れを軽減するオートヘッドクリーニング機能が付いていますが、より信頼性を高めるために適時ビデオヘッドを清掃することをお勧めいたします。
なお、具体的なクリーニング方法についてはサービス会社または販売会社にご相談ください。

結露

露付きが起こるのは、暖房された部屋の窓ガラス一面に水滴 (露) がつくのと同一原理です。
本機やテープを温度・湿度差の大きいところへ移動したときに起こります。

- 湯気が立ちこもる湿度の高いところや、暖房した直後の部屋へ移動したとき。
- 冷房されているところから、急に温度・湿度の高いところへ移動したとき。

このようなところへ移動したときは、すぐ電源を入れずに 10 分程度放置したままお待ちください。もし、本機に結露が発生したときは、カウンター表示部にエラーメッセージ「d」が点灯し、カセットテープは自動的に排出されます。

そのまま電源を入れた状態で、エラーメッセージが消えるまでお待ちください。

お手入れについて

お手入れ前には、電源スイッチを OFF にし、必ず電源プラグを持ってコンセントから抜いてください。

キャビネットの清掃は柔らかい布で行ってください。汚れのひどいときは、台所洗剤をうすめ、布に浸して固く絞って拭きます。汚れをふき取ったのち、乾いた布で仕上げを行ってください。シンナー、ベンジンはご使用にならないでください。

アフターサービス

アフターサービスについて

1. 保証書...内容のご確認と保存のお願い
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入を確かめて、お買い上げの販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
 2. 保証期間...お買い上げ日から1年間
取扱説明書および本体貼付ラベル等の注意事項に従った正常なご使用状態で、保証期間内に万一故障を生じた場合には、保証書記載事項に基づき、販売店で「無料修理」させていただきます。保証期間内でも次の場合には、原則として有料にさせていただきます。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (ロ) お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)などによる故障および損傷
 - (ニ) その他指定外の使用条件で使用された場合に生じた故障および損傷
 - (ホ) 他の接続機器および接続部材に起因して生じた故障および損傷
 - (ハ) 別に指定する* 磨耗性の部品、あるいは付属品の故障および損傷
 3. 補修用性能部品の最低保有期間
本機の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
 4. 修理を依頼される前に
この取扱説明書をよくお読みのうえ、「故障かな?」と思う前に」の項を点検していただき、なお異常があるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店にお申しつけください。
 5. ご転居・定期保守サービス等ご不明な点は、お買い上げの販売店にご相談ください。
- * 磨耗性の部品とは、下記部品類です。

- | | |
|-----------|----------|
| ● ビデオヘッド | ● 各種ベルト |
| ● ピンチローラー | ● ゴムプリー類 |
| ● 各種プレーキ | ● ローラー類 |
| ● モーター類 | ● ヘッド類 |

定期保守のおすすめ

ビデオは

- 複雑なメカニズムで構成されており、ベルト、ローラー、ヘッドなどが数多く使用されています。
- これら部品は、使用時間が経過するにつれて磨耗劣化し、故障の原因となります。
- また、ホコリ、ゴミなども安定した機能を妨げ、トラブル発生の原因となります。

このため、単に将来の故障発生時に行うアフターサービスにとどまらず、総合的なサービス、即ちビデオシステムの機能を正常に維持させ、消耗部品などによる突発的な故障を未然に防ぐために、保守サービス(メンテナンス)を定期的に行うことが非常に大切であるといえます。定期保守サービス(有料扱い)については、お買い上げの販売店にご相談ください。

定 格

【総合】

電源電圧	DC12V
入力電流	12A

 は安全項目です。

動作周囲温度：

5 ~ 40

動作周囲湿度：

10% ~ 85% (結露なし)

重量：

12.9kg

外形寸法：

424 (幅) × 120 (高さ) × 435 (奥行き) mm

記録フォーマット：

DVCPRO 50 フォーマット / DVCPRO フォーマット切り替え

記録ビデオ信号：

525i/625i 切り替え (アナログ入力時は 525i のみ)

記録オーディオ信号：

DVCPRO 50 : 48kHz、16bit、4 チャンネル

DVCPRO : 48kHz、16bit、2 チャンネル

記録トラック：

- デジタル・ビデオ / オーディオ：
ヘリカルトラック
- TC：
ヘリカルトラック (サブコード領域)
- キュー信号：
1 トラック
- コントロール (CTL)：
1 トラック

テープスピード：

DVCPRO 50 (525i) : 67.640 mm/秒

DVCPRO 50 (625i) : 67.708 mm/秒

DVCPRO (525i) : 33.820 mm/秒

DVCPRO (625i) : 33.854 mm/秒

記録時間：

DVCPRO 50 :

92 分 (AJ-5P92LP 使用時)

33 分 (AJ-5P33MP 使用時)

DVCPRO :

184 分 (AJ-P184LP 使用時*)

66 分 (AJ-P66MP 使用時)

*AJ-P184LP にて DVCPRO (25M モード) で記録されたテープは、DVCPRO (25M モード) 長時間テープ対応 VTR にてご使用ください。

使用テープ：

メタルテープ

FF/REW 時間：

3.5 分以内 (AJ-5P92LP 使用時)

編集精度：

± 0 フレーム (タイムコード使用時)

テープタイマー精度：

± 2 フレーム (連続 CTL 信号使用時)

サーボロック時間：

0.5 秒以内

定 格

【ビデオ】

■ デジタルビデオ (VTR1、2 共通)

サンプリング周波数:

- DVCPRO 50

Y : 13.5MHz

P_B/P_R : 6.75MHz

- DVCPRO

Y : 13.5MHz

P_B/P_R : 3.375MHz

量子化:

8bits

ビデオ圧縮方式:

DCT+ 可変長符号

ビデオ圧縮比率:

- DVCPRO 50

1/3.3

- DVCPRO

1/5

エラー訂正:

リードソロモン積符号

■ デジタル IN/アナログコンポーネント OUT (VTR2 のみ)

映像帯域 (DVCPRO 50):

- 525i

Y : 30Hz ~ 5.5MHz (± 1dB)
5.75MHz (- 3dB)

P_B/P_R : 30Hz ~ 2.5MHz (± 1dB)
2.75MHz (- 3dB)

- 625i

Y : 25Hz ~ 5.5MHz (± 1dB)
5.75MHz (- 3dB)

P_B/P_R : 25Hz ~ 2.5MHz (± 1dB)
2.75MHz (- 3dB)

S/N:

57dB 以上

Kファクター:

2%以下

■ アナログコンポーネント IN/アナログコンポーネント OUT (VTR1、2 共通)

映像帯域 (DVCPRO 50):

- 525i

Y : 30Hz ~ 5MHz (± 1dB)

P_B/P_R : 30Hz ~ 2.5MHz (± 1dB)
2.75MHz (- 3dB)

S/N:

54dB 以上

Kファクター:

2%以下

■ アナログコンポジット IN/アナログコンポジット OUT (VTR1、2 共通)

映像帯域:

- 525i

Y : 30Hz ~ 4.5MHz (± 1.5dB)

DG:

5%以下

DP:

3.5 °以下

Y/C デイレイ:

20 nsec 以下

Kファクター:

2% 以下

定 格

【オーディオ】

- デジタルオーディオ (VTR1、2 共通)
 - サンプリング周波数：
 - 48kHz
 - 量子化：
 - 16 bits
 - 周波数特性：
 - 20Hz ~ 20kHz \pm 1dB (基準レベルにて)
 - ダイナミックレンジ：
 - 85dB 以上 (1kHz、エンファシス Off、“A” weighted)
 - 歪率：
 - 0.1% 以下 (1kHz、エンファシス Off、基準レベル)
 - クロストーク：
 - 80dB 以下 (1kHz、2 チャンネル間)
 - ワウ&フラッター：
 - 測定可能値以下
 - ヘッドルーム：
 - 525i : 20dB
 - 625i : 18dB
 - エンファシス；
 - T1=50 μ sec/T2=15 μ sec (On/Off 可)

【調整】

- ビデオ出力信号 (VTR1、2 独立)
 - ビデオゲイン：
 - \pm 3dB 以上
 - クロマゲイン：
 - \pm 3dB 以上
 - ヒュー：
 - \pm 30° 以上
 - セットアップ：
 - \pm 10 IRE
 - H 位相：
 - \pm 8 μ sec 以上
 - SC 位相：
 - \pm 180°

定 格

【入出力端子】

■ ビデオ

アナログコンポーネント入力：

BNC × 6 ([Y/P_B/P_R] × 2)(VTR1、VTR2)

Y : 1.0V [P-P]、75 Ω、アナログコンポジット入力と切り替え

P_B/P_R : 0.525/0.757V [P-P] 切り替え、75 Ω (75%カラーバー、0%セットアップ)

アナログコンポジット入力：

BNC × 2 (VTR1、VTR2) 1.0V [P-P]、75 Ω、アナログコンポーネントY入力と切り替え

リファレンス入力：

BNC × 2 (ループスルー) 75 Ω ON/OFF 自動切り替え

シリアルコンポーネントデジタル入力：

BNC × 2 (アクティブスルー) SMPTE259M-C規格に準拠

アナログコンポーネント出力：

BNC × 6 ([Y/P_B/P_R] × 2)(VTR1、VTR2)

Y : 1.0V [P-P]、75 Ω、アナログコンポジット出力と切り替え

P_B/P_R : 0.525/0.757V [P-P] 切り替え、75 Ω (75%カラーバー、0%セットアップ)

アナログコンポジット出力：

BNC × 2 (VTR1、VTR2) 1.0V [P-P]、75 Ω、アナログコンポーネントY出力と切り替え

モニター出力：

BNC × 2 (VTR1、VTR2) アナログコンポジット、1.0V [P-P]、75 Ω、スーパーインポーズ ON/OFF

シリアルコンポーネントデジタル出力：

BNC × 1、SMPTE259M-C規格に準拠

■ オーディオ

アナログ入力：

XLR × 4 ([VTR1 CH1/2・VTR2 CH1/2]、[VTR1 CH1/2/3/4]、[VTR2 CH1/2/3/4] 切り替え)

600 Ω/ハイインピーダンス切り替え、+4/0/-3/-20dBu切り替え
VTR2 CH2入力(No. 2端子)のみ、+4/0/-3/-20/-60dBu切り替え

シリアルデジタル入力：

BNC × 2 (アクティブスルー) SMPTE259M-C規格に準拠

アナログ出力：

XLR × 4 ([VTR1 CH1/2・VTR2 CH1/2]、[VTR1 CH1/2/3/4]、[VTR2 CH1/2/3/4] 切り替え) ローインピーダンス、+4/0/-3/-20dBm切り替え(600 Ω負荷時)

モニター出力：

XLR × 2 (L/RまたはVTR1/2) ローインピーダンス、0dBu

シリアルデジタル出力：

BNC × 1、SMPTE259M-C規格に準拠

ヘッドホン：

M3ステレオ、レベル可変(MAX - 25dBu) 8 Ω、VTR1/VTR2切り替え、L/STEREO/R切り替え

■ その他

TC入力：

BNC × 1、0.5 ~ 8V [P-P]、10k

TC出力：

BNC × 2 (VTR1、VTR2、ビデオモニター出力端子切り替え) 2.0V [P-P]、75 Ω

リモート：(525iモードのみ)

D-sub 9pin × 2 (VTR1、VTR2) RS-422A インターフェイス

VTR1はREMOTE IN/OUT切り替え、

VTR2はREMOTE INのみ

EDL入出力：

D-sub 9pin、RS-232C インターフェイス

定 格

【LCD モニター】

LCD パネル：

7型ワイドTFTアクティブマトリクス×2
(VTR1、VTR2)、ワイド/ノーマル切り替え(ノーマルはサイドブラック)、525i/625i切り替え

輝度調整：

可変ボリューム×2 (VTR1、VTR2)

画質調整：

カラー、ティント(左右独立OSDメニュー)
(ティントは525iモードのみ)

バックライト切り替え：

明/暗/OFF(左右独立スイッチ)

【スピーカー】

内蔵スピーカー×2、VTR1/VTR2切り替え、
L/STEREO/R切り替え

【表示管】

■ カウンター / モード表示管 (VTR1、2)

カウンター：

8桁(CTL/TC/UB切り替え、トータル、テープ残量、DC電圧)

オーディオレベルメータ：

16セグメント、4チャンネル、FULL/FINE切り替え

その他：

625、25/50Mbps、CF、サーボロック、テープ走行状態、DF、ワイド、記録/編集記録/記録禁止、ビデオ/REF入力、SDI出力

■ イベント / 編集点表示管

イベント番号、編集IN/OUT点、スプリット(A SPまたはV SP)、スプリットIN点

松下電器産業株式会社 放送システム事業部

☎ 571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎ (06) 6901 - 1161